豚便所
飼養形態からみた豚文化の特質

The Toilet Pigsty

西谷 大

はじめに
❶分類
❷出土例
❸成立と受容
❹豚文化の特質
❺弥生時代の豚

[論文要旨]

豚便所とは畜舎に便所を併設し，人糞を餌として豚を飼養する施設である。豚便所形明器の分析からその分布には偏りがあり，成立の要因も地域によって異なることを明らかにした。豚便所は黄河中下流域で，戦国期の農耕進展による家畜飼養と農耕を両立させるため，家屋内便所で豚の舎飼いをおこない，飼料のコスト削減を目的として成立したと考えられる。一方豚便所のもう一つの重要な機能である廏肥の生産と耕作地への施肥との積極的な結びつきは，後漢中期以降に本格化する可能性が高いと推定した。黄河中下流域で成立した豚便所は，周辺地域へと広がるが，各地の受容要因は地域性が認められる。長江流域の水田地域の豚便所普及は，華北的農耕の広がりに伴う農耕地への施肥が，水田地にも応用されたことが契機になっている。一方，華南の広州市地域における豚便所の受容は，華北の豚便所文化を担った集団の移住による強制的な受容形態である。中国における豚飼養は，人糞飼料・畜糞・施肥を媒体とし，農耕と有機的に結合したシステムを形成しただけでなく，さらに祭祀儀礼などと複雑に結びつく多目的多利用型豚文化を展開した点に特質がある。一方日本列島で，中国的豚文化を受容しなかった一つの要因として，糞尿利用に対する拒否的な文化的態度の存在が指摘できよう。弥生時代には，豚は大陸からもちこまれ，食料としてだけでなくまつりにも重要な役割をはたした。しかし弥生時代以降の豚利用は，食料の生産だけにその飼養目的を特化した可能性が高い。その後奈良時代になると，宗教上の肉食禁忌の影響・国家の米重視の政策など，豚飼養を維持する上で不利な歴史的状況に直面する。食料の生産以外に，農耕・祭祀など多目的な結びつきが希薄だった日本列島の豚文化は，マイナスの要因を排除するだけの，積極的な動機づけを見いだせず，その結果豚飼養は衰退への道をたどっていったのではと考えられる。

はじめに

豚便所とは，畜舎と便所が合体し，主として人糞を飼料とし豚を飼育することを目的とした施設である。漢時代，豚便所は中国各地の墓から生活明器として出土しており，広く分布していたことがわかっている。小稿では，漢代を中心とした豚便所明器（以後豚便所と呼ぶ）を集成し，文献資料を参考にしながら，豚便所の成立の過程と要因について考察する。また豚便所が中国各地に拡散し，受容していく様相を概観し，その背後にある意味を考えてみたい。

弥生時代に，水田稲作とともに日本列島に伝わった豚は，奈良時代以降，列島の歴史からその姿を消していく。中国での豚は現在に至るまで家畜として主要な位置をしめており，最近の統計でも肉類の消費の約80%は豚肉である。日本列島では，琉球列島を除いてなぜ近代にいたるまで豚飼養を積極的におこなわなかったのか。漢時代の豚便所を通じて考察した人と豚との関わり方を参考にしつつ，日本列島における豚飼養の問題を考える足がかりとしたい。

❶……分類

中国考古学では，豚を飼育する畜舎と，畜舎と便所が合体した構造をもつ施設の両者をともに一般には「猪圏」と呼称する場合が多い。小稿では用語の整理と型式分類を以下のようにおこなうとともに，「豚便所型明器」を使ってその諸相を探ることを目的とするため，通常使われる「～型明器」の語句も省略する。

「豚舎」とは，豚を飼養する小屋とし，便所を併設しないものを指す。「豚便所」とは，豚舎と便所が合体した構造で，豚に餌としての人糞を与える機能を有するものを指す。張建林・范培松の型式分類を参考にしつつ［張・范 1987］[(1)]，豚舎と便所との位置関係と機能を重視して新たに豚便所を以下のように分類した。（図1）。

I 豚舎

便所は合体せず，小屋部分だけが独立する豚舎であり，豚を飼育する機能しかもたない。さらに豚舎の構造から2分類する。

①豚舎型　豚舎の平面型が円形かもしくは方形で，屋根をもたない。周囲に柵または塀を巡らせる。

②豚舎屋根付型　豚舎上部を屋根で覆うかもしくは，餌箱上部に屋根をもつ。豚舎の平面形が円形および方形のものを含む。

II 豚便所

(1) 人糞直床式豚便所

豚は飼料である人糞を，直接便所の床面または，床面に設置した便器から得る。この方式を「人糞直床式」と呼ぶことにする。豚舎と便所の位置関係によって3分類する。

①便所豚舎分離型　便所と豚舎が同一敷地内に同居するが，便所部分は豚舎に近接せず分離する。

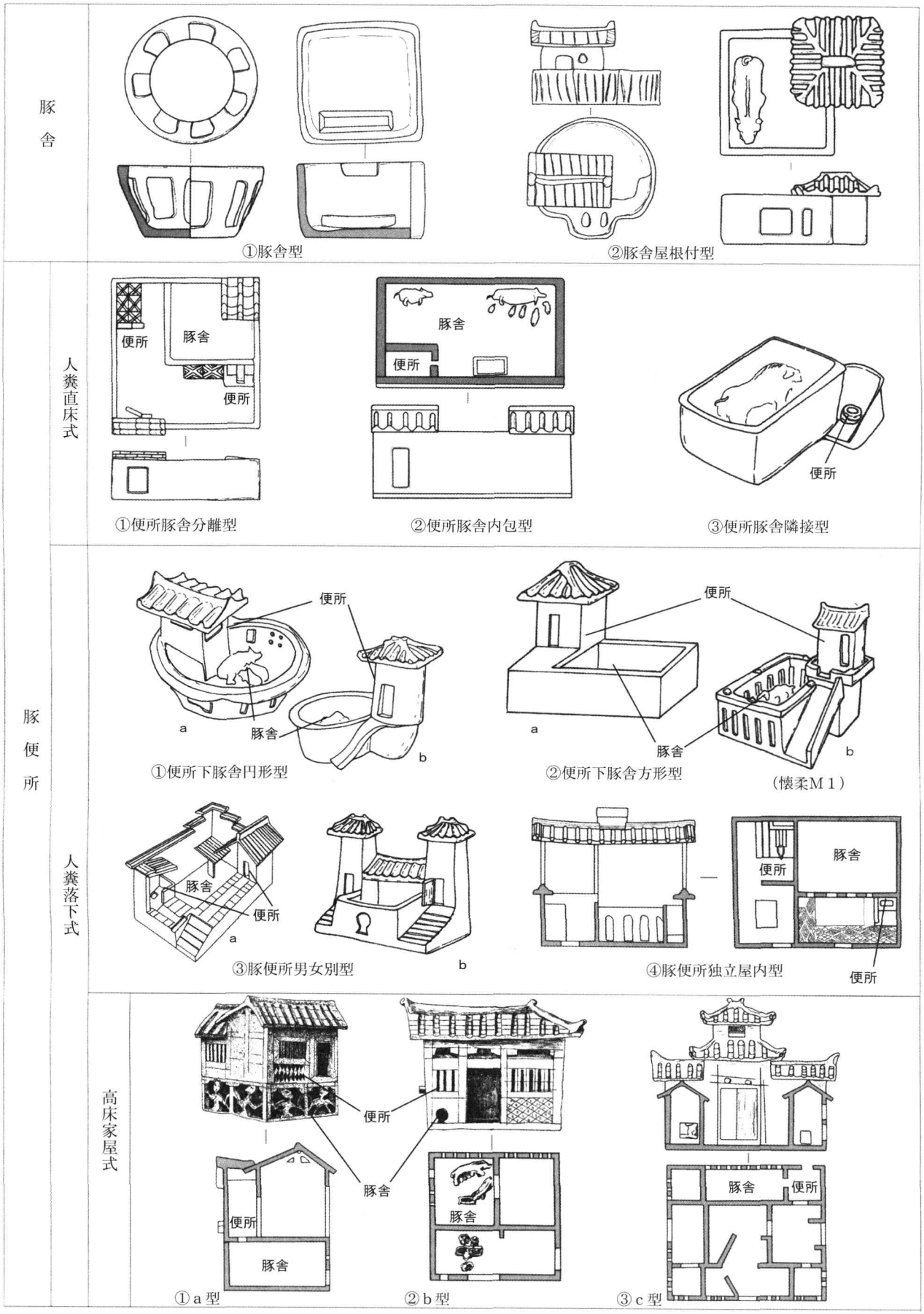

豚舎
①豚舎型
②豚舎屋根付型
豚便所
人糞直床式
便所
豚舎
便所
①便所豚舎分離型
豚舎
便所
②便所豚舎内包型
便所
③便所豚舎隣接型
人糞落下式
便所
a
豚舎
b
①便所下豚舎円形型
便所
a
豚舎
b
②便所下豚舎方形型
（懐柔M１）
豚舎
便所
a
③豚便所男女別型
b
豚舎
便所
便所
④豚便所独立屋内型
高床家屋式
便所
豚舎
便所
豚舎
豚舎
豚舎
便所
①ａ型
②ｂ型
③ｃ型

図１　型式分類

豚舎を囲む塀の一部に餌を投入する施設を設け，人糞を豚便所まで運んで餌として与える。

②便所豚舎内包型　豚舎の内部に便所を設ける。豚は便所から直接人糞を摂取できるよう，豚舎内の便所を囲む塀の一部に穴を開ける。明器からだけでは判断がつかないが，おそらく豚は便所内に直接出入りするか，または頭だけを突っ込み人糞を食する構造だと推定している。

③便所豚舎隣接型　豚舎の塀に，便所を隣接して設ける。塀下部に穴を穿ち，豚が便所の人糞を食する構造である。

(2) 人糞落下式豚便所

便所の下に，豚舎を設ける構造である。豚舎を囲む塀より上に設置した便所の床に穴を穿つ。人糞は，便所の床から豚舎内の床面に落下し，それを豚が餌として食する構造である。この方式を「人糞落下式」と呼ぶことにする。基本的な機能は同じであるが，豚舎の形と，便所と豚舎の位置によって4分類する。

①便所下豚舎円形型　a　豚舎の平面形が円形に近く，便所を豚舎内部に設ける。
　　b　豚舎の平面形が円形に近く，便所を豚舎外部に設ける。

②便所下豚舎方形型　a　豚舎の平面形が方形に近く，便所を豚舎内部に設ける。
　　b　豚舎の平面形が方形に近く，便所を豚舎外部に設ける。

人糞落下式の豚便所を，豚舎内かまたは豚舎に隣接して2カ所に設ける。分離した便所は，おそらく男女別の機能であろう。便所の位置によって細分する。

③豚便所男女別型

2カ所の便所を有し，その下に設けた豚舎平面形が方形を呈する。

a　畜舎の対角線上の2カ所に，便所を設ける。

b　畜舎を中心として，その両側に併行して便所を設ける。

④豚便所独立屋内型

2カ所の便所と豚舎を，屋内に設置したものである。便所は豚舎に隣接して設ける。人糞は，大便と小便に分離できる構造で，大便は豚舎上から豚舎床に落下する人糞落下式である。

(3) 高床家屋式豚便所

高床家屋の住居の下が畜舎になり，上部の家屋部分の一部屋が便所になる構造である。人糞は，2階の床に穿たれた穴から豚舎の床面に落下する人糞落下式である。

a　高床家屋の1階が，畜舎になっており，その周囲を塀で囲む。畜舎の一部は，建物床面積より広く，そのため一部は屋外に露出し屋根をもたない。

b　構造は，aと基本的に同じである。1階が畜舎と，畜舎以外の機能をもつ部屋に分かれる。1階部分の畜舎に占める面積が，他の機能をもつ部屋の面積を上回る。

c　構造は，a・bと同様である。1階部分が2室以上の部屋をもち，畜舎以外の機能をもつ部屋の面積が畜舎を上回る。

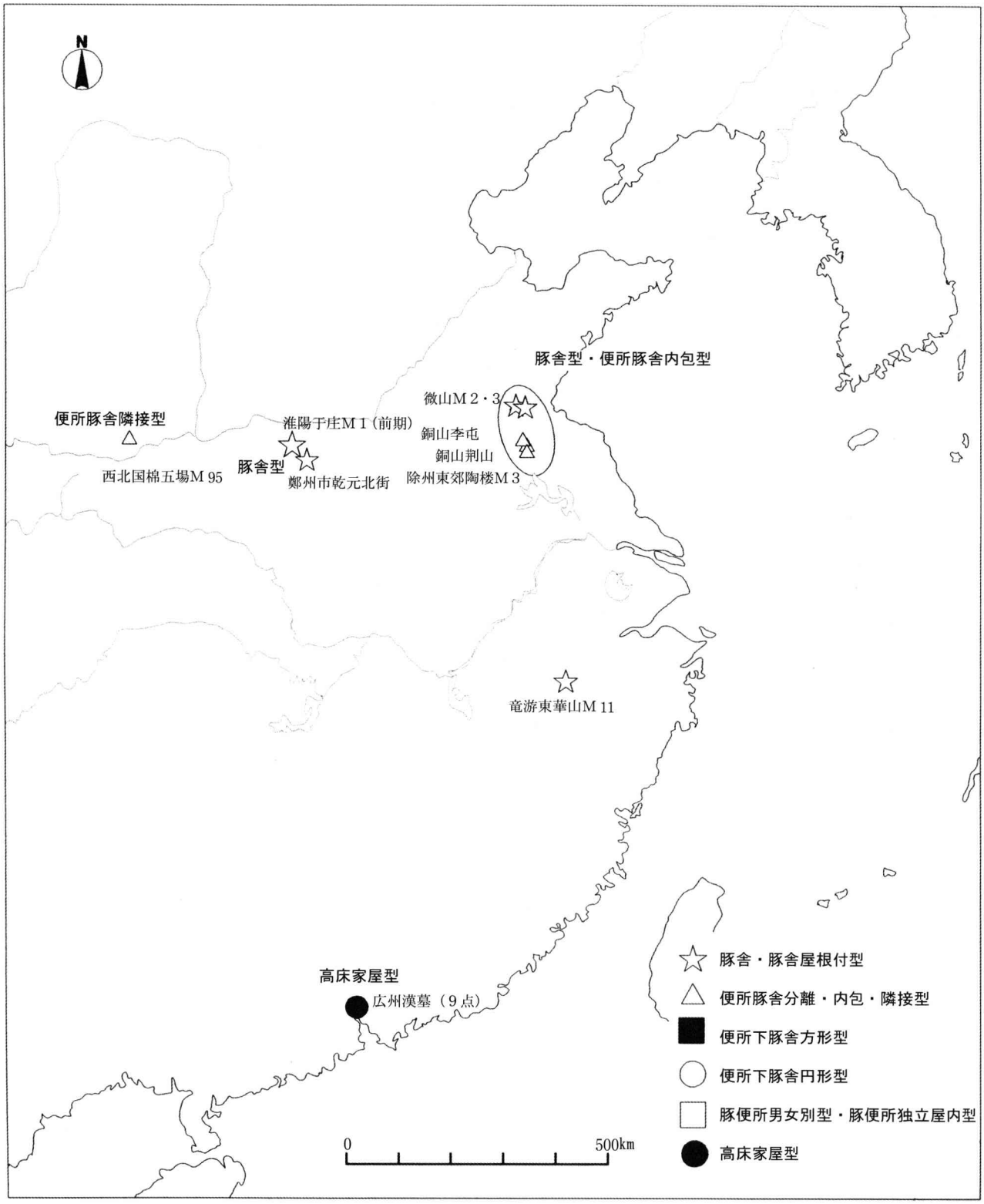


図２　豚便所分布（前漢中期）

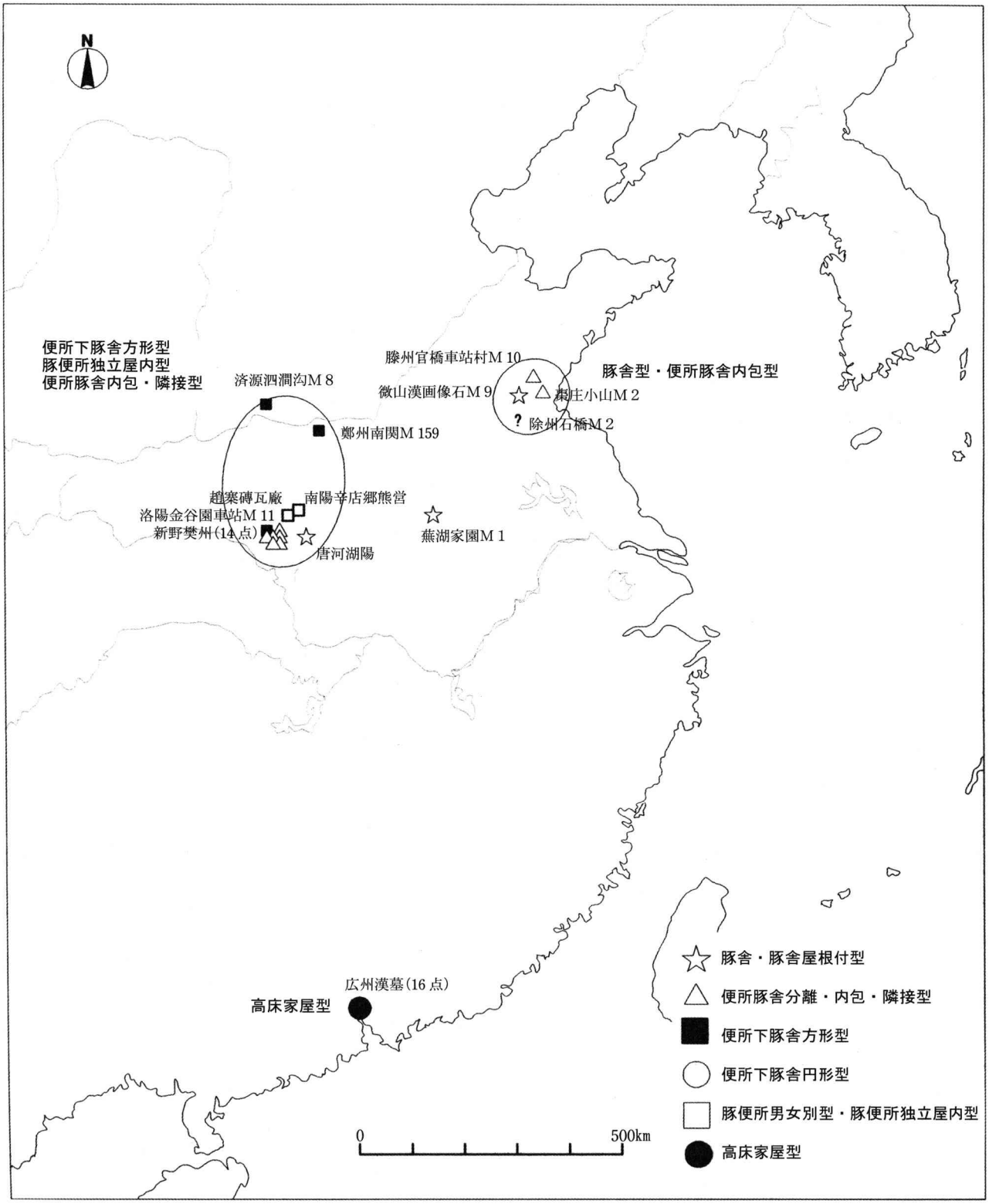


図3　豚便所分布（前漢後期）

図４　豚便所分布（後漢前期）

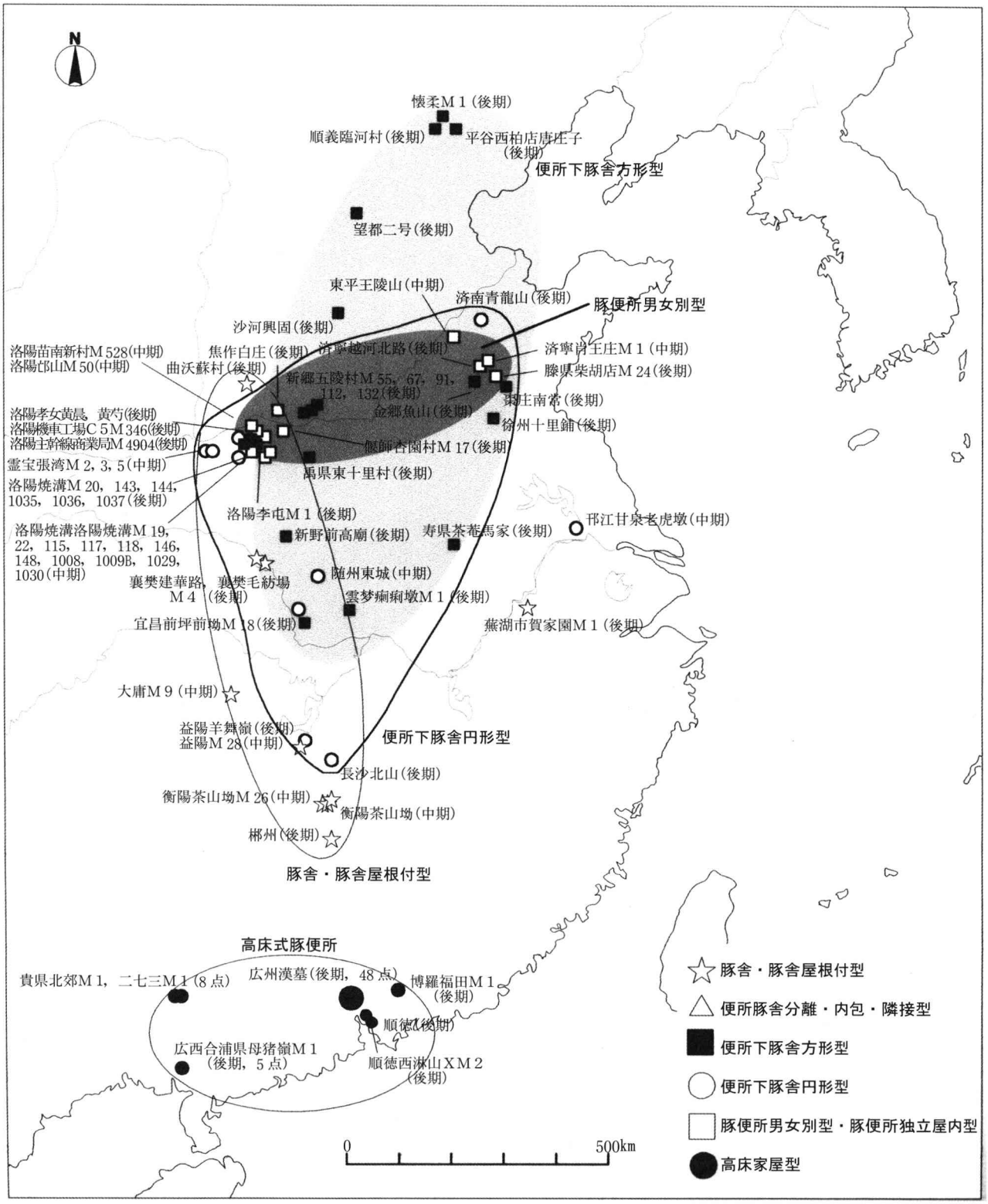


図5　豚便所分布（後漢中～後期）

❷……出土例

（1）省ごとの出土例

1，出土例は，遺跡を省ごとに五十音順に並べてある。

2，時期は，前漢を前期（高祖，前200～141年）・中期（武帝，前140～72年）・後期（宣帝，前73年～24年），後漢を前期（光武帝，後25年～75年），中期（章帝，76年～146年），後期（桓帝，147～220年）に分期した。詳細な時期が不明なものについては，「漢」または「前漢」「後漢」とした。

3，型式分類のうち，「a」「b」などの細分が，報告書から判断不可能なものについては表記していない。

4，「墓」の表記を，M（墓葬〔Mu Zang〕の頭文字）に統一した。

遺跡名（五十音順）	型式	時期	地点	文献	図・写真
北京市					
懐柔M 1	便所下豚舎方形b型	後漢後期	北京市懐柔県	北京市文物工作隊 1962	図1
順義臨河村	便所下豚舎方形a型	後漢後期	北京市順義県平臨河村	北京市文物管理処 1977	
平谷	便所下豚舎方形a型	後漢後期	北京市平谷県西柏店村	北京市文物工作隊 1962a	写真1-3
平谷西柏店唐庄子	便所下豚舎方形a型	後漢後期	北京市平谷県西柏村	北京市文物工作隊 1962b	
河北省					
沙河興固	便所下豚舎方形a型	後漢後期	河北省邢台地区沙河市興固村	河北省文物研究所・邢台地区文物管理所 1992	図7-2
石家荘北郊	豚便所男女別型	後漢後期	河北省家荘市	石家荘市文物保管所 1984	
望都M 2	豚便所男女別型	後漢後期	河北省望都県	河北省文化局文物工作隊編 1959	写真1-2
山西省					
曲沃蘇村	豚舎型（円形）	後漢後期	山西省曲沃県蘇村	臨汾地区文化局・曲沃県文化館 1987	写真1-1
陝西省					
西北国棉五場M 95	便所豚舎分離型	前漢前期	陝西省西安市白鹿原	呼林貴・侯寧彬・李恭 1991	図7-1
潼漢吊橋M 1,2,4,6,7	便所下豚舎方形？	後漢	陝西省潼漢吊橋	陝西省文物管理委員会 1961	
河南省					
禹県白沙M 4	豚便所（型式不明）	後漢	河南省禹県白沙鎮	河南省文化局文物工作隊 1959	
禹県白沙M 17	豚舎型（円形）	後漢	河南省禹県白沙鎮	河南省文化局文物工作隊 1959	
禹県白沙M 25	豚便所（型式不明）	後漢	河南省禹県白沙鎮	河南省文化局文物工作隊 1959	
禹県白沙M 35	豚便所（型式不明）	後漢	河南省禹県白沙鎮	河南省文化局文物工作隊 1959	
禹県白沙M 65	豚便所（型式不明）	後漢	河南省禹県白沙鎮	河南省文化局文物工作隊 1959	
禹県白沙M 66	豚便所（型式不明）	後漢	河南省禹県白沙鎮	河南省文化局文物工作隊 1959	
禹県白沙M 71	豚便所（型式不明）	後漢	河南省禹県白沙鎮	河南省文化局文物工作隊 1959	
禹県白沙M 75	豚便所（型式不明）	後漢	河南省禹県白沙鎮	河南省文化局文物工作隊 1959	

遺跡名（五十音順）	型式	時期	地点	文献	図・写真
禹県白沙M 106	豚便所（型式不明）	後漢	河南省禹県白沙鎮	河南省文化局文物工作隊 1959	
禹県白沙M 107	便所下豚舎方形b型	後漢	河南省禹県白沙鎮	河南省文化局文物工作隊 1959	
禹県白沙M 301	豚便所（型式不明）	後漢	河南省禹県白沙鎮	河南省文化局文物工作隊 1959	
禹県東十里村	便所下豚舎方形型	後漢後期	河南省禹県梁北郷東十里村	河南省文物研究所 1985	
栄陽河王村	豚便所男女別型	後漢中期	河南省栄陽県河王村	河南省文物局文物工作隊 1960	
偃師杏園村M 17	豚便所男女別a型	後漢後期	河南省洛陽市偃師杏園村	中国社会科学院考古研究所河南第二工作隊 1985	図 6-1
偃師姚孝経	便所下豚舎方形b型，2点	後漢前期（永平16，73年）	河南省偃師県城関鎮北坎村	偃師商城博物館 1992	図 7-6
済源泗澗沟M 8	便所下豚舎方形a型	前漢後期	河南省済源県泗澗	河南省博物館 1973	写真 2-8
焦作白庄	豚便所男女別a型〔楼閣に敷設〕	後漢後期～三国初期	河南省待王鎮白庄村	索全星 1995	図 7-5
新郷五陵村M 55	便所下豚舎方形型	後漢後期	河南省新郷市五陵村	新郷市博物館 1990	
新郷五陵村M 67	便所下豚舎方形型	後漢後期	河南省新郷市五陵村	新郷市博物館 1990	
新郷五陵村M 91	便所下豚舎方形a型	後漢後期	河南省新郷市五陵村	新郷市博物館 1990	図 7-3 写真 2-17
新郷五陵村M 112	便所下豚舎方形型	後漢後期	河南省新郷市五陵村	新郷市博物館 1990	
新郷五陵村M 132	便所下豚舎方形型	後漢後期	河南省新郷市五陵村	新郷市博物館 1990	
新野樊集M 1	便所豚舎内包型	前漢後期(武帝以降～王莽以前)	河南省新野県樊集	河南省南陽地区文物研究所 1990	
新野樊集M 6	便所豚舎内包型	前漢後期(武帝以降～王莽以前)	河南省新野県樊集	河南省南陽地区文物研究所 1990	
新野樊集M 11	便所豚舎内包型	前漢後期(武帝以降～王莽以前)	河南省新野県樊集	河南省南陽地区文物研究所 1990	
新野樊集M 12	便所豚舎内包型	前漢後期(武帝以降～王莽以前)	河南省新野県樊集	河南省南陽地区文物研究所 1990	
新野樊集M 15	便所豚舎隣接型	前漢後期(武帝以降～王莽以前)	河南省新野県樊集	河南省南陽地区文物研究所 1990	
新野樊集M 16	便所豚舎隣接型	前漢後期(武帝以降～王莽以前)	河南省新野県樊集	河南省南陽地区文物研究所 1990	図 6-6， 写真 2-1
新野樊集M 19	便所豚舎隣接型	前漢後期(武帝以降～王莽以前)	河南省新野県樊集	河南省南陽地区文物研究所 1990	図 6-5， 写真 2-2
新野樊集M 25	便所豚舎内包型	前漢後期(武帝以降～王莽以前)	河南省新野県樊集	河南省南陽地区文物研究所 1990	図 6-9， 写真 2-5
新野樊集M 33	便所豚舎隣接型	前漢後期(武帝以降～王莽以前)	河南省新野県樊集	河南省南陽地区文物研究所 1990	図 6-3， 写真 2-3
新野樊集M 34	便所豚舎隣接型	前漢後期(武帝以降～王莽以前)	河南省新野県樊集	河南省南陽地区文物研究所 1990	
新野樊集M 36	便所豚舎隣接型	前漢後期(武帝以降～王莽以前)	河南省新野県樊集	河南省南陽地区文物研究所 1990	
新野樊集M 37	便所下豚舎方形a型〔家屋内に設置〕	前漢後期(武帝以降～王莽以前)	河南省新野県樊集	河南省南陽地区文物研究所 1990	図 6-2， 写真 2-6
新野樊集M 39	便所豚舎内包型	前漢後期(武帝以降～王莽以前)	河南省新野県樊集	河南省南陽地区文物研究所 1990	図 6-8
新野樊集M 42	便所豚舎隣接型	前漢後期(武帝以降～王莽以前)	河南省新野県樊集	河南省南陽地区文物研究所 1990	
新野前高廟	便所下豚舎方形型	後漢後期	河南省新野県高廟村	南陽地区文物工作隊・新野県文化館 1985	

遺跡名（五十音順）	型式	時期	地点	文献	図・写真
趙寨磚瓦廠	便所独立屋内型	前漢後期	河南省南陽市	南陽市博物館 1982	
鄭州乾元北街	豚舎方形型〔四合院内設置〕	前漢中期	河南省鄭州市乾元北街	鄭州市博物館 1985	図 14-1
鄭州南関M 159	便所下豚舎方形ａ型	前漢後期	河南省鄭州市南関	河南省文化局文物工作隊 1960	図 7-7，写真 2-4
唐河湖陽	豚舎屋根付型	前漢後期	河南省唐河県湖陽鎮	南陽地区文物工作隊・唐河県文化館 1985	
桐柏万崗M 9	便所下豚舎方形ａ型（２点）	後漢前期	河南省桐柏県万崗村	河南省文化局文物工作隊 1964	写真 2-7
桐柏万崗M 5	便所下豚舎方形ａ型	後漢前期	河南省桐柏県万崗村	河南省文化局文物工作隊 1964	
南陽石橋鎮	便所下豚舎円形型？	後漢前期	河南省南陽県石橋鎮	南陽博物館 1982	
南陽辛店郷熊営	豚便所男女別ｂ型	前漢後期～後漢前期	河南省南陽県辛店郷熊営村	南陽市文物研究所 1996	
南陽楊官寺	豚便所独立屋内型	後漢前期～中期	河南省南陽県楊官寺村	河南省文化局文物工作隊 1963	図 15-2
洛陽金谷園車站M 11	便所下豚舎方形ｂ型	前漢中～後期（武帝以降～王莽以前）	河南省洛陽市金谷園	河南省文物研究所 1983	
洛陽孝女黄晨，黄芍	豚便所男女別ａ型	後漢後期	河南省洛陽市	洛陽市文物工作隊 1997a	図 7-4
洛陽機車工場Ｃ５M 346	豚便所男女別ａ型	後漢後期	河南省洛陽市東花壇東部	洛陽市文物工作隊 1999	図 6-4
洛陽主幹線商業局M 4904	豚便所男女別ａ型	後漢後期	河南省洛陽市西関花壇	洛陽市文物工作隊 1999	図 6-7
洛陽焼溝M 19	便所下豚舎方形型	後漢中期	河南省洛陽市	洛陽区考古発掘隊 1959	
洛陽焼溝M 20	豚便所男女別ａ型	後漢後期	河南省洛陽市	洛陽区考古発掘隊 1959	
洛陽焼溝M 22	便所下豚舎方形型	後漢中期	河南省洛陽市	洛陽区考古発掘隊 1959	
洛陽焼溝M 115	便所下豚舎方形型	後漢中期	河南省洛陽市	洛陽区考古発掘隊 1959	
洛陽焼溝M 117	便所下豚舎方形型	後漢中期	河南省洛陽市	洛陽区考古発掘隊 1959	
洛陽焼溝M 118	便所下豚舎方形型	後漢中期	河南省洛陽市	洛陽区考古発掘隊 1959	
洛陽焼溝M 120	便所下豚舎方形型	後漢中期～後期	河南省洛陽市	洛陽区考古発掘隊 1959	
洛陽焼溝M 122	便所下豚舎方形型	後漢中期～後期	河南省洛陽市	洛陽区考古発掘隊 1959	
洛陽焼溝M 143	便所下豚舎方形型	後漢後期	河南省洛陽市	洛陽区考古発掘隊 1959	
洛陽焼溝M 144	便所下豚舎方形型	後漢後期	河南省洛陽市	洛陽区考古発掘隊 1959	
洛陽焼溝M 146	便所下豚舎方形型	後漢中期	河南省洛陽市	洛陽区考古発掘隊 1959	
洛陽焼溝M 148	便所下豚舎方形型	後漢中期	河南省洛陽市	洛陽区考古発掘隊 1959	
洛陽焼溝M 1008	便所下豚舎方形型，便所下豚舎円形ａ型	後漢中期	河南省洛陽市	洛陽区考古発掘隊 1959	写真 2-16
洛陽焼溝M 1009B	便所下豚舎方形型	後漢中期	河南省洛陽市	洛陽区考古発掘隊 1959	
洛陽焼溝M 1020	便所下豚舎方形型	後漢中期～後期	河南省洛陽市	洛陽区考古発掘隊 1959	
洛陽焼溝M 1027	便所下豚舎方形型	後漢中期～後期	河南省洛陽市	洛陽区考古発掘隊 1959	
洛陽焼溝M 1029	便所下豚舎方形型	後漢中期	河南省洛陽市	洛陽区考古発掘隊 1959	
洛陽焼溝M 1030	便所下豚舎円形型	後漢中期	河南省洛陽市	洛陽区考古発掘隊 1959	
洛陽焼溝M 1035	便所下豚舎方形型	後漢後期	河南省洛陽市	洛陽区考古発掘隊 1959	
洛陽焼溝M 1036	豚便所男女別ａ型	後漢後期	河南省洛陽市	洛陽区考古発掘隊 1959	写真 2-11
洛陽焼溝M 1037	便所下豚舎方形ｂ型	後漢後期	河南省洛陽市	洛陽区考古発掘隊 1959	写真 2-9

遺跡名（五十音順）	型式	時期	地点	文献	図・写真
洛陽焼溝M 1038	便所下豚舎方形，便所下豚舎円形	後漢中期～後期	河南省洛陽市	洛陽区考古発掘隊 1959	
洛陽苗南新村M 528	便所下豚舎円形	後漢中期	河南省洛陽市苗南新村	洛陽市第二文物工作隊 1994	写真2-10
洛陽邙山M 50	豚便所男女別a型	後漢中期	河南省洛陽市邙山	中国社会科学院考古研究所 1991	写真2-14
洛陽邙山M 88	便所下豚舎方形a型	西晋	河南省洛陽市邙山	中国社会科学院考古研究所 1991	写真2-15
洛陽李屯M 1	豚便所男女別a型	後漢後期(156年)	河南省洛陽市李屯郷	洛陽市文物工作隊 1997b	
瑠璃閣M 216	便所下豚舎方形b型	漢	河南省輝県	中国社会科学院考古研究所 1956	写真2-12
瑠璃閣百泉M 1	豚便所男女別型	漢	河南省輝県	中国社会科学院考古研究所 1956	
霊宝張湾M 2	便所下豚舎円形b型	後漢中期	河南省霊宝県張湾	河南省博物館 1975	
霊宝張湾M 3	便所下豚舎円形b型	後漢中期	河南省霊宝県張湾	河南省博物館 1975	写真2-13
霊宝張湾M 5	便所下豚舎円形b型	後漢中期	河南省霊宝県張湾	河南省博物館 1975	
淮陽于庄M 1	便所豚舎分離型	前漢前期	河南省淮陽県于庄	周口地区文化局文物科・淮陽太昊陵文物保管所 1983	図 15-1

山東省

沂南（画像石墓）	（便所が描かれた画像石）	後漢中期～後期	山東省沂南県	華東文物工作隊山東組 1954	図 16
済南青龍山	便所下豚舎円形a型	後漢後期	山東省済南市青龍山	済南市文化局文物処 1988	図 8-5
金郷魚山	便所下豚舎方形b型	後漢後期	山東省金郷県胡集郷郭山口村	泗水県文官所 1995	
済寧越河北路	豚便所男女別a型	後漢後期	山東省済寧市越河	済寧市博物館 1994	図 8-1，写真 1-13
済寧肖王庄M 1	豚便所男女a型（2点）	後漢中期	山東省済寧市肖王庄	済寧市文物管理所 1999	
棗庄小山M 2	便所豚舎隣接型	前漢後期（やや早い時期）	山東省棗庄市小山	棗庄市文物管理委員会辦公室 棗庄市博物館 1997	写真 1-8
微山M 3	豚舎型（方形）	前漢中期	山東省微山県微山郷墓前村	微山県文物管理所 1995	
微山M 2	豚舎屋根付型	前漢中期	山東省微山県微山郷墓前村	微山県文物管理所 1995	
微山漢画像石M 9	豚舎屋根付型	前漢後期	山東省微山県微山島郷	微山県文物管理所 1998	
棗庄南常	便所下豚舎方形b型	後漢後期	山東省棗庄市小城子	棗庄市文物管理站 1986	図 8-3
滕県柴胡店M 22	便所下豚舎方形b型	後漢	山東省滕県柴胡店	山東省博物館 1963	
滕県柴胡店M 28	便所下豚舎方形b型	後漢	山東省滕県柴胡店	山東省博物館 1963	
滕県柴胡店M 41	便所下豚舎方形b型	後漢	山東省滕県柴胡店	山東省博物館 1963	
滕県柴胡店M 24	豚便所男女別a型	後漢後期	山東省滕県柴胡店	山東省博物館 1963	
滕州官橋車站村M 10	便所豚舎内包型？	前漢後期	山東省滕州市官橋鎮車站村	山東省文物考古研究所魯中南考古隊・滕州市博物館 1999	
東平王陵山	豚便所男女別a型	後漢中期	山東省東平県王陵山	山東省博物館 1966	写真 1-12
臨淄金嶺M 1	豚便所男女別a型	後漢前期(明帝～章帝，56～88年)	山東省淄博市臨淄区金嶺鎮	山東省文物考古研究所 1999	写真 1-11

遺跡名（五十音順）	型式	時期	地点	文献	図・写真
湖北省					
雲梦痢痢墩M 1	便所下豚舎方形ｂ型（楼閣）	後漢後期	湖北省雲梦県痢痢	雲梦県博物館 1984	写真 3-6 図 14-5
鄂州鄂鋼飲料場M 1	便所下豚舎方形ａ型	呉	湖北省鄂州市西山	鄂州博物館・湖北省文物考古研究所 1998	写真 3-3
宜昌前坪前M 18	豚便所男女別ｂ型	後漢後期	湖北省宜昌前坪	湖北省博物館 1976	図 9-1
宜都劉家屋場M 16	豚舎屋根付型（方形）	後漢前期	湖北省宜都県陸城鎮	宜昌地区博物館・宜都県文化館 1987	図 9-3
襄樊M 1	豚舎屋根付型（方形）	後漢前期	湖北省襄樊市	襄樊市博物館 1993a	図 9-5
襄樊建華路	豚舎屋根付型（方形）	後漢後期	湖北省襄樊市	襄樊市博物館 1993b	図 9-2
襄樊毛紡場M 4	豚舎屋根付型（方形）	後漢後期	湖北省襄樊市	襄樊市博物館 1997	写真 3-1
襄樊余崗M 45	便所下豚舎方形ｂ型	漢	湖北省襄樊市余崗	襄樊市博物館 1996	写真 3-4
襄樊余崗M 45	豚舎屋根付型（方形）	漢	湖北省襄樊市余崗	襄樊市博物館 1996	写真 3-5
随唐鎮	便所下豚舎円形型	三国	湖北省随県唐鎮	湖北省文物管理委員会 1966	
随州東城	便所下豚舎円形ｂ型	後漢中期	湖北省随州市東城区八角楼	王世振・王善才 1993	図 9-4
武漢黄陂灞口	便所下豚舎円形ａ型	呉末晋初	湖北省武漢市黄陂県灞口	武漢市博物館 1991	写真 3-2
劉家屋場	豚舎屋根付型	後漢前期	湖北省宜都県劉陸城鎮家屋場	宜昌地区博物館・宜都県文化館 1987	
湖南省					
益陽M 28	豚舎野根付型（方形）	後漢中期	湖南省益陽県	湖南省博物館・益陽県文化館 1981	
益陽羊舞嶺	便所下豚舎円形ａ型	後漢後期	湖南省益陽県羊舞嶺	益陽地区文物工作隊 1984	図 9-6
衡陽M 14	豚舎型（円形）	後漢前期	湖南省衡陽市郊新安郷	衡陽市文物工作隊 1994	
衡陽M 6	豚舎型（円形）	後漢前期	湖南省衡陽市郊新安郷	衡陽市文物工作隊 1994	図 9-8
衡陽鳳凰山M 9	豚舎屋根付型	後漢前期	湖南省衡陽市鳳凰山	衡陽市文物工作隊 1993	図 9-7
資興M 30	豚舎屋根付型（円形）	後漢前期	湖南省資興県旧市，木根橋	湖南省博物館・湖南省文物考古研究所 1995	
資興M 160	豚舎屋根付型（円形）	不明	湖南省資興県旧市，木根橋	湖南省博物館・湖南省文物考古研究所 1995	
資興許家洞	豚便所男女型	後漢	湖南省長沙市資興県許家洞	羅敦静 1956	
衡陽茶山坳M 26	豚舎屋根付型，3点	後漢後期	湖南省衡陽市茶山郷	衡陽市博物館 1986	図 9-10
大庸M 9	豚舎型（円形）	後漢中期	湖南省大庸市	湖南省文物考古研究所・湘西自治州文物工作隊・大庸市文物管理所 1994	図 9-9, 写真 3-7
長沙	便所下豚舎円形型	漢代	湖南省長沙市	不明	
長沙黒糟門M 1	便所下豚舎方形ｂ型	後漢	湖南省長沙市	高至喜 1959	写真 3-12
長沙月亮山M 6	便所下豚舎円形ａ型	後漢	湖南省長沙市	高至喜 1959	写真 3-16
長沙沙湖橋MA 41	便所下豚舎円形ａ型	後漢	湖南省長沙市沙湖橋	李正光・彭青野 1957	写真 3-9
長沙沙湖橋MF 1	豚舎型（円形）	後漢	湖南省長沙市沙湖橋	李正光・彭青野 1957	写真 3-8
長沙沙伍家嶺M 1	豚便所男女別ｂ型	後漢	湖南省長沙市	高至喜 1959	写真 3-15
長沙絲茅冲1区M144	便所下豚舎円形型	後漢	湖南省長沙市	高至喜 1959	
長沙小林子冲M 3	便所下豚舎方形ａ型	後漢	湖南省長沙市	高至喜 1959	写真 3-11
長沙南塘冲	便所下豚舎円形ａ	後漢	湖南省長沙市	湖南省文物管理委員会 1958	
長沙月亮山M 28	高床家屋ｂ型	後漢	湖南省長沙市月亮山	高至喜 1959	写真 3-14

遺跡名（五十音順）	型式	時期	地点	文献	図・写真
長沙北山	便所下豚舎円形ａ型，２点	後漢後期	湖南省長沙市北山区牌楼郷火棗坡村	長沙市文物工作隊 1984	写真3-10, 13
郴州	豚舎野根付型(方形)?	後漢後期	湖南省郴州市	湖南省博物館 1982	
耒陽Ｍ１	高床家屋ｂ型	後漢	湖南省耒陽県	湖南省文物管理委員会 1956a	
耒陽花石坳	豚舎型（方形）	後漢	湖南省耒陽県花石坳	湖南省文物管理委員会 1956b	
耒陽耒花営Ｍ１	便所下豚舎円形型	後漢	湖南省耒陽県耒花営	湖南省文物管理委員会 1956c	
耒陽耒野営Ｍ15	豚便所（型式不明）	後漢	湖南省耒陽県耒野営	湖南省文物管理委員会 1956c	

安徽省

寿県	豚便所男女別型（ａ，ｂ不明）	漢代	安徽省寿県	蘇希聖・李瑞鵬 1990	
寿県茶菴馬家	便所下豚舎方形ａ型，２点	後漢後期	安徽省寿県茶菴馬家	安徽省文化局文物工作隊・寿県博物館 1996	写真1-5, 6
青陽廟前	豚舎型（方形），２点	西晋	安徽省青陽県廟前郷	朱献雄 1992	
馬鞍山佳山	便所下豚舎円形ａ型	呉	安徽省馬鞍山市向山区佳山郷印山村	安徽省文物考古研究所 1986	
蕪湖賀家園Ｍ１	豚舎屋根付型(方形)	前漢後期	安徽省蕪湖市賀家園	安徽省文物工作隊・蕪湖市文化局 1983	写真1-4
和県	便所下豚舎円形ａ型	西晋	安徽省和県戚鎮	安徽省文物工作隊・和県文物組 1984	写真1-7

江蘇省

邗江甘泉Ｍ２	便所下豚舎方形型	後漢前期	江蘇省邗江県甘泉鎮	南京博物院 1981	
邗江甘泉老虎墩	便所下豚舎円形ａ型	後漢中期	江蘇省揚州市邗江県甘泉鎮老虎墩	揚州市博物館 1991	図8-4
金壇方麓	豚舎型（豚舎内便所型？）	呉（永安三年，260年）	江蘇省金壇県薛埠郷方麓	常州市博物館・金壇県文管会 1989	写真4-1
銅山李屯	便所豚舎内包型	前漢中期	江蘇省除州市銅山県拾屯郷李屯村	除州博物館 1995	図8-7
江寧索野	豚舎型(円形),2点〔図10-7は便所の可能性有り〕	西晋（太康元年，280年）	江蘇省江寧県淳化郷索野	南京市博物館 1987	図10-2, 7
江寧張家山	豚舎型（円形）	西晋	江蘇省江寧県谷里郷梁塘村張家山	南京博物院 1985	図10-1
除州東郊陶楼Ｍ３	便所豚舎内包型	前漢中期（武帝期）	江蘇省除州市	除州博物館 1993	図8-6, 写真1-10
徐州十里鋪	便所下豚舎方形ｂ型	後漢後期	江蘇省徐州市十里鋪	江蘇省文物管理委員会・南京博物院 1966	図8-2, 写真1-14
除州石橋Ｍ２	豚便所（型式不明）	前漢後期	江蘇省除州市石橋	除州博物館 1984	
銅山荆山	便所豚舎内包型	前漢中期	江蘇省除州市銅山県大黄山郷	除州市博物館 1992	写真1-9
南京高家山	豚舎型（方形）	晋(西晋～東晋)	江蘇省南京市	李蔚然 1963a	写真4-4
南京周辺	豚舎型（方形）	西晋	江蘇省南京市宜興県	羅宗眞 1957	写真4-3
南京東善橋	豚舎型（円形）	呉（鳳凰三年，274年）	江蘇省南京市江寧県東善橋郷	南京市博物館・江寧博物館 1999	
南京南郊Ｍ２	便所下豚舎円形ａ型	西晋	江蘇省南京市	李蔚然 1963b	写真4-2

遺跡名（五十音順）	型式	時期	地点	文献	図・写真
浙江省					
安吉天子崗M 2	豚舎型（方形）	西晋	浙江省高禹郷天子崗	安吉県博物館 1995	図 10-6
安吉天子崗M 3	豚舎型（円形）	西晋	浙江省高禹郷天子崗	安吉県博物館 1995	図 10-5
金華古方M 30	豚舎型（円形）	西晋	浙江省金華市古方	金華地区文管会 1984b	写真 4-6
紹興鳳凰山	豚舎型（円形）	西晋（永嘉七年，313 年）	浙江省紹興市上蔣郷	沈作霖 1991	図 10-3
嵊M75	豚舎型（円形）	西晋	浙江省嵊県石璜苕苕山	嵊県文管会 1988	
常山何家	豚舎屋根付型（方形）	西晋	浙江省常山県何家	金華地区文管会 1984a	
龍游東華山M 11	豚舎屋根付型	前漢（前期～中期？）	浙江省龍游県東華山	朱土生 1993	図 10-4
平陽横河	豚舎型（円形）	西晋	浙江省温州市平陽県種玉郷横河村	徐定水・金柏東 1988	写真 4-5
江西省					
瑞昌馬頭	豚舎型（円形）	西晋	江西省瑞昌県馬頭	江西省博物館 1974	写真 4-7
広東省					
広州	高床家屋型		広東省	広州市文管会 1958	
広州M 2010	高床家屋 a 型	前漢中期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 2011	高床家屋 a 型	前漢中期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 2035	高床家屋 a 型	前漢中期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 2044	高床家屋 a 型	前漢中期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 2046	高床家屋 a 型	前漢中期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 2048	高床家屋 a 型	前漢中期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	図 11-2，写真 5-1
広州M 2049	高床家屋 a 型	前漢中期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 2060	高床家屋 a 型	前漢中期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 2062	高床家屋 a 型	前漢中期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	図 11-1
広州M 3001	高床家屋 a 型	前漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 3003	高床家屋 a 型	前漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 3011	高床家屋 a 型	前漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 3015	高床家屋 a 型	前漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	図 11-3
広州M 3017	高床家屋 a 型	前漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	図 7-6
広州M 3018	高床家屋 a 型	前漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	写真 2-8

遺跡名（五十音順）	型式	時期	地点	文献	図・写真
広州M 3019	高床家屋a型	前漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	図 7-5
広州M 3020	高床家屋a型	前漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 3021	高床家屋a型	前漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 3024	高床家屋a型	前漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 3025	高床家屋a型	前漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 3026	高床家屋a型	前漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 3028	高床家屋a型	前漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 3029	高床家屋a型	前漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 3030	高床家屋a型	前漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	写真 5-2
広州M 3031	高床家屋a型	前漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	写真 5-3
広州M 4001	高床家屋b型	後漢前期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 4002	高床家屋b型	後漢前期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 4003	型式不明	後漢前期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 4004	高床家屋a型	後漢前期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	写真 5-8
広州M 4005	高床家屋a型	後漢前期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	図 11-4
広州M 4006	高床家屋b型	後漢前期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	写真 5-4
広州M 4007	高床家屋c型（楼閣式）	後漢前期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	写真 5-5
広州M 4008	高床家屋a型	後漢前期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 4009	高床家屋b型	後漢前期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 4010	高床家屋b型	後漢前期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 4011	高床家屋b型	後漢前期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	図 12-1
広州M 4012	高床家屋a型	後漢前期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 4013	高床家屋a型	後漢前期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 4014	高床家屋a型	後漢前期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	

遺跡名（五十音順）	型式	時期	地点	文献	図・写真
広州M 4015	高床家屋ａ型	後漢前期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	図 11-5, 写真 5-7
広州M 4016	高床家屋ｃ型（楼閣式）	後漢前期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	図 12-4
広州M 4017	高床家屋ｂ型	後漢前期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 4019	高床家屋ｃ型（楼閣式）	後漢前期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 4022	高床家屋ｂ型	後漢前期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	図 11-6, 写真 5-6
広州M 4023	高床家屋ｂ型	後漢前期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 4024	高床式便所型ｃ（楼閣式）	後漢前期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	写真 5-9
広州M 4025	高床家屋ｂ型	後漢前期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 4026	高床家屋ｂ型	後漢前期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 4027	高床家屋ｂ型	後漢前期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 4029	高床家屋ｂ型	後漢前期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 4032	高床家屋ｂ型	後漢前期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 4034	高床家屋ｂ型	後漢前期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 4036	高床家屋ｂ型	後漢前期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 4038	高床家屋ｂ型	後漢前期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 4039	高床式便所型（?）	後漢前期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 4039	型式不明	後漢前期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 4040	高床家屋ｂ型	後漢前期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 5001	高床家屋ｂ型	後漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 5002	高床家屋ｂ型	後漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 5003	高床家屋ｂ型	後漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 5004	高床家屋ｂ型	後漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 5005	高床家屋ｂ型	後漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 5006	高床家屋ｂ型	後漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	

遺跡名（五十音順）	型式	時期	地点	文献	図・写真
広州M 5007	高床家屋c型（楼閣式）	後漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	写真5-12
広州M 5008	高床家屋b型	後漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	図12-2, 写真5-11
広州M 5009	高床家屋b型	後漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 5010	高床家屋b型	後漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 5011	高床家屋b型	後漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 5012	高床家屋b型	後漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 5015	高床家屋b型	後漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 5019	高床家屋b型	後漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 5020	型式不明	後漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 5022	高床家屋b型	後漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 5023	高床家屋b型	後漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 5026	高床家屋b型	後漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 5027	型式不明	後漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 5028	型式不明	後漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 5029	高床家屋b型	後漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 5030	高床家屋b型	後漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 5031	型式不明	後漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 5032	城堡型	後漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	写真5-10
広州M 5034	型式不明	後漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 5036	高床家屋b型	後漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	写真5-13
広州M 5038	高床家屋b型	後漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 5039	高床家屋b型	後漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 5040	型式不明	後漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 5041	城堡型	後漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	

遺跡名（五十音順）	型式	時期	地点	文献	図・写真
広州M 5042	高床家屋ｂ型	後漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 5043	高床家屋ｂ型・城堡型	後漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	写真5-15
広州M 5045	高床家屋ｂ型	後漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 5046	高床家屋ｂ型・城堡型	後漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 5047	高床家屋ｂ型	後漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 5048	高床家屋ｂ型	後漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 5052	高床家屋ｂ型	後漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 5055	高床家屋ｂ型	後漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 5058	高床家屋ｂ型，２点	後漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 5059	高床家屋ｂ型	後漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 5064	型式不明	後漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 5066	型式不明，３点	後漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 5067	型式不明	後漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 5069	高床家屋ｂ型	後漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 5070	高床家屋ｂ型	後漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	図 12-3
広州M 5073	型式不明	後漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 5075	高床家屋ｂ型	後漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 5076	高床家屋ｂ型	後漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 5077	高床家屋ｂ型	後漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 5080	高床家屋ｂ型・城堡型	後漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
広州M 5082	高床家屋ｂ型	後漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	写真5-14
広州M 5087	高床家屋ｂ型	後漢後期	広東省広州市	広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981	
順徳西淋山ＸＭ２	高床家屋ｂ型	後漢後期	広東省順徳県西淋山	広東省博物館・順徳県博物館 1991	
順徳西淋山ＸＭ５	高床家屋ｂ型	漢	広東省順徳県西淋山	広東省博物館・順徳県博物館 1991	

遺跡名（五十音順）	型式	時期	地点	文献	図・写真
博羅福田M 1	高床家屋a型	後漢後期	広東省博羅県福田鎮	広東省博物館・博羅県博物館 1993	

広西壮族自治区

貴県北郊M 1	高床家屋型（4点）	後漢後期	広西壮族自治区貴県	広西壮族自治区文物工作隊 1985	
貴県北郊M 1	高床家屋型（3点）	後漢前期	広西壮族自治区貴県	広西壮族自治区文物工作隊 1985	
貴県北郊，二七三M 1	高床家屋b型（4点）	後漢後期	広西壮族自治区貴県	広西壮族自治区文物工作隊 1985	
貴県北郊，水電M 5	高床家屋a型（3点）	後漢前期	広西壮族自治区貴県	広西壮族自治区文物工作隊 1985	
貴県	高床家屋型	前漢～後漢	広西壮族自治区貴県	広西省文物管理委員会 1957	
合浦母猪嶺M 1	高床家屋型（5点）	後漢前期～中期	広西壮族自治区合浦県	広西文物工作隊・合浦県博物館 1998	
合浦豊門嶺M 10	高床家屋a型	後漢早期	広西省合浦県豊嶺	合浦県博物館 1995	
北海盤子嶺M 9	高床家屋a型	後漢前期	広西壮族自治区北海市盤子嶺	広西壮族自治区文物工作隊 1998	

（2）各時期の様相と分析

地域区分

豚便所の型式によって，分布と時期に地域性がみとめられため，以下の大きく７つの地域が認められる。

［河南地域］　河南省洛陽・鄭州から河南省南部地域にあたる。

［山東・江蘇北部地域］　山東省済寧・済南から江蘇省北部徐州地域にあたる。

［江蘇南部・浙江地域］　浙江省と江蘇省南部地域にあたる。いわゆる江南と呼ばれる地域である。

［湖北地域］　湖北省全域にあたる。

［湖南地域］　湖南省全域にあたる。

［広州地域］　広東省の広州市周辺および，珠江デルタ地域にあたる。

［広西壮族自治区地域］　広西壮族自治区を含む地域にあたる。

以下，各時期の豚舎・豚便所明器の出土を概観する。

１　前期～中期初め

豚便所を生活明器として墓に副葬し始める時期である（図１）。後述するが，文献からは豚便所の存在はさらに時期がさかのぼる。河南省淮陽于庄Ｍ１遺跡［周口地区文化局文物科・淮陽太昊陵文物保管所 1983］（図 15-1）と陝西省西北国棉五場Ｍ95 遺跡［呼林貴他 1991］（図 7-1）で出土している豚便所が現時点ではもっとも時期がさかのぼり，いずれも便所豚舎分離型で，西北国棉五場Ｍ95 遺跡のものは，四角に囲んだ施設内に畜舎と便所が同居する。便所は畜舎に近接しておらず，人糞を含む豚の飼料は，畜舎に取り付けられた餌投入口から畜舎内の豚に与える構造である。

淮陽于庄Ｍ１遺跡は，庄院を模した家屋明器である。その構造は大門・前院・中庭・後院という複雑な構造で，さらに塀内部に田園があり，そこに灌漑施設までを表現している。豚舎は後院の背後，厨房の隣に設置する。便所は，豚舎から少し離れた場所に２カ所設置してある。報告書では豚舎の隣も便所としているが，構造から見て便所ではなく，おそらく人糞を餌として与えるための餌投入口であろう。豚舎と便所が分離した，便所豚舎分離型と考えられる。

前期から中期初めの豚便所の特徴は，家屋内に豚舎を設置することが始まるが，まだ便所と豚舎が完全には合体しない構造である。出土例も少なく，陝西省と河南省の２地域である。

２　前漢中期

前漢中期の豚舎・豚便所の分布域は，前期と比較して広がる。しかし陝西・河南省から同心円上に拡散するのではなく，黄河下流域の山東・江蘇北部地域，大陸南端の広州地域の２カ所に，飛び地的な分布を示す（図 2）。

河南地域の出土例は鄭州乾元北街遺跡［鄭州市博物館 1985］の１例のみで，豚舎型が出土している。豚舎は，庭院（中庭をもつ屋敷）の家屋明器の厨房部分に隣接しており独立した構造ではない。前期の河南省淮陽于庄Ｍ１遺跡と同様に，便所は屋内の他の場所に設置した構造と推定される。

山東・江蘇北部地域では，山東省微山Ｍ２・３遺跡［微山県文物管理所 1995］で，それぞれ豚舎屋根付型と豚舎型（方形）が出土する。江蘇省北部では，銅山李屯遺跡［除州博物館 1995］（図 8-7），

銅山荊山遺跡［除州市博物館 1992］（写真1-9），除州東郊陶楼M3遺跡［除州市博物館 1993］（図8-6，写真1-10）で便所豚舎内包型が出土する。

広州地域では，河南地域や山東・江蘇北部地域とは異なる型式の豚便所が出土する。その構造は，人糞落下形式で便所の上部が家屋になり，1階部分が畜舎になった高床家屋式の高床家屋a型である［広州市文物管理委員会・広州市博物館 1981］（出土例表の広東省を参照，図11-1～2，写真5-1）。

この時期の豚便所の構造からみた地域性は，河南地域では屋内で便所と豚舎が分離した構造である便所豚舎分離型が前期に引き続いて出土するのに対して，山東・江蘇北部地域では，豚便所内包型という便所と豚舎が合体した型式が新たに誕生する。一方，大陸南端の広州市地域では，高床家屋型という華北とは異なる型式の豚便所が出現する。

3 前漢後期

豚便所の分布の中心は，前漢中期と同様に河南地域，山東・江蘇北部地域，および広州市地域である（図3）。

河南地域の新野樊集遺跡［河南省南陽地区文物研究所 1990］では，M15，M16（図6-6，写真2-1），M19（図6-5，写真2-2），M33（図6-3，写真2-3），M34，M36，M42で，便所豚舎隣接型が出土する。同遺跡のM1，M11，M12，M25（図6-9，写真2-5），M39（図6-8）では，便所豚舎内包型が出土する。便所豚舎内包型，隣接型は便所と豚舎が合体した型式であり，前漢中期の山東・江蘇北部地域が初源であるが，後期では河南地域でも使用されるようになる。

済源泗澗沟M8遺跡［河南省博物館 1973］（写真2-8），鄭州南関M159遺跡［河南省文化局文物工作隊 1960］（図7-7，写真2-4）で，便所下豚舎方形a型が出土する。新野樊集遺跡M37（図6-2，写真2-6）では，屋内型に設置された人糞落下方式の便所下豚舎方形a型が出土する。

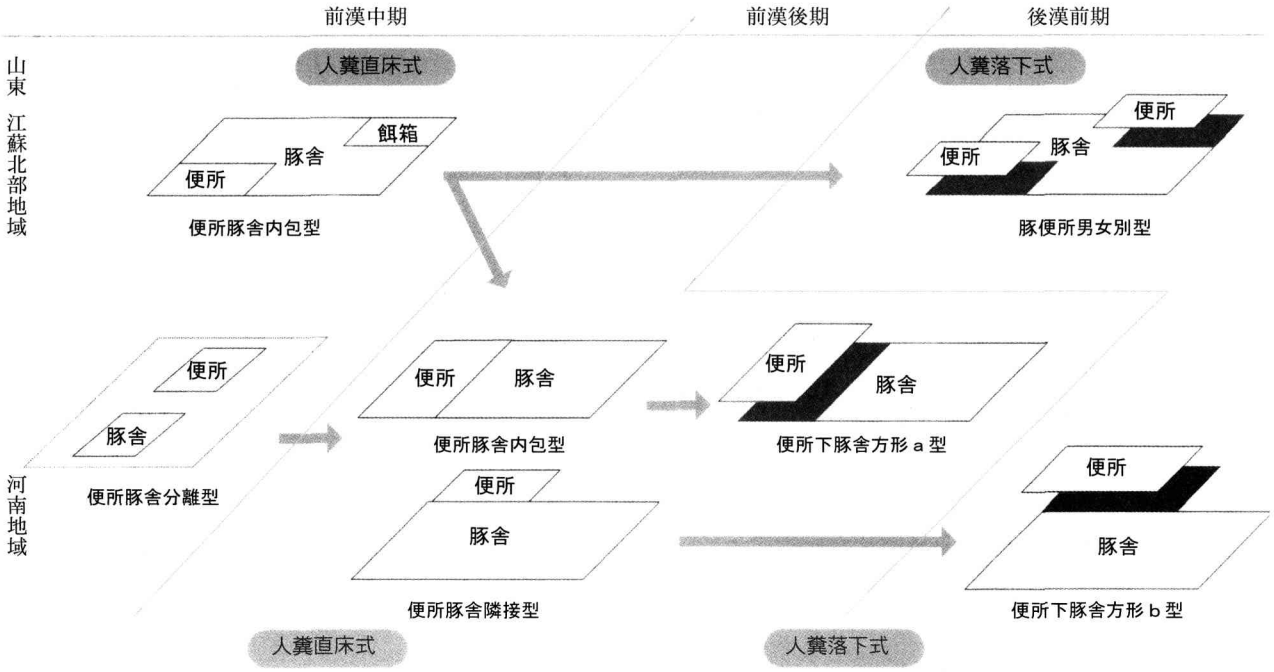
山東・江蘇北部地域では，山東省滕州官橋車站村M10遺跡［山東省文物考古研究所魯中南考古隊・滕州市博物館 1999］で，便所豚舎内包型が，山東省微山漢画像石M9遺跡［微山県文物管理所 1998］で豚舎屋根付型が出土する。江蘇省北部地域でも，除州石橋M2遺跡［除州博物館 1984］で，豚便所が出土しているが型式は不明である。

広州市地域では広州漢墓から，中期に引き続き高床家屋a型（出土例表の広東省を参照，図11-3，写真5-2）が出土する。

前漢後期は，中期に引き続き豚便所の分布域に大きな変化は認められない。また，山東・江蘇北部地域と広州地域においても，中期と比較して豚便所に型式変化は認められない。しかし河南地域では，豚舎と便所が合体した構造である便所豚舎隣接・内包型と，人糞落下式の便所下豚舎方形型という中期とは異なる構造の豚便所が新たに出現する。便所豚舎隣接・内包型は，前漢中期の山東省ですでに出現している。前漢後期においては，新野樊集遺跡の時期が，便所下豚舎方形型を出土する済源泗澗沟M16遺跡や，鄭州南関M159遺跡よりも，若干さかのぼることから，便所豚舎隣接・内包型一便所下豚舎方形型という型式変化をたどると考えられる（模式図1）。

4 後漢前期

後漢前期は，豚便所の分布域が，湖北・湖南地域と広西壮族自治区地域に拡大する（図4）。



模式図１　人糞直床式から人糞落下式への豚便所型式変化

河南地域では，前漢後期に誕生した便所下豚舎方形型が引き続き出土する。

［河南地域，山東・江蘇北部地域］

桐柏万崗Ｍ５遺跡［河南省文化局文物工作隊 1964］からは，便所下豚舎方形ａ型が，同じく桐柏万崗Ｍ９遺跡［河南省文化局文物工作隊 1964］では，便所下豚舎方形ａ型が２点出土する。偃師姚孝経遺跡［偃師商城博物館 1992］（図 7-6）では，この時期が初めて便所下豚舎方形型のうち，便所を豚舎に横付けするタイプのｂ型が２点出土する。

南陽石橋鎮遺跡［南陽博物館 1982］で，便所下豚舎方形型が，南陽楊官寺遺跡［河南省文化局文物工作隊 1963］（図 15-2）では豚便所独立屋内型が出土する。

山東・江蘇北部地域では，臨淄金嶺Ｍ１遺跡［山東省文物考古研究所 1999］（写真 1-11）から，豚便所男女別ａ型が出土する。この型式は人糞落下式であり，山東・江蘇北部地域でも，広州地域，河南地域に引き続き，後漢前期以降人糞落下式が主流をしめるようになる。

ここで，河南地域，山東・江蘇北部地域の前漢中期～後漢前期までの型式変化をまとめておこう（模式図 1）。河南地域および，山東・江蘇北部地域の豚便所型式変化は，人糞直床式から人糞落下式としてとらえられる。河南地域の前漢前期・中期に出現した便所豚舎分離型の豚便所は，前漢中期になると便所と豚舎が合体する便所豚舎内包型と便所豚舎隣接型へと型式変化する（模式図 1，下段）。前漢後期は，この人糞直床式がさらに人糞落下式へと変化し，豚便所下豚舎ａ型が出現する。ａ型は豚舎内の上部に便所をもつことから，便所豚舎内包型の便所部分が持ち上がった型式変化ととらえて間違いなかろう。この人糞直床式という二次元的豚便所から，人糞落下式の三次元的豚便所への変化の合理的な点は，餌供給源である人間と便所を豚舎の上部に移動し設置することで，人糞を豚舎に移動させる手間を省き，いわば餌供給の自動化を実現した仕組みにある。

便所下豚舎方形ｂ型は後漢前期に出現するが，これは便所位置が豚舎外部に隣接する型式であることから，前漢後期の便所豚舎隣接型がその祖形と考えられる。このように，便所下豚舎方形型の

a型とb型は，基本的に同じ機能をもつが，その構造の相異は，祖形になる人糞直床式の型式の違いに由来するものと考えられる。

山東・江蘇北部地域においても，河南地域と同様に人糞直床式から人糞落下式への型式変化がたどれる。前漢中期に出現した山東・江蘇北部の便所豚舎型は，豚舎の対角線上に便所と餌箱を設置する型式である（模式図1，上段）。後漢前期に出現する豚便所男女別型は，便所豚舎内包型内の便所部分がそのままもちあがり，さらに対角線上の従来豚の餌箱であった位置にもう1カ所便所を設けるという，人糞直床式から人糞落下式への型式変化としてとらえられる。

前漢中期において，河南地域では便所と豚舎は合体していない。しかし，この時期山東・江蘇北部地域では便所と豚舎が合体した，便所豚舎内包型がすでに出現している。河南地域の前漢中期から前漢後期にかけて便所が豚舎と合体する型式変化は，山東・江蘇北部地域の豚便所の仕組みそのものを模倣した可能性も考えられる。

［江蘇南部・浙江地域］

邗江甘泉M2遺跡［南京博物院 1981］から，便所下豚舎方形型が出土する。この地域の本格的な豚舎・豚便所需要は，後漢以降の西晋に入ってからであり，漢時代の類例はきわめて少ない。

［湖北地域，湖南地域］

湖北・湖南地域では，この時期豚便所に先行してまず豚舎が出現する。湖北地域は，豚舎の平面が方形を，湖南の豚舎は円形を呈するという地域性を示す。

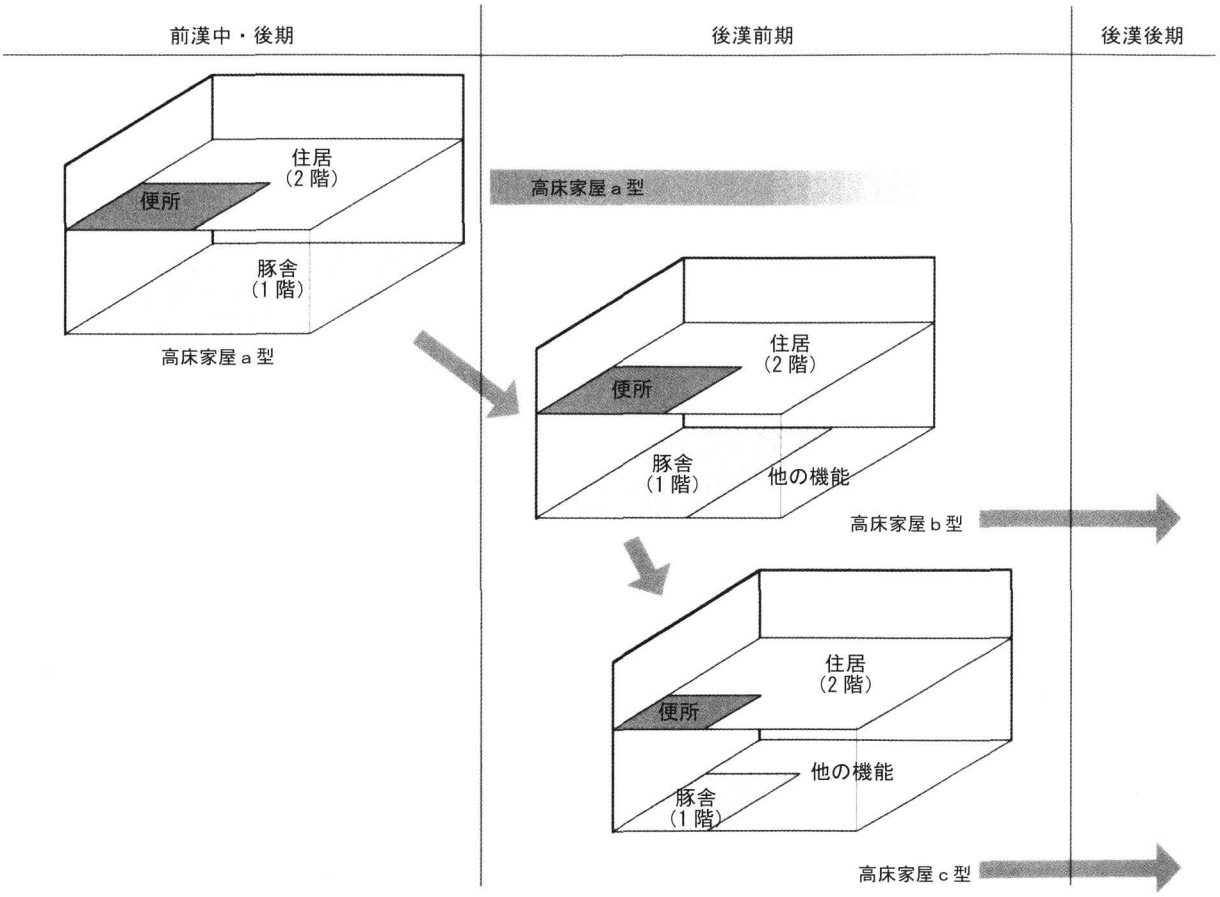
湖北地域では，劉家屋場遺跡［宜昌地区博物館・宜都県文化館 1987］と襄樊M1遺跡［襄樊市博物館 1993a］（図9-5）で，豚舎屋根付型が出土しているが，いずれも豚舎平面形が方形を呈する。宜都劉家屋場M16遺跡［宜昌地区博物館・宜都県文化館 1987］（図9-3）では，豚舎型（方形）が出土する。

湖南地域では，資興M160遺跡［湖南省博物館・湖南省文物考古研究所 1995］，資興M30遺跡［湖南省博物館・湖南省文物考古研究所 1995］，衡陽鳳凰山M9遺跡［衡陽市文物工作隊 1993］（図9-7），で，豚舎屋根付型が出土するが衡陽市鳳凰山M9遺跡を除いて，豚舎の平面形が円形を呈する。衡陽M14遺跡［衡陽市文物工作隊 1994］，衡陽M6遺跡［衡陽市文物工作隊 1994］（図9-8）で豚舎型が出土するが，豚舎は円形である。

［広州市地域］

広州市地域では，前漢後期に引き続き高床家屋型が出土する（出土例広東省表参照，図11-4～6，図12-1･4，写真5-4～9）。この時期には，広州市地域では従来のa型に加えて，新たにb，c型の高床家屋型が出土する。b型は，1階部分に，豚舎以外の機能を有したものである（図11-6，図12-1，写真5-6）。一方，c型は，1階部分が2室以上の部屋をもち，その面積が畜舎を上回る型式である（図12-4，写真5-9）。

広州市地域が他地域と異なるのは，前漢中期からすでに人糞落下式の豚便所が出現した点である（模式図2）。先にまとめたように，人糞直床式から人糞落下式への型式変化は，河南地域では前漢後期に，山東・江蘇北部地域では後漢前期に始まる。広州地域の高床家屋型豚便所は，人糞落下式の前漢中期にa型が出現し，その後後漢中期にb型とc型が派生するという型式変化がたどれる。しかし2階に便所部屋を設置し，階下の1階部分を豚舎にするという，家屋と豚便所を合体した人糞落下式という基本構造に変わりない。つまり広州市地域の豚便所のa一b・c型という型式変化



模式図２　高床家屋型の型式変化

は，１階部分において，豚便所以外の他の機能を増やすという構造上の多機能変化に特徴づけられる（模式図２）。

［広西壮族自治区地域］

前時期まで，高床家屋型の豚便所は，広州市の周辺のいわゆる広州漢墓からの出土に限定されていたが，この時期になると分布域は広東省の西側，広西壮族自治区まで広がる。

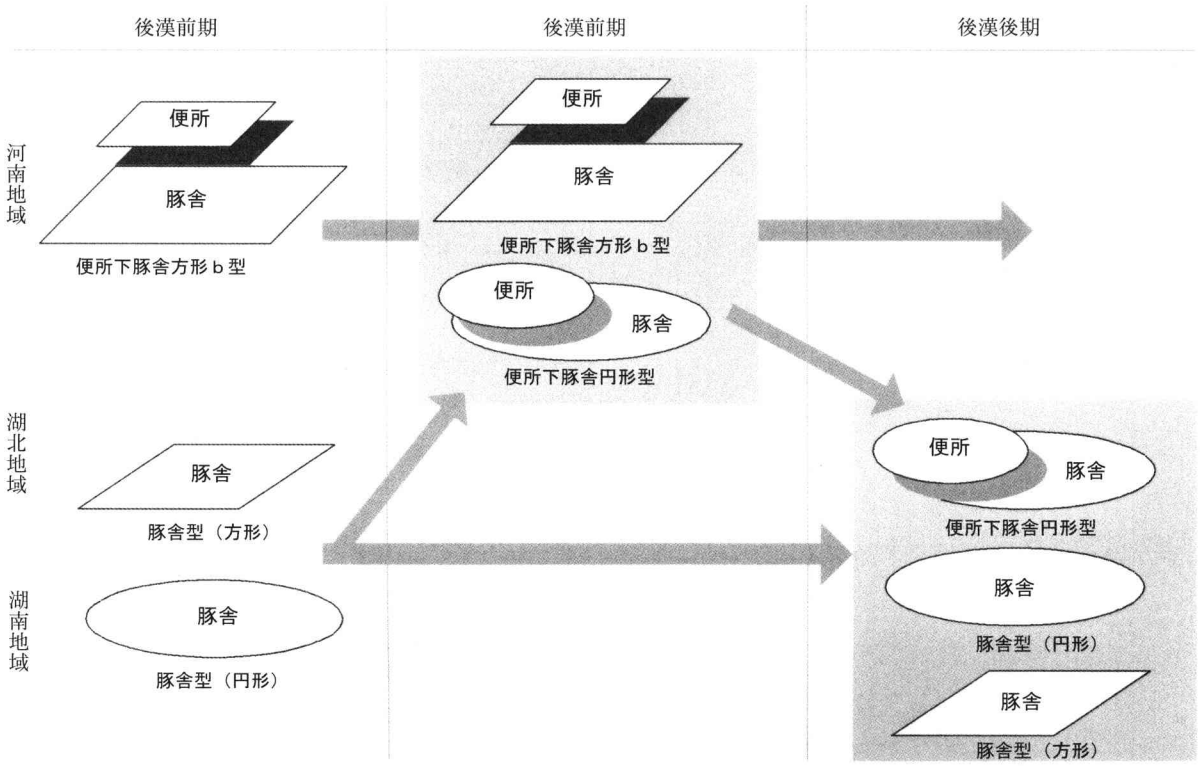
貴県北郊水電M５遺跡［広西壮族自治区文物工作隊 1985］，合浦母猪嶺M１遺跡［広西文物工作隊・合浦県博物館 1998］，北海盤子嶺M９遺跡［広西壮族自治区文物工作隊 1998］，合浦豊門嶺M 10 遺跡［合浦県博物館 1995］から，高床家屋ａ型が出土する。貴県北郊M１遺跡［広西壮族自治区文物工作隊 1985］からも，高床家屋型（詳細型式不明）が３点出土している。

５　後漢中期

出土点数が，後漢前期と比較して，格段に増加する。この傾向は後漢後期に継承される（図５）。また，従来地域性を有していた，河南地域の便所下豚舎方形型，山東・江蘇北部地域の豚便所男女別型，広州市地域の高床式豚便所が分布域を広げ，異なった型式の豚便所が重複して分布する傾向を示す。

［河南地域］

洛陽焼溝漢墓［洛陽区考古発掘隊 1959］からの出土例が多く，23 例を数える（出土例河南省参照）。この時期は，便所下豚舎方形型が出土の中心を占める（写真２-９）。しかし，山東・江蘇北部地域で後漢後期に登場した，豚便所男女別ａ型が洛陽邙山M 50 遺跡［中国社会科学院考古研究所 1991］（写真 2-14）や栄陽河王村遺跡［河南省文物局文物工作隊 1960］で出土する。



模式図３　便所下豚舎円形型の系譜

その一方で，霊宝張湾Ｍ２，Ｍ３（写真2-13），Ｍ５［河南省博物館 1975］，洛陽焼溝Ｍ1008・1030［洛陽区考古発掘隊 1959］で，便所下豚舎円形型という新たな型式の豚便所が出現する。

［湖北地域，湖南地域］

湖北地域では，河南地域の前漢後期に出現した便所下豚舎方形ｂ型が，随州東城遺跡［王世振・王善才 1993］（図９-４）で出土する。

湖南地域では益陽Ｍ28遺跡［湖南省博物館・益陽県文化館 1981］と，衡陽茶山坳Ｍ26遺跡［衡陽市博物館 1986］（図９-10）で豚舎屋根付型（方形）が，大庸Ｍ９遺跡［湖南省文物考古研究所・湘西自治州文物工作隊・大庸市文物管理所 1994］（図９-９，写真3-7）で豚舎型（円形）が出土する。

ここで，河南地域で新たに登場した便所下豚舎円形型の系譜について述べておきたい。便所下豚舎円形型は，後漢前期に湖南地域に出現した豚舎円形型に求められる（模式図３）。豚舎円形型は，豚舎を囲む塀が柵である特徴をもつ。明器ではすかし文様風の表現であるが，これは実際の豚舎の周囲の柵列を表現したものと考えられる。後漢中期に，河南地域で出現する便所下豚舎円形型は，やはり柵囲いの豚舎円形型の上部に便所を併設した構造であり，従来便所下豚舎方形型に新たに加わった型式だと考えられる。また便所下豚舎円形型は，そのほとんどの型式がａ型の便所が豚舎内部に入り込む型式である。これは，豚舎内の餌箱があった位置の上部，つまり餌箱に人糞が落下する位置に便所を設定したと考えられる。この両者の型式がなぜ同時併存するかという問題については，「❸成立と受容」で豚便所の機能の分析等から後述したい。

［広州市地域，広西壮族自治区地域］

広州漢墓では，後漢中期の時期区分が行われておらず，この時期の豚便所出土の実体は不明である。広西壮族自治区の合浦母猪嶺Ｍ１遺跡［広西文物工作隊・合浦県博物館 1998］で，後漢前期から

中期と思われる高床家屋型豚便所が5点出土している。

6　後漢後期

河南，山東・江蘇北部地域および広州市周辺・広西地域における豚便所の型式は前時期と基本的に変化はないが，豚便所がさらに周辺地域へと拡散する時期である。

［河南地域］

便所下豚舎円形a型，豚便所男女別型，便所下豚舎方形b型が出土する。便所下豚舎方形型は洛陽焼溝漢墓M120，M122，M143，M144，M146，M148，M1020，M1027，M1029，M1035，M1037，M1038［洛陽区考古発掘隊 1959］で出土する。

便所下豚舎円形型豚便所は，洛陽焼溝漢墓以外の，霊宝張湾遺跡［河南省博物館 1975］だけでなく，山東省の済南青竜山墓［済南市文化局文物処 1988］，湖北省の武漢黄陂灄口遺跡［武漢市博物館 1991］と広い分布域を示す。

［その他の地域］

従来出土例のなかった北京市まで，分布域が拡大する〔出土例北京市参照〕。

広州市地域および広西壮族自治区地域の高床家屋型は，後漢後期では，b型式の1階が畜舎と畜舎以外の機能をもつ部屋に分かれるものや，c型式の畜舎に占める面積が，他の機能をもつ部屋の面積を上回る型式のものが主流になる。

（3）まとめ（表1，図13）

起源と分布

明器の出土からみた豚便所の初源は，陝西省の西北国棉五場M95遺跡と河南省淮陽于庄M1遺跡が最も古く，その時期は前漢終わりかもしくは中期初めと考えられる。考古資料による豚便所の証拠は，現時点ではこれ以上さかのぼることはできない。また豚舎・豚便所の分布には，偏りが認められる。豚便所が盛行する地域は，華北では河南地域と山東・江蘇北部地域と，華南の広州市地域である。湖北・湖南地域での豚便所の出現時期は，湖北で後漢中期，湖南で後漢後期と遅れる。一方長江下流域の江蘇南部・浙江地域では，漢時代の豚舎・豚便所の出土例は稀で，豚便所の使用は西晋まで時期が下る。

型式変化

河南地域と山東・江蘇北部地域における前漢中期から後期の豚便所の型式変化は，便所豚舎分離型（人糞直床式）一便所豚舎隣接型（人糞直床式）一便所下豚舎方形型・豚便所男女別型（人糞落下式）という型式変化をたどる。

湖北・湖南地域では豚便所の出現時期が，後漢中期まで下るだけでなく，湖南では，豚舎円形から豚便所である便所下豚舎円形型へと型式変化がたどれる。湖北においても同様に，豚舎円形から豚便所へという型式変化がたどれるが，豚舎円形型から便所下豚舎方形型へという遷遷過程をたどる。長江下流域の江蘇南部・浙江地域では，明器の出土から推定すると豚舎・豚便所の出現は西晋まで下り，河南地域，山東・江蘇北部地域，それに広州市地域と比較して遅れる。

人糞直床式と人糞落下式

河南地域と山東・江蘇北部地域では，前漢後期に人糞直床式→人糞落下式の変化がおこる。広州市地域では，前漢中期に人糞落下式である高床家屋型の使用が始まり，漢時代を通じてこの型式が変化することなく継続する。つまり人糞落下式の出現時期は，黄河中下流域よりも，広州市地域が早い。

地域色をもつ豚便所の拡散

後漢中期以降，便所下豚舎方形型（河南地域）・豚便所男女別型（山東・江蘇北部地域）・便所下豚舎円形（湖南地域）の各地域で成立した豚便所は，分布域を拡大していく。豚便所男女型は，後漢中期には河南で，後漢後期になると湖北でも出土がみられる。便所下豚舎方形は，後漢後期には，湖南，河南，山東・江蘇北部と広い分布域を示すようになる。

❸……成立と受容

問題点を，整理しておこう。

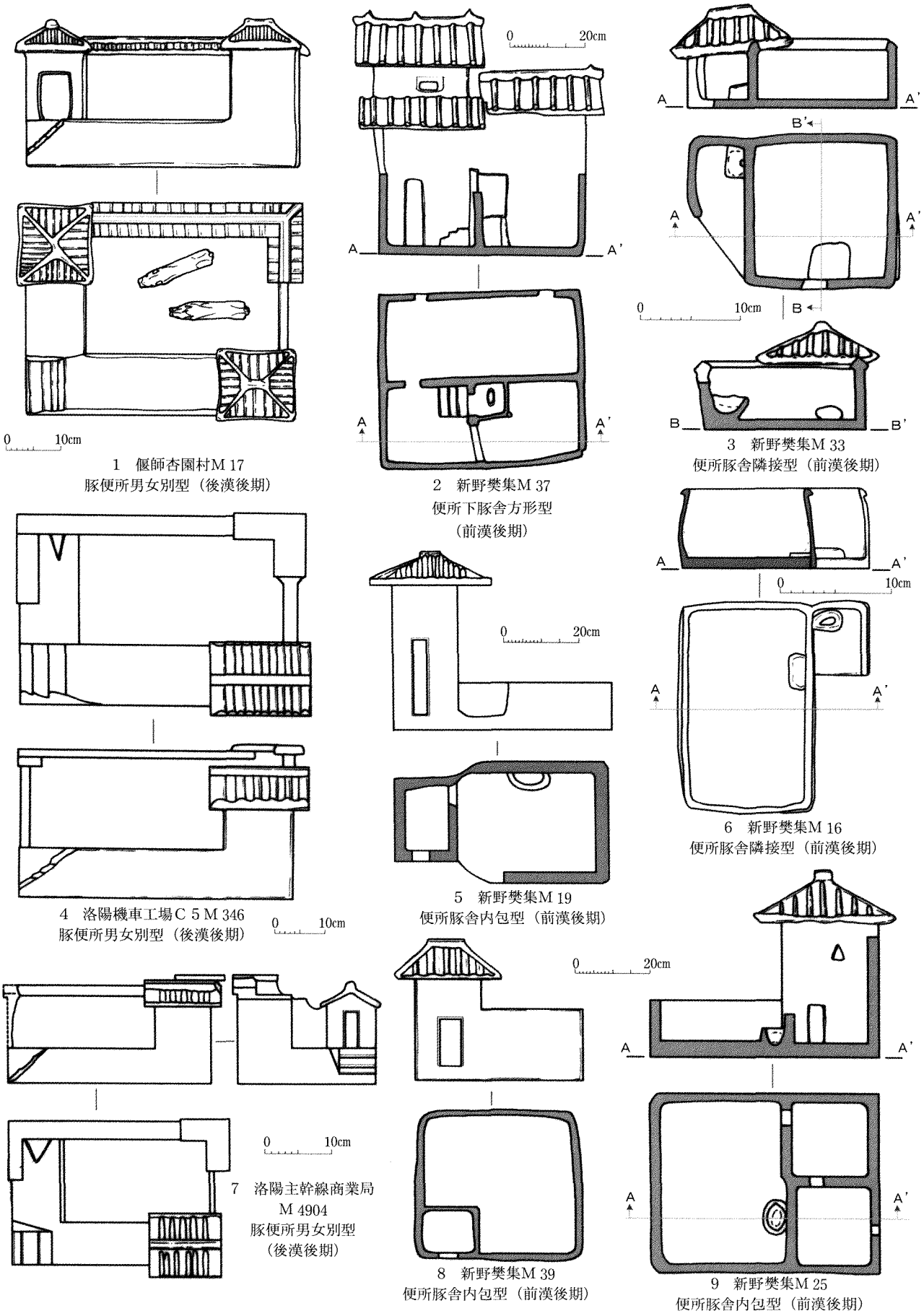
1　豚便所の出現は，明器だけでは成立時期を特定できない。
2　豚便所は，なぜ必要だったのか。
3　豚便所の成立過程に地域性が認められる。しかし後漢後期に，異なる豚便所が各地に拡散することに，どのような意味があるのか。
4　江蘇北部・浙江地域において豚便所の出現がおよそ西晋まで下るのはなぜか。
5　広州市地域の豚便所の出現は，前漢中期であり，しかもこの地域独特の高床家屋型は，どのような背景から成立したのか。

（1）舎飼いと豚便所の出現

現在中国で，豚の最も古い出土例は，河北省武安県磁山遺跡（約8050～7580年前）で，豚とともに，鶏・犬の骨も出土している。その他の新石器時代早期に属する遺跡で豚が出土した例として，黄河流域では，裴李崗文化（約8000年前），黄河下流域の北辛文化（約7000年前）があげられる。水田稲作地域の長江下流域では，河姆渡文化（約7000年前）で現在最も古い豚の骨が発見されている。この遺跡では，豚の臼歯のすり減り方から年齢構成を算出している。それによると1～2歳のものが54%，2～3歳のものが34%と大部分を占めていた。野生の猪を狩猟したのでは，おそらく年齢構成がうまく分かれないだろうということからも，遺跡から出土する骨は，家畜豚であると推定されている。

新石器時代の早い段階ですでに豚の存在は確認されているが，飼養方法そのものの研究はそれほど進展していない。舎飼いが想定される遺構例として，河姆渡遺跡で，50～60本の杭で作った，直径約1mの円形の柵が見つかっており，鳥や動物を入れておく柵囲だと推定している[浙江省文物管理委員会・浙江省博物館 1978]。陝西省臨潼姜寨遺跡では，直径約4mの円形で，周囲に木柵を巡し，内部には20～30cmの畜糞が堆積していた遺構が発見されている［半坡博物館・陝西省考古研究所・臨潼県文化館 1988]。家畜の種類は不明であるが，舎飼いの遺構であろうと考えられている。

骨の形態による豚の同定の他に，骨に含まれるC_4の量から，食べていた食物の種類を同定する



1　偃師杏園村M 17
豚便所男女別型（後漢後期）

2　新野樊集M 37
便所下豚舎方形型
（前漢後期）

3　新野樊集M 33
便所豚舎隣接型（前漢後期）

4　洛陽機車工場C 5 M 346
豚便所男女別型（後漢後期）

5　新野樊集M 19
便所豚舎内包型（前漢後期）

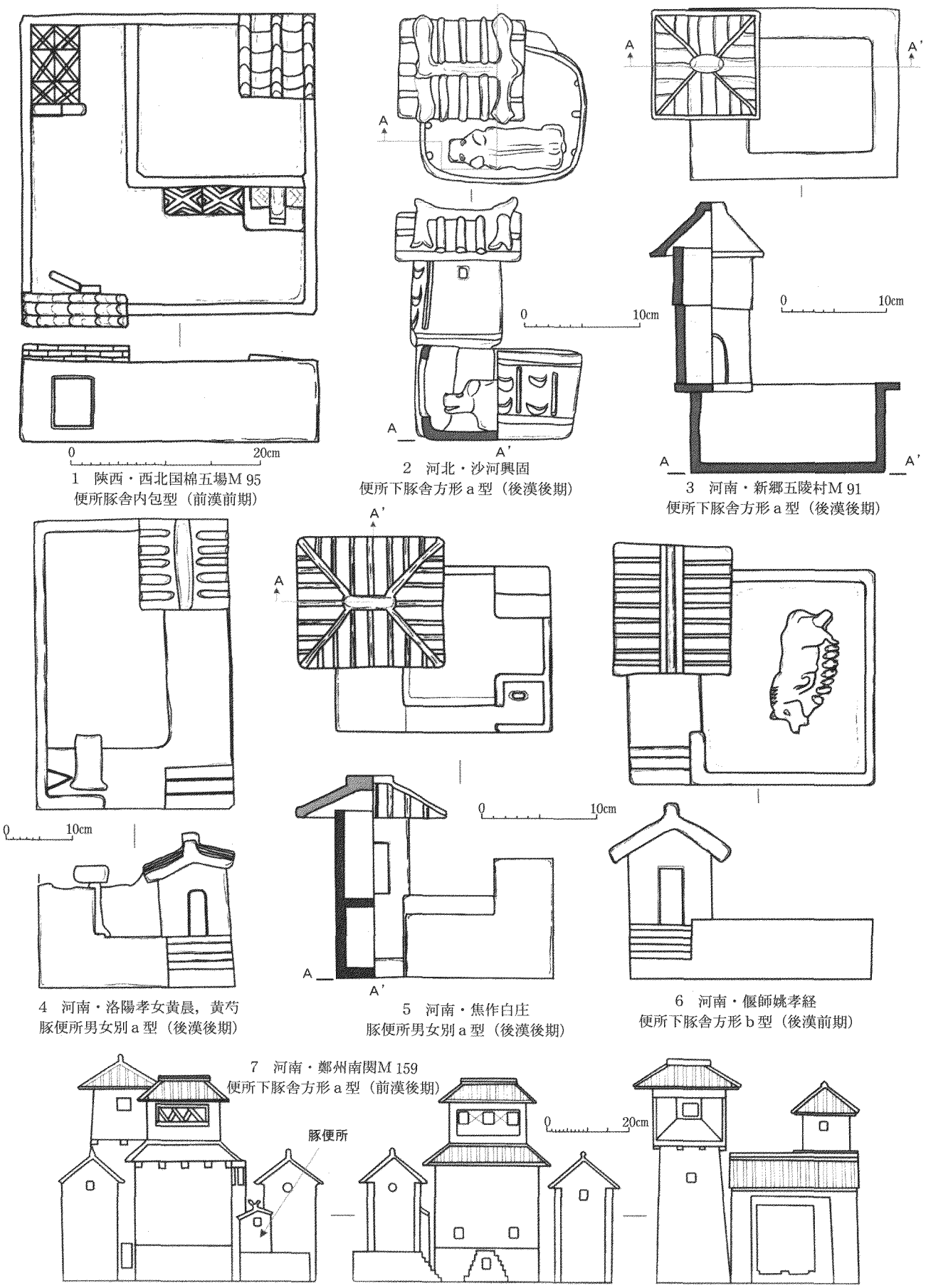
6　新野樊集M 16
便所豚舎隣接型（前漢後期）

7　洛陽主幹線商業局
M 4904
豚便所男女別型
（後漢後期）

8　新野樊集M 39
便所豚舎内包型（前漢後期）

9　新野樊集M 25
便所豚舎内包型（前漢後期）

図６　河南省の豚便所



1　陝西・西北国棉五場M 95
便所豚舎内包型（前漢前期）

2　河北・沙河興固
便所下豚舎方形ａ型（後漢後期）

3　河南・新郷五陵村M 91
便所下豚舎方形ａ型（後漢後期）

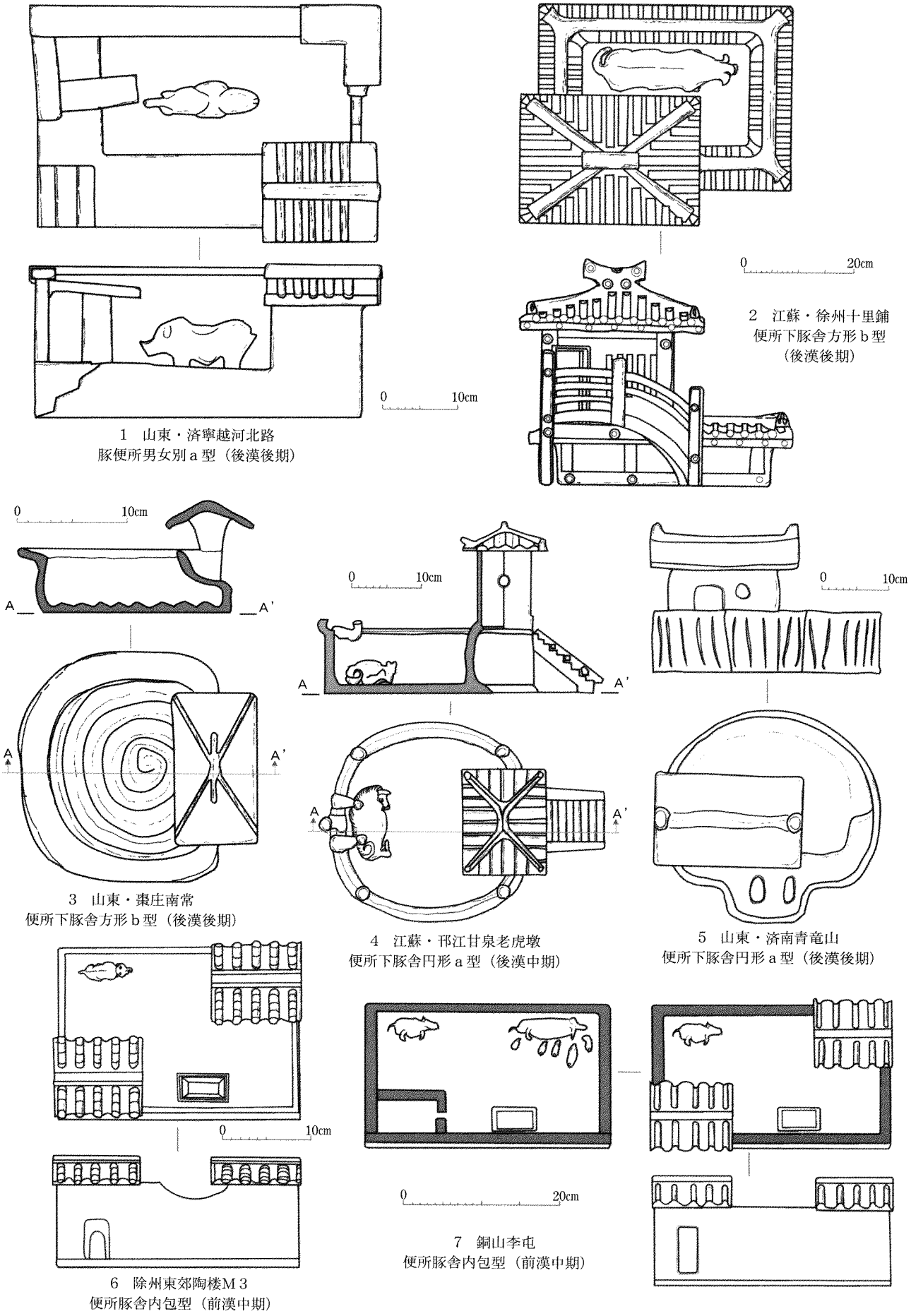
4　河南・洛陽孝女黄晨，黄芍
豚便所男女別ａ型（後漢後期）

5　河南・焦作白庄
豚便所男女別ａ型（後漢後期）

6　河南・偃師姚孝経
便所下豚舎方形ｂ型（後漢前期）

7　河南・鄭州南関M 159
便所下豚舎方形ａ型（前漢後期）

図７　陝西・河北・河南省の豚便所



1　山東・済寧越河北路
豚便所男女別ａ型（後漢後期）

2　江蘇・徐州十里鋪
便所下豚舎方形ｂ型
（後漢後期）

3　山東・棗庄南常
便所下豚舎方形ｂ型（後漢後期）

4　江蘇・邗江甘泉老虎墩
便所下豚舎円形ａ型（後漢中期）

5　山東・済南青竜山
便所下豚舎円形ａ型（後漢後期）

6　除州東郊陶楼Ｍ３
便所豚舎内包型（前漢中期）

7　銅山李屯
便所豚舎内包型（前漢中期）

図８　山東・江蘇省北部の豚便所

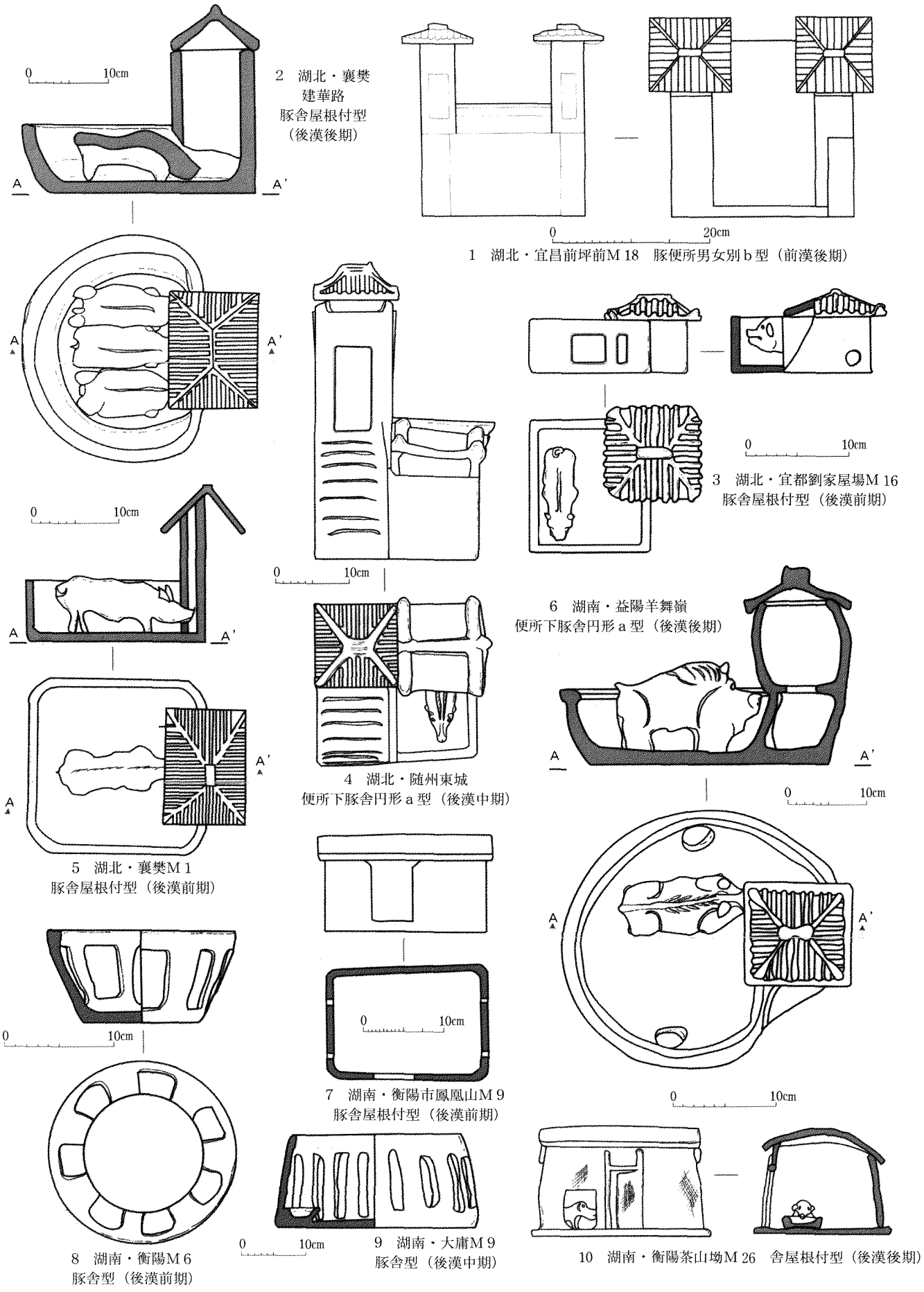
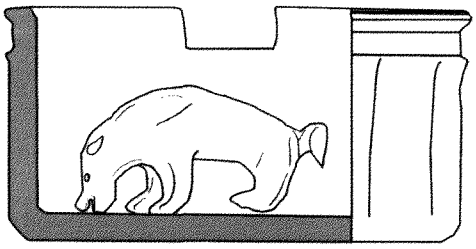
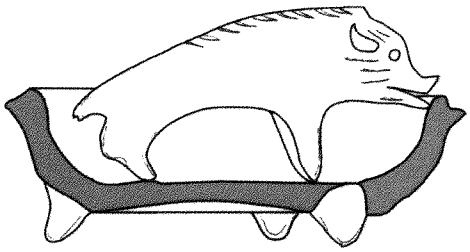


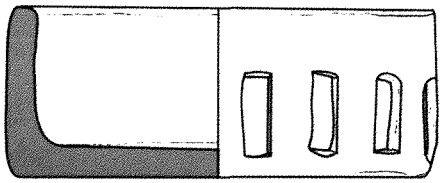
図9 湖南・湖北省の豚便所



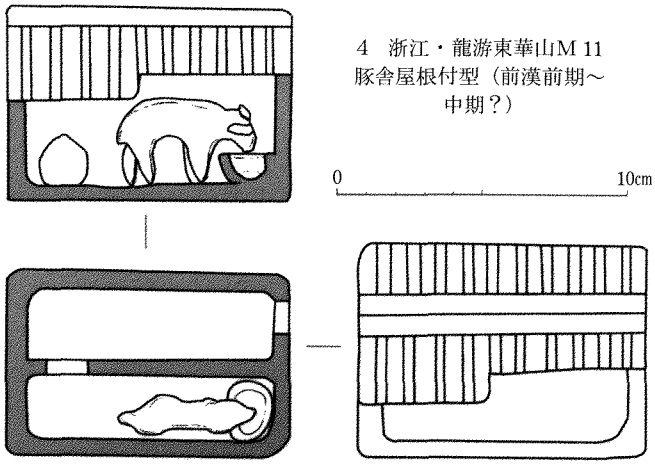
1　江蘇・江寧張家山
豚舎型（円形）（西晋）



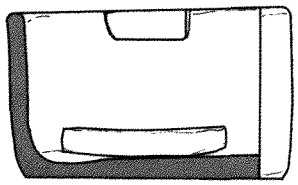
2　江蘇・江寧索野
豚舎型（円形）（西晋，太康元年，280 年）

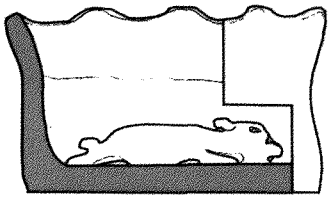


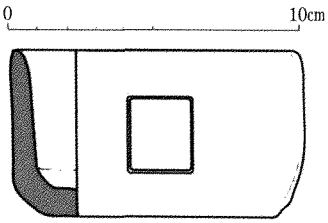
3　浙江・紹興鳳凰山
豚舎型（円形）（西晋，永嘉七年，313 年）

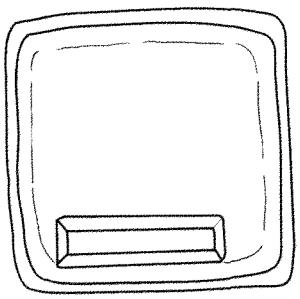


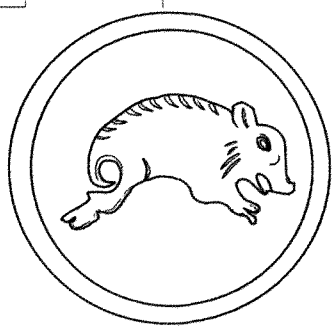
4　浙江・龍游東華山M 11
豚舎屋根付型（前漢前期～
中期？）

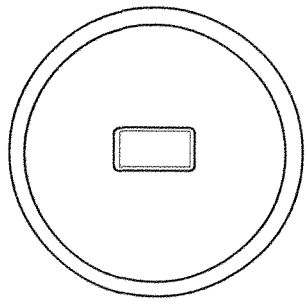










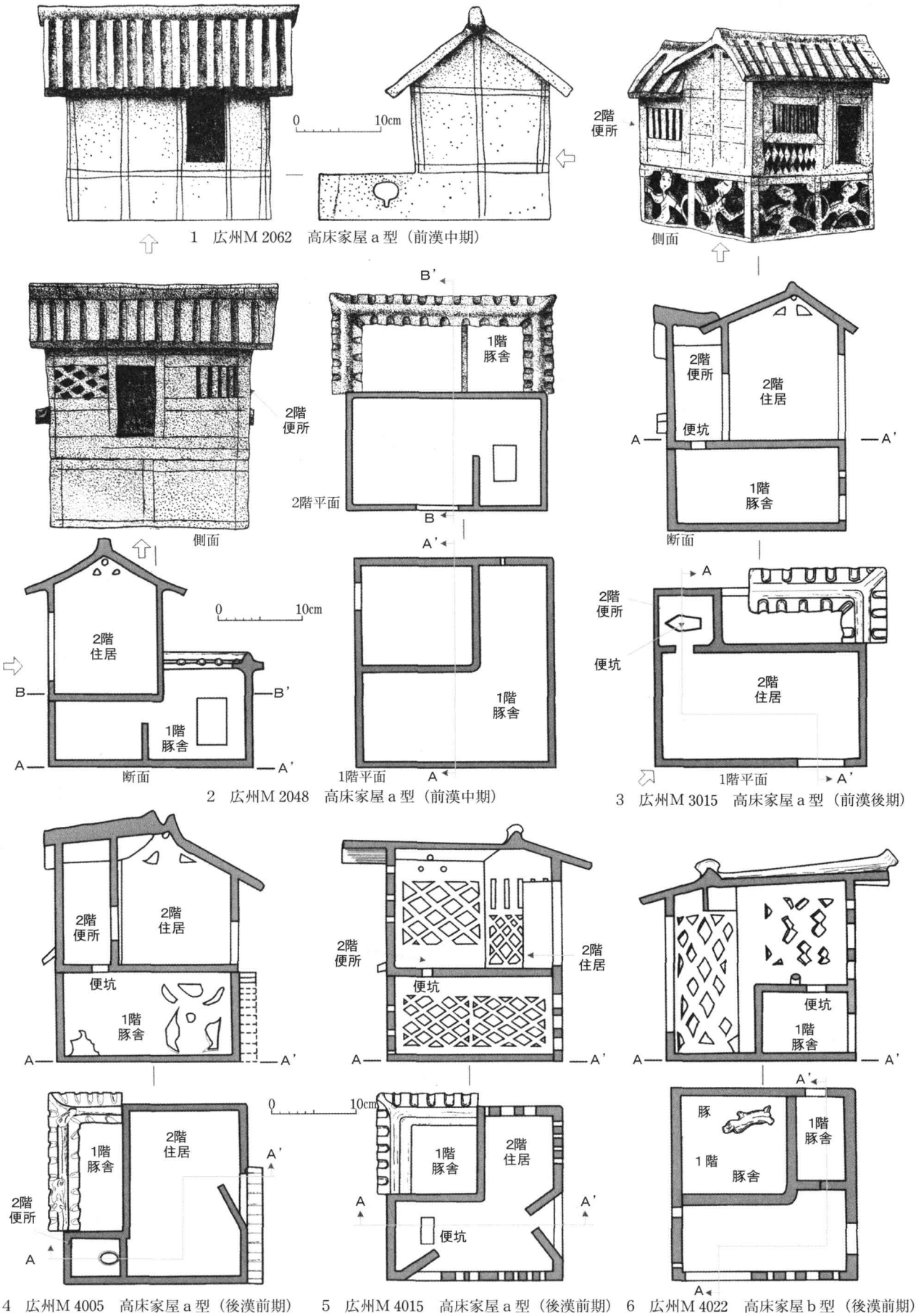


5　浙江・安吉天子崗M 3
豚舎型（方形）（西晋）

6　浙江・安吉天子崗M 2
豚舎型（円形）（西晋）

7　江蘇・江寧索野
豚舎型（円形）（西晋，太康元年，280 年）

図 10　江蘇省南部（南京周辺），浙江省の豚舎



1　広州M 2062　高床家屋ａ型（前漢中期）

2　広州M 2048　高床家屋ａ型（前漢中期）

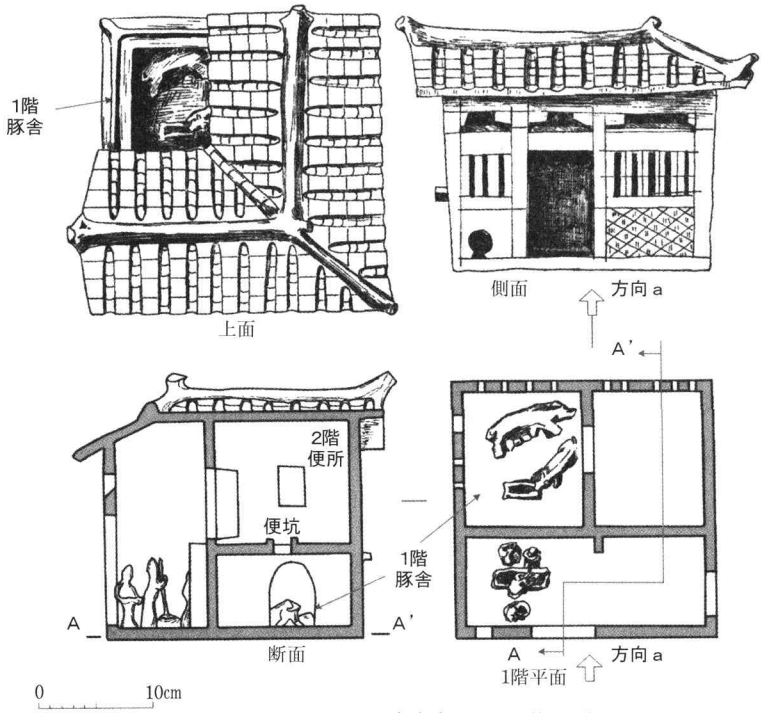
3　広州M 3015　高床家屋ａ型（前漢後期）

4　広州M 4005　高床家屋ａ型（後漢前期）

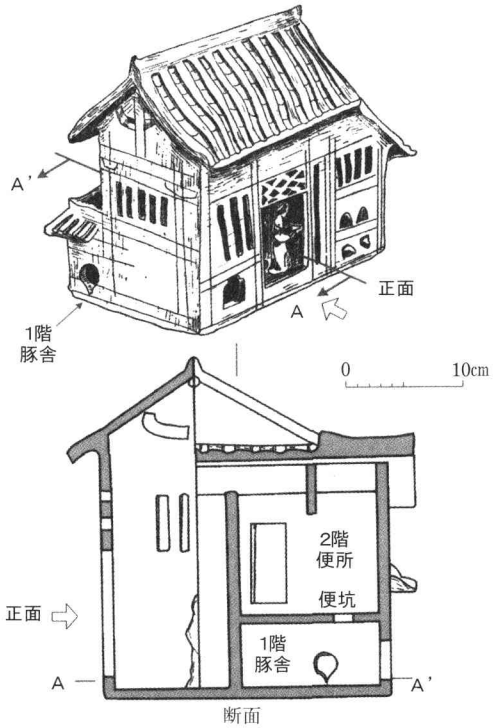
5　広州M 4015　高床家屋ａ型（後漢前期）

6　広州M 4022　高床家屋ｂ型（後漢前期）

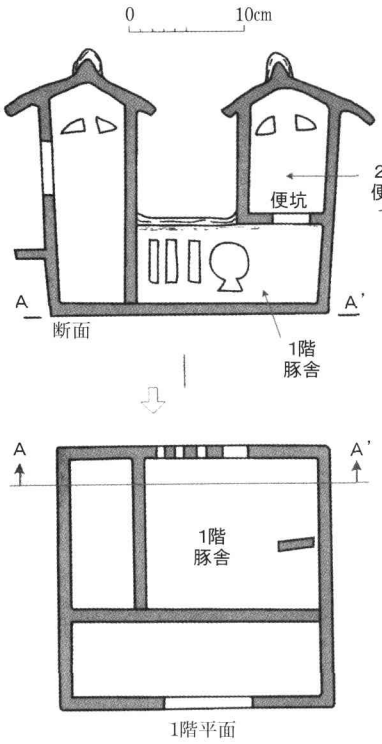
図 11　広東省広州漢墓の豚便所（１）



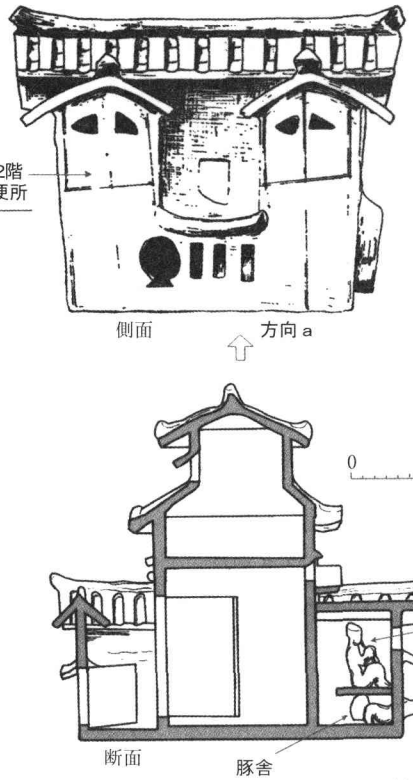
1　広州M 4011　高床家屋 b 型（後漢前期）

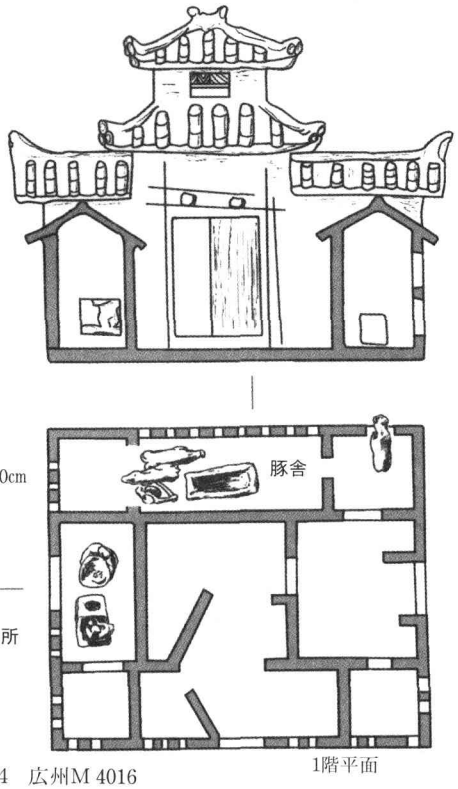


2　広州M 5008　高床家屋 b 型（後漢後期）



3　広州M 5070
高床家屋 b 型（後漢後期）





4　広州M 4016
高床家屋 c 型，楼閣式（後漢前期）

図 12　広東省広州漢墓の豚便所（2）

新たな試みがおこなわれている。山西省襄分市陶寺遺跡（約4000年前）から出土した豚の骨には，いずれもC_4を含む植物を多く摂取していたことがわかっている［中国社会科学院考古研究所山西工作隊・山西臨汾地区文化局 1986］。報告書では，C_4を含む植物であるアワが，貯蔵穴から大量に発見されていることから，アワ栽培の進展とともに，アワもしくはアワ殻を，豚の飼料としても利用していたのではないかと推定している。新石器時代において，家畜の飼い方の研究はまだ始まったばかりであり，わからない点が多い。袁靖は，中国における豚は，新石器時代開始と同時に始まったのではなく，農耕がある程度進展し，生産が安定した後，家畜化は始まると考えている［袁靖 2000］。

続く殷時代（前17・16～11世紀）になると，甲骨文字から，豚の舎飼いがすでにおこなわれていたという意見が提出されている。胡によると，甲骨文字の豚は「豕」と表現するが，この「丶」の部分は，豚を縄でつなぎ止めている意味だという［張1986］。反対に，猪は「彘」と書く。この「矢」の文字は，猪を弓矢で狩りすることを表している。「家」は，「宀・凸」で，豚の甲骨文字にお

表1　地域・時期の型式

		前漢前期	前漢中期	前漢後期	後漢前期	後漢中期	後漢後期	三国・西晋
華北	河南地域	便所豚分離型 （人糞直床式） － － － －	便所豚分離型 （人糞直床式） － － － －	? 便所豚舎隣接型 便所豚舎内包型 （人糞直床式） 便所下豚舎方形型 （人糞落下式） －	? － － 便所下豚舎方形型 （人糞落下式）	? － － 便所下豚舎方形型 （人糞落下式） － 豚便所男女別型	? － － 便所下豚舎方形型 （人糞落下式） 便所下豚舎円形型 （人糞落下式） 豚便所男女別型	? － － 便所下豚舎方形型 （人糞落下式） 便所下豚舎円形型 （人糞落下式） 豚便所男女別型
	山東・江蘇北部地域	－ － －	便所豚舎内包型 便所豚舎隣接型 （人糞直床式） －	便所豚舎内包型 （人糞直床式） －	－ － 豚便所男女別型 （人糞直床方式）	－ － 豚便所男女別型 （人糞落下式） －	－ － 豚便所男女別型 （人糞落下式） 便所下豚舎円形型 （人糞落下式）	－ － 豚便所男女別型 （人糞落下式）
華中	湖北地域	－	－	－	豚舎型（方形） 豚舎屋根付型	豚舎型（方形） 豚舎屋根付型 便所下豚舎方形方 （人糞落下式）	豚舎型（方形） 豚舎屋根付型 便所下豚舎方形型 （人糞落下式）	? ? ?
	湖南地域	－ －	－ －	－ －	豚舎型（円形） 豚舎屋根付型	豚舎型（円形） 豚舎屋根付型	豚舎型（円形） 豚舎屋根付型 便所下豚舎円形型 （人糞落下式）	? ? ?
	江蘇南部・浙江地域	－ － －	－ － －	－ － －	－ － －	－ － －	－ － －	豚舎型 豚舎型 便所下豚舎円形型
華南	広州地域	－	高床家屋型 （人糞落下式）	高床家屋型 （人糞落下式）	高床家屋型 （人糞落下式）	高床家屋型 （人糞落下式）	高床家屋型 （人糞落下式）	高床家屋型 （人糞落下式）
	広西地域	－	－	－	高床家屋型 （人糞落下式）	高床家屋型 （人糞落下式）	高床家屋型 （人糞落下式）	高床家屋型 （人糞落下式）

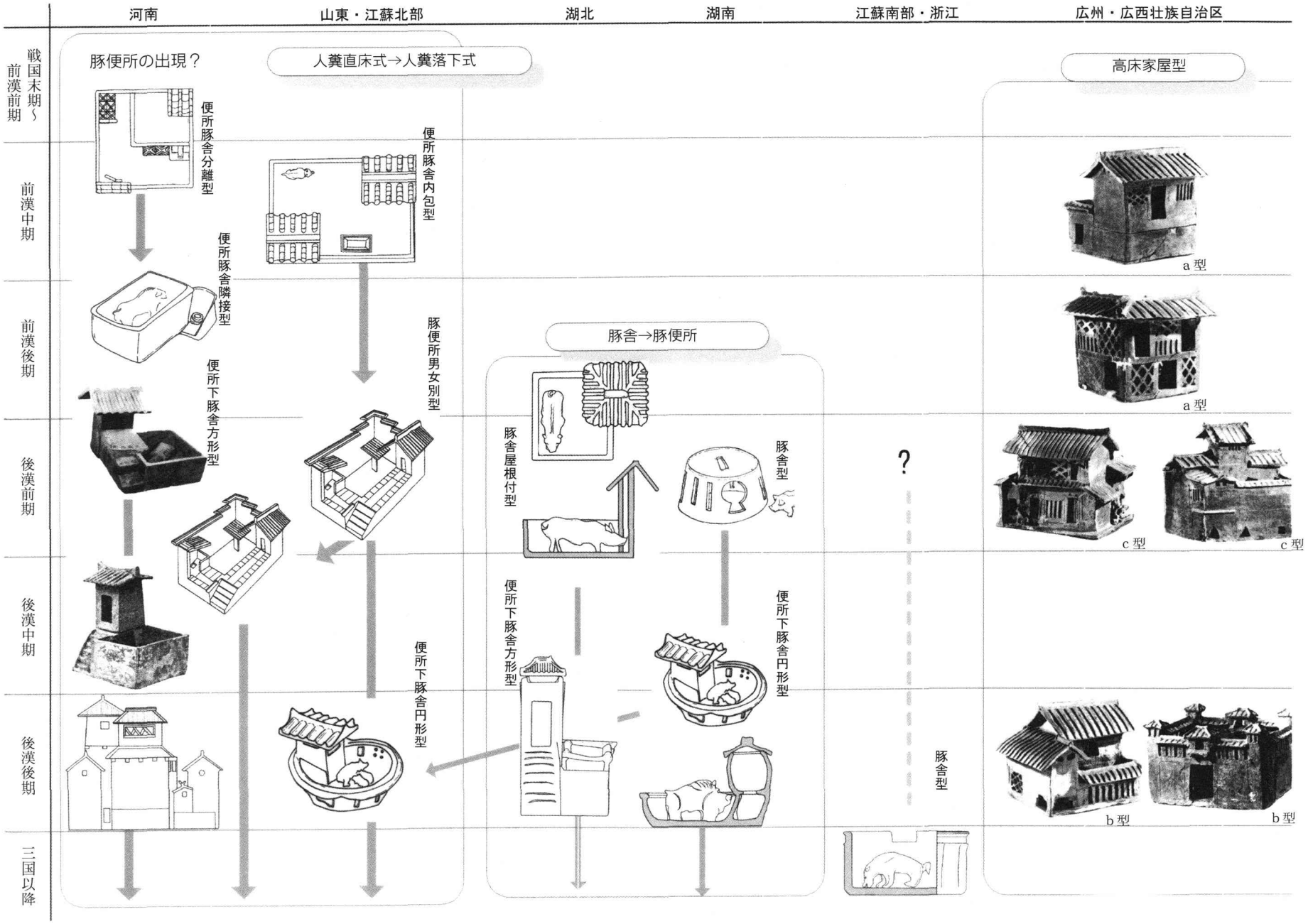

河南
山東・江蘇北部
湖北
湖南
江蘇南部・浙江
広州・広西壮族自治区
戦国末期～前漢前期
前漢中期
前漢後期
後漢前期
後漢中期
後漢後期
三国以降
豚便所の出現？
人糞直床式→人糞落下式
高床家屋型
便所豚舎分離型
便所豚舎内包型
便所豚舎隣接型
豚便所男女別型
便所下豚舎方形型
便所下豚舎円形型
豚舎→豚便所
豚舎屋根付型
豚舎型
便所下豚舎方形型
便所下豚舎円形型
?
豚舎型
a型
a型
c型
c型
b型
b型

図 13　編年概念図

ける象形は「[illegible]・[illegible]」である。この2つが合体したものが「[illegible]・[illegible]」として表現されており，豚の舎飼いの表現だけでなく豚便所と解釈する。張仲葛の意見に従えば，豚便所の起源が殷代までさかのぼることになる。

しかし，殷代以降での史料で豚便所と確実にわかる記録は戦国時代まで下る。たとえば周代の『左伝』成公十年に当時の便所の記事がある。「晋侯欲食麦……将食，張，如厠，陷而卒，小臣有晨梦負公登天，日及中，負晋侯出諸厠，遂以為殉」とあり，晋侯が急に腹痛をおこし，便所にいきそこで落ちて死んだ。便所はおそらくその下が深くほりくぼめられ，ため池（糞池）になっており，晋侯はそこに落ちこんで死んだと考えられる。

このような豚を飼養する豚舎が合体しない便所は，漢代にも存在した。山東沂南画像石に描かれた便所は，『左伝』に描かれた便所の下が糞池になったタイプのものであろう（図16）［南京博物院・山東省文物管理処 1956］。構造は独立した高床式の便所で，2階部分が用を足す部屋になっている。その下が糞尿をためる糞池で，周囲は柵が設けられその周囲には塼が敷き詰められている。そばでは，女性が掃除をしており，水をためるための缸と，虎子（尿瓶）と清（掃除道具）が置かれている。夜の部屋での用足しは，時には便所まで足を運ばす，寝間で用を足すことも併用して行われていたのだろう。山東省で後漢前期の臨淄金嶺遺跡［山東省文物考古研究所 1999］から，便所明器が出土している（図17）。独立した家屋で，数間の便所部屋が長屋式に連続し，その下が糞池になっている。

『国語』晋語四に，「臣聞昔者大任娠文王不変，少溲于豕牢而得文王」とある。太任が文王を妊娠したが変化がない。そこで小便を「豕牢」ですると，文王が生まれたという文王誕生の物語が語られている。内容については，文王誕生神話であるが，少なくとも戦国時代の生活を反映していると考えてよい[(2)]。「豕牢」で小便をする行為から，便所と畜舎が合体していた様子が窺え，豚便所がこの時期成立していたことが推定できよう。

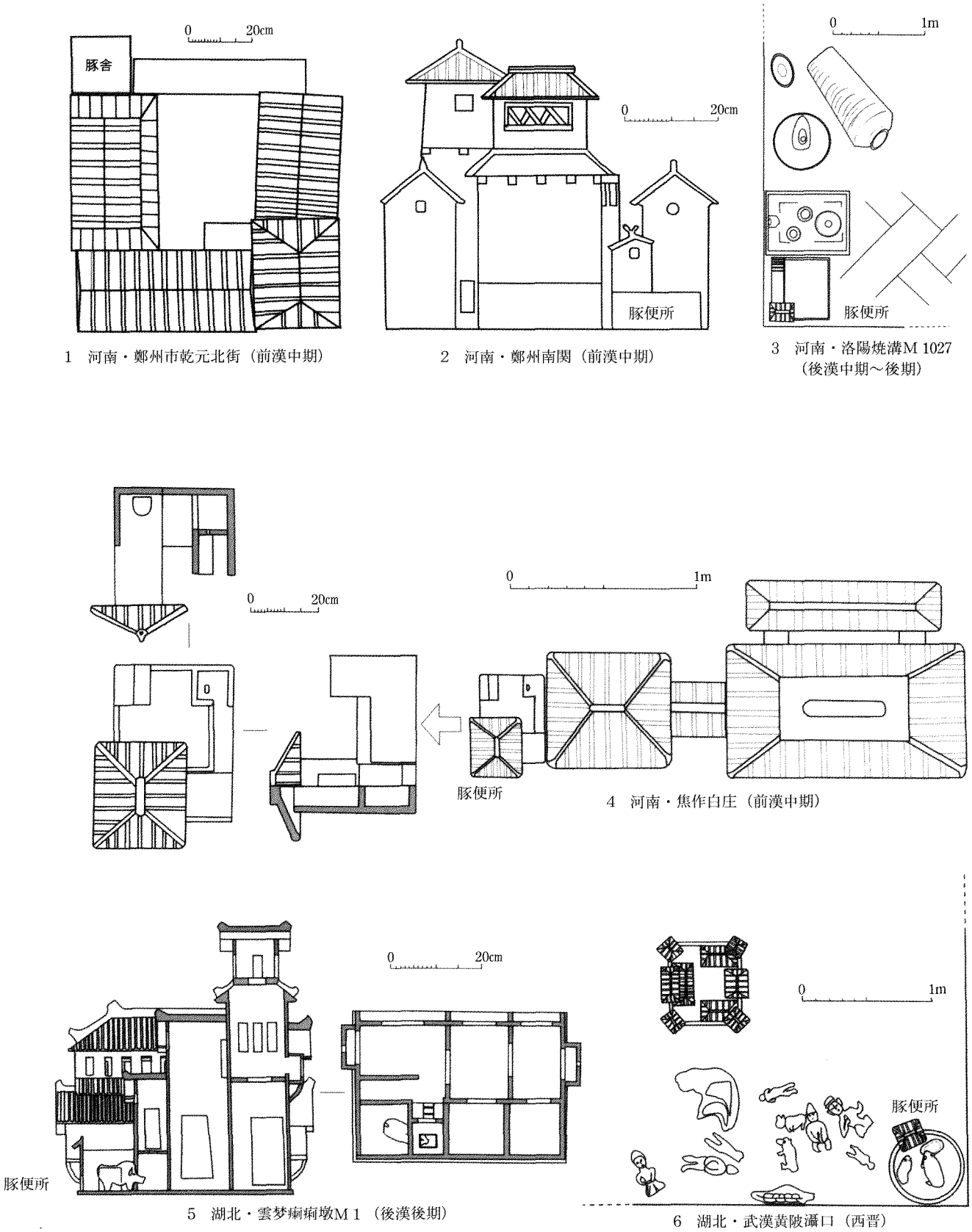
「太后遂断戚夫人手足，去眼，輝耳，飲瘖薬，使居厠中，命曰人彘」（『史記』「呂太后本紀」）。前195年高祖が没し盈が即位して恵帝となると，呂后は高祖の諸王子を次々と殺した。高祖は生前，寵妃戚夫人の子趙王如意を盈にかえて皇太子にすることを考えたらしいが，そこで呂后は復讐のため，まず如意を毒殺し，さらに戚夫人の手足を断ち，眼球をえぐり，薬で聾唖にし，厠に投げ込んで人豚と呼ばせた。豚便所の確実な史料であり，しかも当時の貴人が，豚便所を日常的に使用していたことがわかる[(3)]。

『墨子』守城篇に豚便所の設置場所が想定できる記事がある。「五十歩一厠，与下同溷，之厠者不得操」とあり，便所の設置方法が説かれており，その下に豚舎が合体した様子が描かれている。しかも，豚便所を城内に設置している点は注目に値する[(4)]。

漢時代には，便所から豚が飛び出した記事がある。『漢書』武五子傳に，「厠中豕群出，壊大官竈」とあり，これは豚便所内の豚が，豚舎の塀を乗り越えた状況を示したものであろう[(5)]。

以上文献から豚便所の成立年代を考えた場合，殷までさかのぼる可能性を残しつつも，確実な豚便所の文献史料の年代は，戦国もしくは前漢初めまで下る。

では豚便所でどのように豚を飼育していたのか。時代の下る北魏（6世紀）の農書である『斉民要術』に豚の飼育の方法がかなり詳しく述べられている。



1　河南・鄭州市乾元北街（前漢中期）

2　河南・鄭州南関（前漢中期）

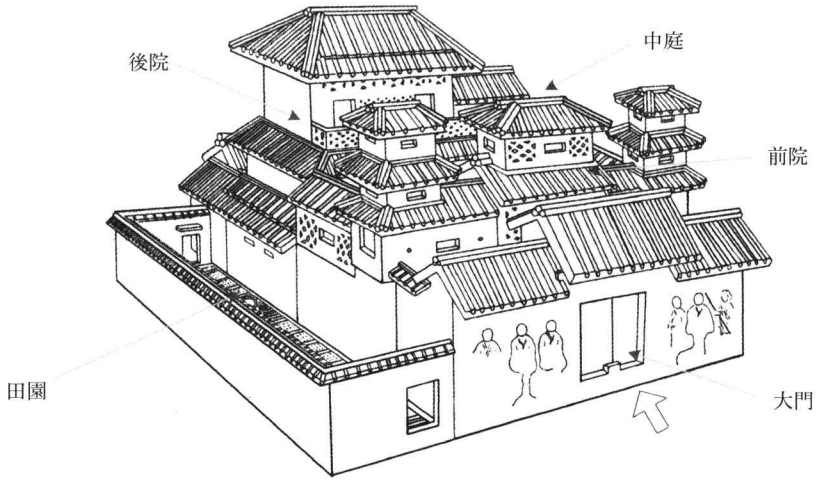
3　河南・洛陽焼溝M 1027（後漢中期～後期）

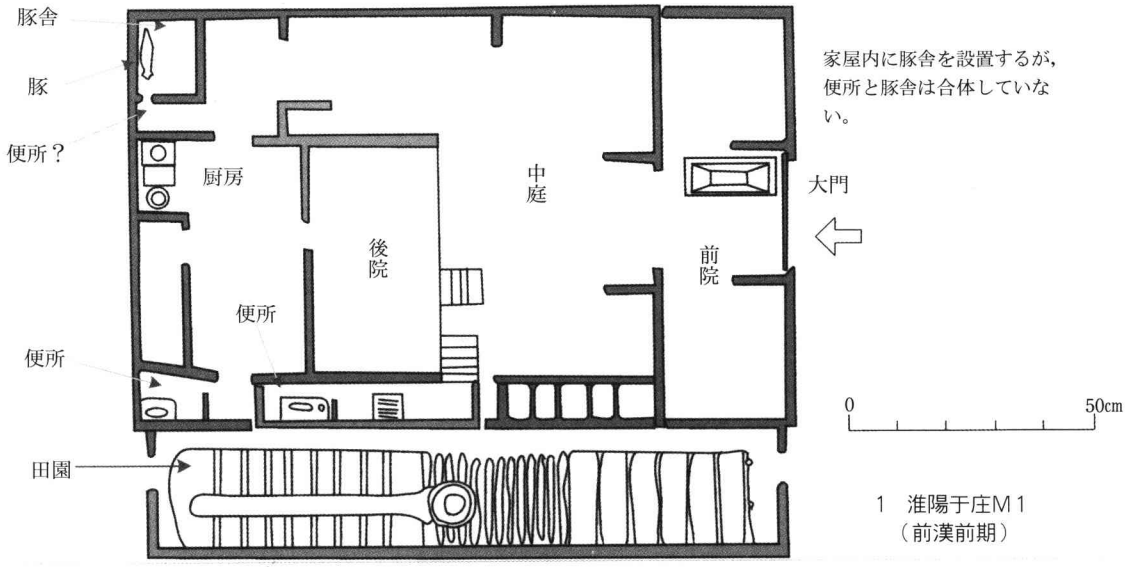
4　河南・焦作白庄（前漢中期）

5　湖北・雲梦痢痢墩M 1（後漢後期）

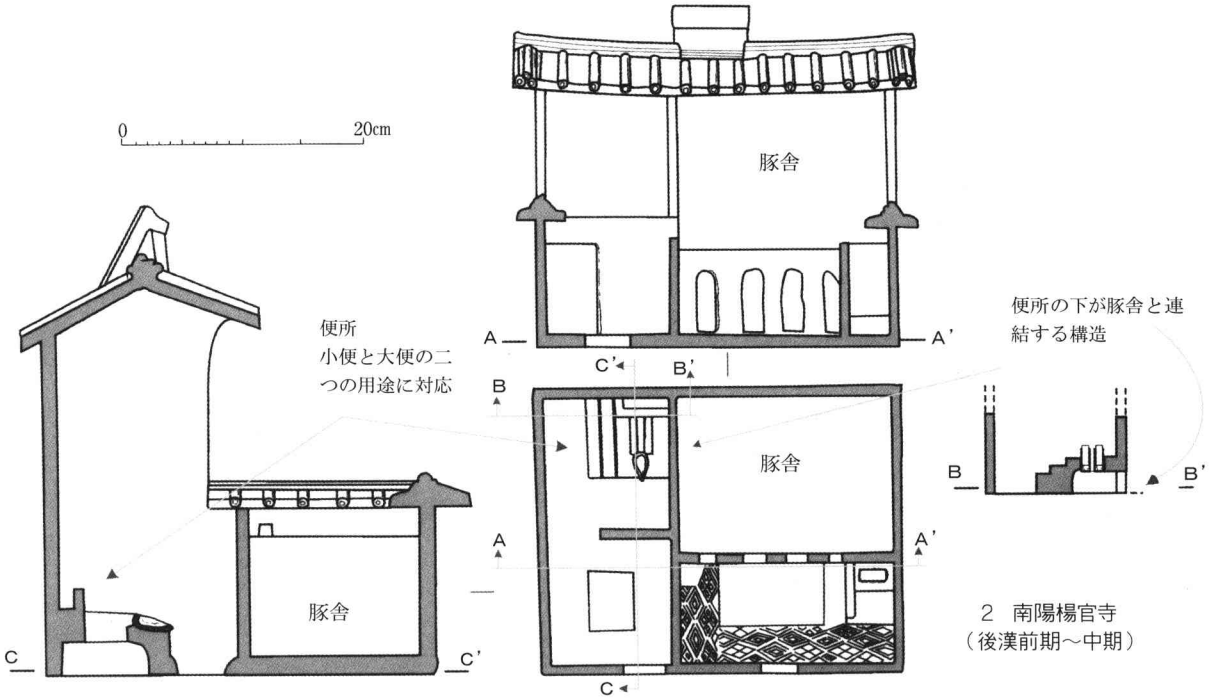
6　湖北・武漢黄陂灘口（西晋）

図 14　豚便所の設置位置





1　淮陽于庄M1
（前漢前期）



2　南陽楊官寺
（後漢前期～中期）

図 15　河南省出土の屋内豚舎を設置した庄院と豚便所独立屋内型

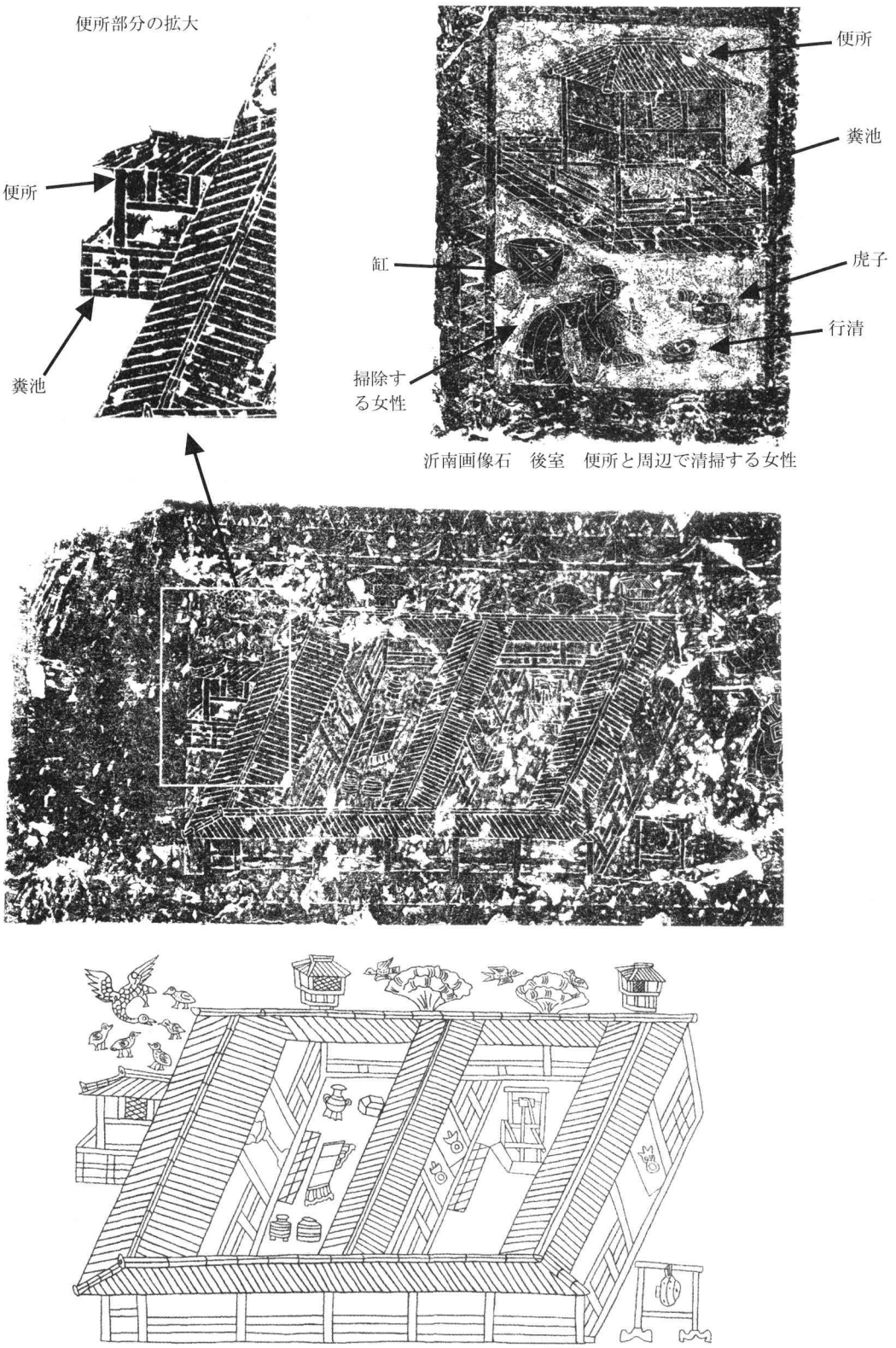


図 16　沂南画像石に画かれた便所

『斉民要術』巻六養猪篇に，舎飼いについては，「母猪取短喙無柔毛者良。喙長則牙多，一廂三牙以上，則不煩畜，為難肥故。有柔毛者焔治浄也」(母豚は喙が短くて柔毛の無いのがよい。喙が長いのは牙が多い。一廂に三牙以上あるのは，肥育し難く，飼う値打ちもない。柔毛があると，熱湯で毛を除くのが綺麗にいかない）とある。また「圏不厭小，處不厭穢，亦須小場，以避雨雪。春夏草生，随時放牧，……八，九，十月，放而不飼，所有糟糠，則蓄待窮冬春初」とあり，豚便所とは明記していないものの，夏は放し飼いに冬は舎飼いにする当時の豚飼養の状況を示している。漢時代にも，豚を放し飼いにする記事がある。

『漢書』公孫宏卜式儿寛傳，

「家貧，牧猪海上」

『後漢書』逸民列伝・梁鴻

「梁鴻，……後受業太学，家貧，……学卒，及牧猪于上林苑中，曽誤遺火，延及它舎」

『後漢書』儒林列伝，・孫期

「家貧，事母至孝牧豕于大澤中，以奉養焉」

このことは，漢時代から，少なくとも北魏（6世紀）の豚飼養には，舎飼いと放し飼いを組み合わせたものがあったことがわかる。夏場に放し飼いを取り入れ，冬期に供えて飼料の負担を少なくする必要があったのだろう。

後代の史料だが，清代の沈氏の『農書』によると，大豆粕・油粕・桑釘〔桑の小枝を細かく粉砕したもの〕・米糠・残飯・米汁・酒粕などで豚を養い，豚の糞で耕地を肥やす方式が述べられている。また書中に繰り返し「ただ同然に堆肥が入手できる」（白落肥壅）という表現がある。[(6)] 時代が下ると養豚の目的の一つが，堆肥作りに重点が置かれたことには間違いなかろう。

曹隆恭は，戦国時代の『荀子』『韓非子』『呂氏春秋』などに記載された施肥の記事を引用しつつ，春秋戦国時代にすでに施肥が始まっていたとする。その上で，「施肥の普及に伴い，堆肥や造肥の発展が促進されていった。漢代には次第に豚の畜舎飼いが普及した」と述べ，豚便所の主目的は糞肥を集積するためと論じている［曹 1986］。

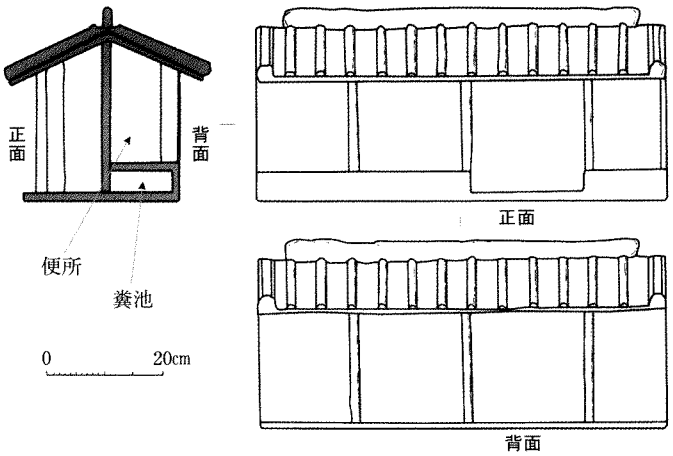


図17　山東臨淄金嶺M1遺跡出土の便所明器（後漢前期）

馬孝劬もやはり，戦国時代すでに中国では畜糞を利用することを重視していたとし，『氾勝之書』の「溷中の塾糞」を，「豚の糞尿と人の糞尿をまぜてよく腐熟させた肥料を指している」とする。また豚舎を表す「圂」は，古代の文献によると「豕牢」と記されていて厠と接続していたとする。また『説文解字』には，「「溷」と「厠」は互訓となっていることから，漢・晋時代に出土する上が厠で下が豚舎となった明器と構造が完全に一致し，漢代には豚舎からでる大便が重要視されていたことが判明する」と述べている［馬 1986］。

張建林・范培松は，漢代の豚舎・豚便所型明器の分析と文献史料から，豚便所は漢代の便所の一形態であり，肥料生産に関係すると述べる。その利用目的は，便所と豚舎の雑物を1カ所に集積させることで人糞と獣糞が一度に処理でき汚染源の減少につながったことと，両者の専有面積が少なく空間の有効利用が可能であったという2点をあげている［張・氾 1987］。

劉敦愿は，中国の農耕の特徴が，定住農耕における家畜舎飼いである点に注目しつつ，文献史料からは豚便所の出現時期に，肥料が生産と関係していたかは断定できないとする。その上で，豚便所と肥料の施肥の結びつきは，早ければ戦国期，時期が下るなら『斉民要術』に記載のある6世紀まで下ると時間幅をもたせた結論をくだしている［劉 1986a，b］。

いずれにしても文献史料からは，豚便所は少なくとも戦国時代に成立した可能性が高い。しかし豚便所の成立の契機と要因を，肥料の生産の開始と直接結びつけて説明できる根拠を文献史料からさがすことは難しい。曹や馬は，後世の豚便所が糞肥を集積する役割であったことから漢代においても同様であろうとしているが，豚便所そのものがどのような過程を経て成立したかは明らかにしていない。

では，次に豚便所がそもそもどこで使われたのかを検証することで，豚便所成立の過程を考えてみたい。

（2）豚便所の機能差

漢時代になると，豚舎・豚便所を始め，兵，男女俑，牛，羊，楼閣，家屋，農舎，水田，貯水池，倉，竈，井戸，雑技俑，など豊富な題材の明器が墓に副葬される。墓内におけるこれら各種の生活明器の位置は，実生活の状況を正確に復元して配置されているとはかぎらない。しかし，当時の家屋のうち，数種類の機能をもつ建物が複合して一つの屋敷を形作る四合院の建築模型は，家屋としての形態を表現しているものであり，当時の状況をかなり正確に反映していると考えられる。ここでは，四合院型建築や楼閣建築をとりあげ，その構造を探ってみたい。

a　陽于庄・前漢前期［周口地区文化局文物科 1983］（図15-1）

（❷出土例の前漢前期参照）

b　鄭州市乾元北街空心画磚墓・前漢中期［鄭州市博物館 1985］（図14-1）

墓からは，鼎・壺・陶倉（穀物貯蔵庫）・陶房屋（家屋）・猪圏などの明器と呼ばれる模型が出土している。墓室の西側で，門房（門屋）・闕楼（物見櫓）・家屋・厨房・倉楼（倉庫）・陶竈（井戸）そして豚舎の明器で，屋敷構造の一つである「四合院」を模したものである。四合院は，北側と東側に房屋を配置し，その隣が厨房でそれに隣接して豚舎が位置する。内部には雌豚と7頭の子豚，それにもう一匹豚が配置されている。豚便所の型式は，豚舎方形型である。

c　河南鄭州南関・前漢後期［河南省文化局文物工作隊 1960］（図7-7，14-2）
建築模型，門屋・2層望楼・母屋・豚便所によって構成された四合院住宅である。
門屋を入った正面が母屋で，その右隣に豚便所が設置してある。便所下豚舎方形型で，階段部分を屋敷内にむけ設置してある。
d　洛陽焼溝漢墓1027・後漢中期（洛陽区考古発掘隊 1959）（図14-3）
墓室内東北壁に接して，井戸・竈・犬・豚便所が出土している。豚便所・竈・井戸は互いに接して出土している。建物を復元した状況ではないが，おそらく厨房から離れない位置に豚便所が位置していたことを示していると考えられる。
e　河南焦作白庄・後漢後期［索全星 1995］（図14-4）
2棟の楼閣を，閣道（空中廊）によって連絡した建造物である。(7) 豚便所は，正面むかって右側の楼閣に隣接しており，形態は豚便所男女別型である。
f　湖北雲梦・後漢後期［雲梦県博物館 1984］（図14-5）
2層の楼閣と3層の楼閣が合体した建築物である。豚便所は一見，広州市地域の高床家屋型にみえる。しかし実際は，便所下豚舎方形型の豚便所をそのまま楼閣一階に組み込んだ構造であり，正面の門を入ったすぐ右側に豚便所が位置する。

以上の例のうち，鄭州市乾元北街空心画磚墓，河南鄭州南関，湖北雲梦遺跡は，当時の典型的な家屋構造の一つである四合院内に設置された豚便所の例である。しかも，厨房明器に併設していることが特徴的である。豚舎と豚便所のうち，豚舎は豚舎型(方形)，豚便所は便所下方形型が，家屋の施設の一部として構造的に組み込まれ利用されていた可能性が高いことが推定できよう。また時期がもっともさかのぼり前漢前期に比定される淮陽于庄遺跡は，便所と豚舎が屋内に設置された便所豚舎分離型である。

便所豚舎内包型・便所豚舎隣接型などの，前漢後期に比定される豚便所は，家屋明器の一施設としての出土例は現在見つかっていない。しかし，先にあげた前2世紀初めの記録である『史記』「呂后本紀」の例は，当時の貴人が日常的生活で豚便所を使用していたこと示している。また『墨子』守城篇の城内における豚便所の設置例は，城内での便所の人糞の処理と豚飼育の方法を解説したものと考えられる。このように，戦国期から前漢の豚便所は，屋内に設置され，人糞を有効再利用するため，便所で豚を飼育する側面が強いといえよう。さらに洛陽焼溝漢墓1027(図14-3)・1029号墓では，家屋型明器は出土していないが，便所下豚舎方形型が厨房明器である竈に隣接して出土している。このことから屋内での豚便所の設置は，人糞利用だけでなく，おそらく厨房で調理のさいにでるさまざまな生ゴミの利用も目的としていたのであろう。

河南焦作白庄遺跡と湖北雲梦遺跡は，楼閣に豚便所が敷設されている。楼閣は本来，四合院のように日常生活を営むことを目的としていない建築物である。武帝は，太初元年（前104年）柏梁台が消失すると上林苑内に健章宮を造営し，城濠を跨いで閣道によって未央宮と結んだ。焦作白庄遺跡の2つの楼閣を結ぶ渡り廊下は，当時の閣道の様子を彷彿とさせるが，司馬相如の「上林賦」にも，「離宮や別館は山を渡り谷を跨ぎ，高い廊は寄せ棟造りで屈曲した閣道があった」ことが詠まれている。武帝期の純木造の楼閣の出現は，仙人が楼閣での居を好むという方士の進言に武帝が従っ

たものであり，神仙への憧憬が契機になっている。こうした日常の食生活を営む建物とは無関係の建造物の便所にも豚便所を設置することは，この時期屋内便所と豚はセットになっていたと考えていいだろう。楼閣に設置する豚便所は，おそらく豚を飼養することや，廏肥などとの機能を重視したのではなく，便所そのものがまず主な役目だったと考えられる。楼閣の豚便所は，漢時代における河南地域の人々の，便所＝豚（豚舎）という日常の生活風景と，当時の豚便所文化そのものを如実に反映していると言える。

便所下豚舎円形型の豚便所は，湖南地域の豚舎型（円形）を祖形として，河南地域で人糞落下式へと発展したと考えられる。便所下豚舎円形型は，後漢後期になると，山東・江蘇北部地域，河南地域，湖北地域，湖南地域と，広く分布するようになる。では便所下豚舎方形型と便所下豚舎円形型の豚便所に，機能的な相違があるのだろうか。

漢より時期が下るが，湖北武漢黄陂灄口遺跡（呉末晋初）の墓室から，家屋模型明器と便所下豚舎方形型明器が共伴出土している［武漢市博物館 1991］（図 14-6）。その出土状況から，便所下豚舎方形型豚便所は，家屋明器とは分離独立して配置してあることがわかる。この例から，便所下豚舎円形型は，家屋内に設置する華北の便所型の豚便所とは異なり，屋外に設置する形態であることを示している。豚舎平面形が円形という形状と，豚舎が柵列であることからも，四合院などの家屋内に設置するには構造的に不向きであったと考えられる。

また便所下豚舎円形型豚便所は，その系譜が豚舎型に求められることからも，この型式の豚便所が屋外で豚を飼養することを目的とした豚舎の発展形式であったと推定できる。

便所下豚舎方形型と便所下豚舎円形型の豚便所は，分布の状況からも，両者に機能分離があったこをを窺わせる（図 5）。すなわち便所下豚舎方形型の豚便所は，後漢中期にまず河南地域で出現し，後期になると山東・江蘇北部地域や，湖南・湖北地域でも出土するようになる。しかも従来の山東・江蘇北部地域の特徴的な豚便所である豚便所男女別型も河南地域で出土するようになり，この両者の型式は，その分布域が後漢後期になると重なるようになる。さらに便所下豚舎方形型は，河南地域で前漢後期に成立した便所下豚舎方形型豚便所と分布域が重なるだけではない。洛陽焼溝漢墓M 1008・1038 の墓室からは，便所下豚舎方形型と便所下豚舎円形型の両型式の豚便所が共伴出土している（図 18）。

このことは，河南地域では便所下豚舎方形型と便所下豚舎円形型の２つの型式の豚便所が，同時期同地点で同時に使用されていたことを示している。河南地域においては，屋外で使用される豚舎型の出土例は非常に少なく，前漢中期に１点数えるのみである。河南地域では，豚は屋内の豚便所で基本的には飼養されていたと考えられる。ところが，後漢中期になり便所下豚舎円形型豚便所が加わることにより，屋外での豚飼養もおこなうようになった。その目的は，おそらく豚増産のために従来屋内で産出される厨房の残飯や，屋内に居住する人々の人糞を利用するだけでなく，より広範囲な餌調達の必要があったのだろう。つまり人糞をより効率的に調達するため，多くの人間が使用するように屋外でも便所を設置したと考えられる。また，屋外型豚便所は豚増産の結果として，豚便所のもう一つの目的である廏肥の増産にもつながったであろう。屋外型の便所下豚舎方形型豚便所の普及は，豚の増産一新たな人糞の調達必要性一屋外豚便所の登場一廏肥の増加と人糞の積極的利用という背景から誕生した，豚飼養方法の変化として捉えられる（模式図 4）。

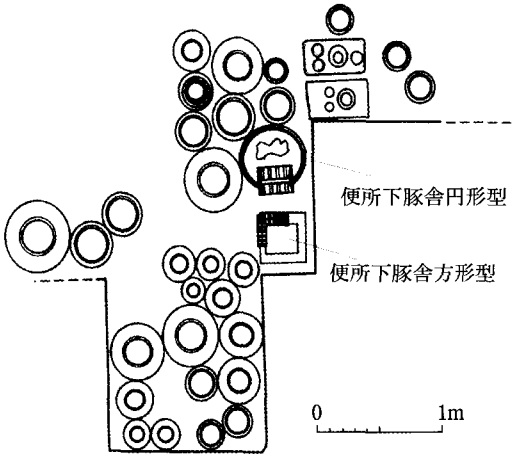


図18　洛陽焼溝漢墓M 1008

(3) 長江流域の豚便所

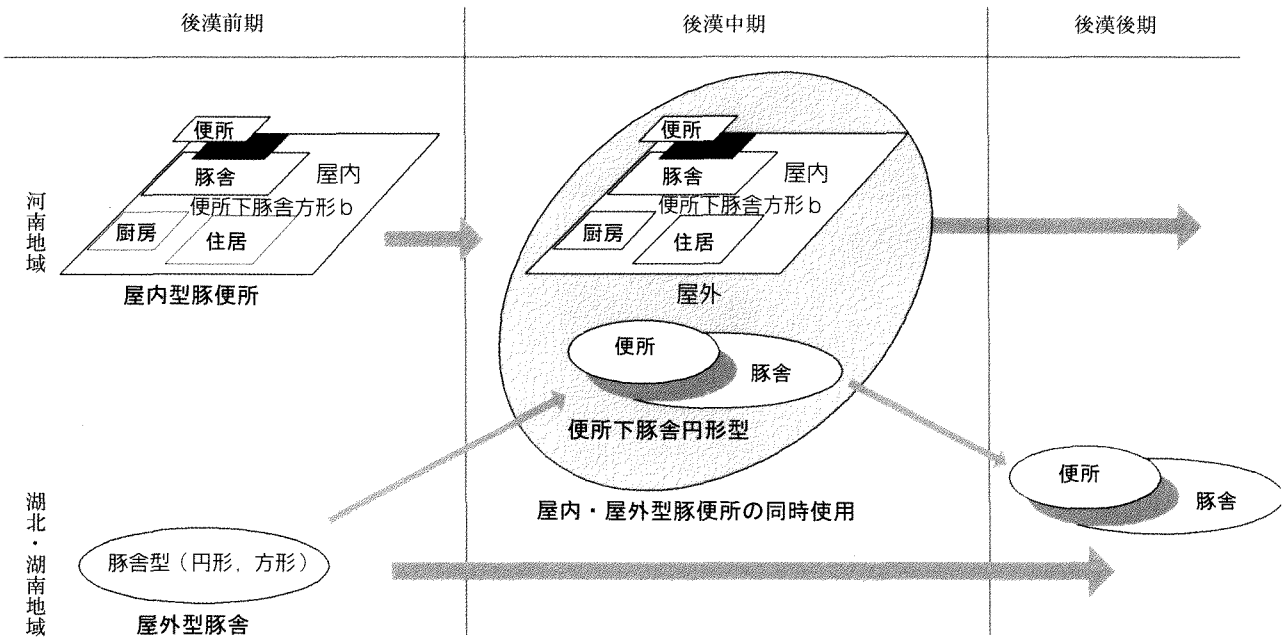
中国内部でも黄河中下流域と長江中下流域の両地域では，あきらかに豚便所の出現に時間的差が認められる。

長江中流域において，豚便所の出現は，湖北では後漢中期，湖南では後漢後期まで下る。また黄河中下流域では豚便所出現当初から使用された家屋内に設置された豚便所は，湖北で後漢末にまで下る。湖南の長沙月亮山M 28遺跡から出土した高床家屋型豚便所は，その分布の中心が広州市地域であり屋内型の豚便所である［高 1959］。つまり黄河中下流域での豚便所は，屋内型に設置された豚便所から後漢後期になると屋外型と屋内型が併用さえするようになる。一方，湖北・湖南地域では，屋外型から屋内型と屋外型の併用というまったく逆の過程をたどる。

甲元眞之は，長江流域の穀物栽培が米に特化する選択的経済類型であるという［甲元 1992］。その成立要因として，米の栄養価の高さをあげ，「不安定な収穫しか望めない初期の稲作栽培の段階においては，網羅的な食糧源の一つとして家畜飼育がなされていたとしても，稲作栽培に傾斜していくにしたがって，飼育飼料が最も少ない豚が残り，さらにその豚の数量が減じていくことは，その経済的な効果性から指摘しうる」とする。さらに「このように遺跡出土動物の中での，家畜の比重が低下することは，稲作栽培地帯においては，逆に農耕の発展を意味することであると，認めることができよう。稲作栽培地帯において，家畜とりわけ豚が多く飼育されるようになるのは，豚のもたらす肥料を水田に投入することで生産性を高める段階に至ってからであり，それが一般化したのは長江流域では漢代以降のことである」と論じる。

長江下流域江南地域の漢時代の農耕は，火耕水耨と呼ばれる農法であったといわれる。火耕水耨は，『史記』『漢書』『塩鉄論』に記事があり，西嶋定生・天野元之助・米田賢次郎によってその具体農法について論争されてきたが，意見の一致をみていない［渡部・桜井編 1984］。しかし，人口が希薄で，階級が未分化の社会，あるいは自給自足的な経済，暑熱の低湿地でおこなわれた農耕である点と，技術的には，焼き畑でありかつ水田である点は意見が共通している。

長江下流域の江蘇南部・浙江地域では，豚舎・豚便所の出現は，西晋時期まで下る。さらに豚舎円形型が多く，豚便所の形態は，施肥のための豚便所の可能性の高い屋外型の便所下豚舎円形型である。このことは新石器時代後期以降の江南地域における豚舎と豚便所の出土状況の背景が，肥料を水田に投入することで生産性を高める段階に至ってからであるという主張と矛盾しないことを示している。



模式図４　屋内型と屋外型豚便所の成立

（4）広州市地域の高床家屋型豚便所

広州地域の豚便所の型式は，黄河中華流域や長江中下流域と異なり，漢時代全期を通じて，高床家屋型が盛行する。表２は，広州漢墓から出土した高床家屋型の型式変化と出土点数を統計したものである。

前漢中期から後期にかけては，a型式の一階部分が，豚舎だけの型式のものが主流を占める。後漢後期になるとb型式の１階が畜舎と畜舎以外の機能をもつ部屋に分かれるものや，c型式の畜舎に占める面積が，他の機能をもつ部屋の面積を上回る型式のものが主流になる。黄河中下流域の場合，後漢後期になると河南地域で便所下豚舎方形・便所下豚舎円形型と，山東・江蘇北部地域での便所下豚舎方形・豚便所男女別型の同時使用という，２つの異なる型式が同時期に出現する。このことは屋内豚便所と屋外豚便所の機能差であると推定した。ところが，広州市地域ではこうした屋外型豚便所の出現は認められず，すべて高床家屋型豚便所である。

高床家屋型は高床式住居の下が畜舎になり，上部の家屋部分の一部屋が便所になる構造で，豚便所と住居の完全合体型とでもいうべき家屋である。広州市地域の漢墓から出土する家屋型明器は，城堡模型（城郭模型）を除いて，華北で出土する四合院型式などの邸宅明器は出土しておらず高床家屋型のみである。

では，このような高床家屋型家屋は，どこで使用されていたのだろうか。広州漢墓の分布は，現在の広州市内および郊外に広がる（図19）。現在まで81カ所の墓から前漢前期の墓が182基，前漢

表２　広州漢墓出土の高床家屋型豚便所

	a（Ⅲ・Ⅱ型）	b（Ⅲ・Ⅴ型）	c（Ⅳ型楼閣式）	城堡模型
前漢中期	9			
前漢後期	16			
後漢前期	7	16	3	
後漢後期		40（11三合式）	3	5

中期の墓が64基，前漢後期の墓が32基，後漢前期の墓が41基，後漢後期の墓が90基発見されている。漢の墓は，都市の郊外に造営されるのが一般的であり，広州漢墓も，当時の都市である番禺周囲に作られたと考えられている。また広州漢墓は，当時の官僚または上層階級に属する人々の墓で，被葬者は番禺の都市住民であったと想定して間違いなかろう。

時代が下るにしたがい，墓の分布域は郊外へと拡大する傾向にあるが，前漢前期の番禺の範囲は，墓の分布域からみて，東西の距離は2kmに達しておらず，周囲がせいぜい10km程度の「小城」だと推定されている［広州市文物管理委員会・広州市博物館1981］。つまり広州漢墓は，当時の都市内部空間の住居の様相を反映したものであり，漢時代を通じて番禺都市内部の家屋は，高床家屋型住居によって占められていたと考えられる。これに対して例えば漢の長安城は，城壁の総延長は，25.7kmに達する。城壁内のかなりの部分は，皇帝とその家族のための宮殿や市場，工房で占められており，高級貴族の邸宅もあったと想定されているが，庶民の住居部分はかなり面積が小さかったと思われる。長安城は政治的機能中心型都市であり，食料生産は完全に分離がかなり進んだ都市であるが，一方番禺は都市内部での家畜飼育を積極的に進展させたといえる。

では広州市周辺の高床家屋型は，どのような経緯から成立したのか。高床家屋型明器は，前漢中期の出土が最も古く，これをさかのぼる豚便所の証拠は文献からも考古学的にも現在のところ発見されていない。東南アジアにおいて豚便所が出現する地域は，漢文化の影響がおよぶベトナム北部の紅河デルタ地域だけである。東南アジア地域において，広州市地域に先行する豚便所は発見されておらず，その後の歴史においても使用された形跡はない。

また豚便所の系譜を黄河中下流域に求めた場合，なぜ大陸中央部を通りすごし，長江中下流域よりも早く，南端の広州市地域で豚便所が先に出現するのかという疑問が残る。また河南地域，山東・江蘇北部地域では，前漢後期にならないと取り入れられない人糞落下式が，広州市地域ではすでに前漢中期から高床家屋型として使用されている。

唐代の段公路が著した『北戸録』には，「南海の諸郡においては，郡の人々は八，九月の頃に池塘にいって稚魚を採ってくる。…鯉などの魚を池塘で飼育すると，一年で食用に供することができる」とあり，唐代にはデルタ地域が開発され始めたといわれている。しかし珠江デルタの養魚・養蚕・養豚・栽桑が結合した桑基魚塘の完成は，宋時代以降であり，前漢終わりから後漢時代にかけては，珠江デルタはマングローブに覆われ開発の手のはいっていない自然の状態をたもっていたと考えられる。前漢時代の南越王墓からは，猪・鰐・狸・象それに，魚類・貝類などが非常に多く出土しており，当時この地域が狩猟採集に適した環境であり，蛋白源も野生の食料源にたよっていたことを推定させる。

『史記』よると戦国時代，現在の広東・広西省一帯は越・蒼梧の国と称した。前214年，始皇帝がこの地域を50万の軍隊でもって，5年間かかって制圧し桂林・象群・南海などの諸郡を設置した。そして任囂を南海郡尉（軍政長官）に，趙佗を竜川県令に任じた。そのさいおよそ50万の軍隊もそのまま残留したといわれている。秦滅亡後，中国全国が争乱状態となるが，この時期嶺南を守っていた任囂は病重く，彼の臨終のさいに南海郡尉の全権を趙佗に受け渡す。前207年，混乱に乗じて南海郡尉の趙佗が，桂林・象群を攻撃し武王と称して越人の国，南越国を興し番禺を都とした。

華北地域からの秦時代の軍事行動に伴う大量の移民，これが豚便所を長江流域に先行してこの地

域に広げた要因ではなかったか。南越国を建国した趙佗自身，真定すなわち河北省正定県の出身だといわれている。

ところで高床建築で最も古い例は，長江下流域浙江省の河姆渡遺跡である。遺跡から大量の丸木の柱と方柱が出土し，遺構と木材から高床建築と考えられており，床の高さは当時の地面から80～100 cm位だと推定されている。長江下流域では，河姆渡遺跡以後は，なぜか高床建築は流行らなくなり地上建築へと移行してゆく。黄河流域もまた高床建築を積極的に取り入れなかった地域である。

一方，広州市地域珠江デルタ周辺の低湿地地域は高床建築が台地上には平地式住居が作られ，しかもこの両者が新石器時代中期から漢時代に至るまで併存し続けた地域である。茅崗遺跡（前2000～1500年）で，当時の珠江デルタ周辺の低湿地に立地する高床建築の遺跡が発見されており，木柱が地面から立ったままの状態で発見されている。遺構の木柱の配置から，3棟の建築が想定されている。これら建物の周囲の泥の中から，土器や石器などとともに，カキ・ハマグリなどの貝類，ギンナン・サンザシ・カキの種などの植物の遺存体が，それに豚・牛・鹿・羊・象・鼠・亀・鰐・魚類などの骨が大量に出土した。このことは高床建築を住居として利用しており，床下部分やその周囲がゴミ捨て場であったことを示している。

このように広州市地域では，秦以前から高床建築を使用されていた可能性が高い。華北地域から大量にやってきた人々は，この地域の住居であった高床建築を利用したのであろう。『史記』貨殖列伝には，華南の地が焦熱の地であり人々が若死にするとある。また呂后が趙佗を攻めたとき，兵士は焦熱の地に悩まされ，それが原因で敗退する記事がみえる。おそらくマラリアなどの風土病などのことを考えると，この地域での高床式住居は環境に最も適した住居であったと考えられる。高床家屋型という広州・広西壮族自治区地域独特の豚便所は，華北地方での屋敷内または，家屋内での便所における豚飼養と，広州地域で一般的であった高床家屋が合体し，新たに誕生した構造の豚便所と考えるのが妥当であろう。

戦国末期における華北地域からの軍団の大量移動と定住は，人の移住だけでなく，華北的豚飼養文化そのものをも広州地域にもたらした。豚を豚舎にとじこめ人糞や残飯で飼養するという発想と仕組みは，広州地域で独自にあみだされたものではない。広州地域は，おそらく黄河中流域での人口集中やコストの問題等による豚便所が出現するための要因の存在が希薄であるし，豚便所が環境的に適応しているとは決していえない。豚便所の広州地域への拡散の要因は，豚は便所で飼養するという仕組みと，それを生活習慣と考える人々の移住という歴史的背景から成立したのだろう。広州地域の人々からみれば，自らが自然環境に適応的に受容したのではなく，むしろ移住にともなう，華北的な豚飼養文化の移植という側面がつよく，半強制的な受容であったといえる。

❹……豚文化の特質

（1）成立の要因

豚便所には機能差があり，黄河中華流域における出現当初の豚便所は，屋内に設置し主として便所機能と人糞と厨房の生ゴミによる豚飼養が目的であったと考えられる。ではなぜ人糞による豚飼

養がおこなわれるようになるのか。

豚の飼養と食用は，世界のすべての地域で行われてはいない。中近東を中心とする地域では，現在豚の食用は禁忌として扱われることはよく知られている。エジプトでは，碑文から新王国時代紀元前1560～1085年の間に，豚が宗教的な禁止の対象になっていったが，それ以前は豚の飼養はおこなわれていたという。

加茂義一は，従来宗教的な理由によって豚が忌避されるという説に対して疑問を呈し，遊牧民と定住農耕民とを対比し原因を求める。豚は本来定住農耕民によって舎飼いによる飼養に適した家畜であり，遊牧民の移動性の高い民族にとっては不向きな家畜である。豚は水浴びを好むため乾燥地帯での飼養には不向きであることと，移動に伴って豚の大食を維持するための大量の飼料運搬は不可能であることを理由にあげ，遊牧民が豚を飼育しない理由としている［加茂 1973］。

マービン・ハリスは，西アジアやエジプトなどで豚が飼養されなくなるのは，飼育にかかるコストパフォーマンスが悪いからだとする［ハリス 1990］。家畜は本来経済的側面だけを考えれば非効率なものである。最も効率のいい豚で，一生の間に，餌に含まれるエネルギーの35パーセントを肉にかえるだけである。これにくらべて，羊は13パーセント，牛にいたってはわずか6.5パーセントにすぎない。また反芻機能のない豚は，草，麦の切株，木の葉，その他，高セルロース性の餌は不向きであり，しかも汗をかかない豚は中近東など暑く乾燥した地域での飼養には不向きとする。豚を飼養しなくなるという消極的な理由としては，一応の説明が与えられよう。

動物飼育に関する経済的な「効果性」についていえば，穀物栽培がはるかに有利であるという［甲元 1992］。1ヘクタールあたりのエネルギーの産出量は牛肉を1とした場合，乳牛を飼育してミルクからとるとすると，その3.3倍，小麦では18.7倍となって，穀物栽培がはるかに有利であることを示している。また1ヘクタールあたりのタンパク質の産出量も，牛肉27 kg，ミルク115 kg，直接小麦を食べると350 kgであり，小麦を直接食べることで牛肉の約13倍のタンパク質が摂取できる。

劉敦愿は，中国において戦国時代から漢時代にかけて，中国華北の西安・洛陽・臨淄などのいわゆる“内郡”では，農耕の進展に伴って，耕作地が拡大し，家畜を放牧するには条件が悪くなるとする［劉 1986］。これらの生態変化が発端となり，定住農耕民に適した舎飼いと廐肥による施肥の結びつきが展開すると主張する。さらに匈奴との戦争による馬など家畜生産の必要性が背景に存在することと，流通経済の発展によって，家畜の舎飼いに必要な飼料が周辺地域から得やすかったことを農耕内部における積極的な家畜飼養成立の条件にあげている。大型家畜の廐肥の有効利用や，戦争目的としての軍馬や，犂と結びついたことで貴重な役畜としての牛などの利用は，劉の主張する理由により，戦国時代以降の黄河中下流域での舎飼いの成立としての積極的な理由付けが与えられると考えられる。しかし，豚の舎飼い目的の一つである畜糞の肥料としての積極的利用開始は，戦国期ではなく後漢後期である可能性が高い。そのため戦国時代における豚便所の成立の要因を，廐肥の利用という農耕との合理的な結びつきにだけ求めるわけにはいかない。

岡村秀典は，殷時代に経済性の高い豚に代わって，大家畜の牛や馬を威信材として尊重し，供犠のため国家的な畜産がおこなわれるという［岡村 1999］。殷周時代の王室祭祀は，戦国・前漢代の儒家たちの理念をもとに礼書に体系化され，以後の歴代王朝に継承されていった。そして秦漢代には郡県制にもとづいて，軍事目的の国家的な畜産が始まっていたとする。しかし，秦漢時代では，

民間の牛や馬の保有はきわめて稀であったが，農家では豚１頭，犬１匹，鶏は雌雄１羽ずつ飼育していたらしい。その理由として，牛や馬などの特に冬場放牧できない大型家畜は，飼料を備蓄する必要があり，そのため国家的な畜産が必要であるという。それと比較して 豚は農業の副業として集落内で小規模な飼養が可能であったとする。

新石器時代後期にすでに成立していたアワ・ヒエなどの穀物栽培をおこないながら，豚を始めとする牛・羊などの家畜を飼養する農業形態（内部化）は，戦国期から前漢の農耕の進展と国家的な畜産にともなって，牧畜の農耕への内部化をより一層進展させる必要にせまられたのだろう。『斉民要術』の「所有糟糠，則蓄待窮冬春初」の記事が示すように，豚飼養においても冬期における飼料をどのように確保するかが課題であったことが窺える。豚便所は，豚飼養を家屋内でおこなうことを目的とし，それが特化した形態である。屋内で豚を舎飼いにする有利な点は，人間が生産するゴミを飼料として利用できることである。豚便所は，当初から廏肥を目的としたものではなく，飼料のコストを引き下げるため，飼料の一部を人糞やその他の厨房の雑物に置き換えることを目的とし，それが最も効率よくおこなえる場所として，屋内便所が選択されたことに成立の原因があったのではと考えられる。

ところで，豚便所は，飼料としての人糞積極利用の受容，さらに人糞で飼育した豚を食すことができるという文化的態度そのものの存在があって初めて成立可能なシステムである。アンドレ＝ジョルジュ・オードリクールは，家畜の乳と人間の排泄物に対する文化的態度が，インドを含む西南アジア地域と中国を含む東南アジア地域とで対照的に異なることを指摘する［松井 1995］[8]。家畜の乳を利用するが糞尿を利用しない中近東からインドまでの地域と，糞尿は利用するが乳を利用し

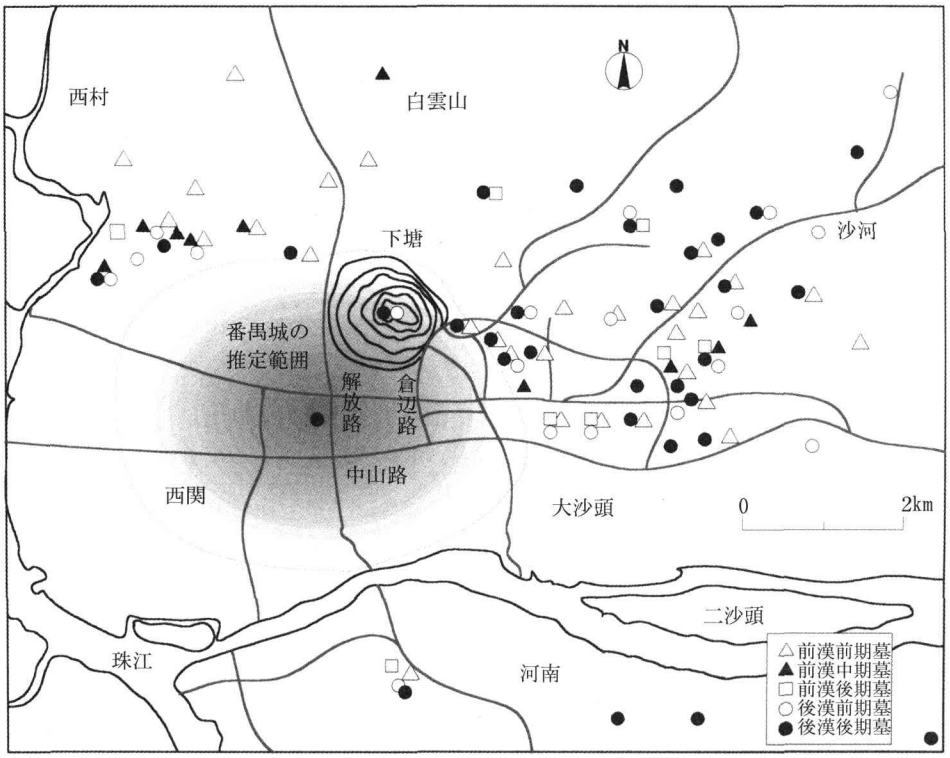


図 19　番禺城の推定範囲と広州漢墓の分布

ない東アジアや東南アジアの地域との存在である。これは両地域においておこなわれた家畜化が，その対象動物の習性と，家畜化の過程，結果においてまったく違っていたことに帰因するという。東アジアモンスーン地帯において，犬や豚・家畜の祖先野生種は，食料としての人間の排泄物にひき寄せられたのに対して，中近東の乾燥地帯で同様の家畜化の過程を想定することは不可能とする。動物が人間の分泌・排泄物にひき寄せられるのではなくて，反対に人間が家畜となる動物の分泌・排泄物の一つである乳にひき寄せられることが，家畜化の重大な契機であるとする。松井健はオードリクールの説の再検討をおこない，両地域の対照的性格は各地域の文化的特性の背景を追求する手がかりとなりうるのではないかと論じる。その上で「オードリクールは明言していないが，これは，糞尿を食べる豚や犬，つきつめれば糞尿そのものが焦点となっているとみてよいのではないだろうか。問題は人間の糞尿を農作物の肥料として利用するか否かが問題である」と述べている［松井 1992］。松井が指摘するようインドを含む西南アジア地域と東アジアにおける家畜化の2つの様式を解明するためには，1万年近い間にどのように文化的態度が維持強化されたかについて，そのメカニズムを解析する必要があり，現時点ではまだその過程を説明しきれてはおらず，糞尿の利用も殷以前にまでさかのぼるのかも明らかでない。

豚便所を成立させたおそらく最大の要件である，便所を豚舎にみたてそこに豚を閉じこめ，人糞までも飼料とする発想と文化的態度がどのように形成されたのかという問題を，考古学的手法で解くのは難しい。少なくとも言えることは，豚便所を受容しようとした場合は，人糞を積極的に活用することを許容できる文化的態度の存在が必要条件であることは間違いなかろう。

（2）多目的多利用型豚文化

豚便所の成立は，屋内での豚飼養を目的としたと考えた。しかし時代が下るにしたがい，豚便所を多目的化する傾向を示す。後漢後期の河南地域，山東・江蘇北部地域においては，屋内型の豚便所だけでなく，豚飼料をより多く回収するための屋外型の豚便所が出現し，飼料・畜糞・施肥という農耕と有機的に結合したシステムを形成していくと考えられる。

江蘇南部・浙江地域では，新石器時代後期以降家畜を重視しない状況が窺える。しかし，漢時代以降すくなくとも西晋時代には，施肥に伴う豚舎・豚便所が普及する方向へと転換する。さらに遅くとも宋代には豚の糞と施肥，桑葉による羊飼養と羊糞の桑畑への施肥，畜糞による養魚と魚糞による施肥を有機的に結合した農業システムを展開する。

広州市地域の高床家屋型は，華北からの移住による豚便所文化の強制的な受容と推定した。しかしその後の珠江デルタでは，養魚・養蚕・養豚・栽桑が結合した「桑基魚塘」という農耕システムへと展開する。伝統的な桑基魚塘は，魚塘で養魚をおこないつつ塘基で桑を栽培する。そしてその池塘のそばに豚舎を設け豚飼養をおこなう。また桑地には冬から春にかけて野菜を栽培する。桑の葉で蚕を飼い，蚕蛹・蚕沙・豚の糞尿・野菜の茎葉・トウモロコシの粉末等で養魚をおこない，池塘の底の泥糞を桑・サトウキビ・野菜の肥料にするというシステムである。

このように中国の豚飼養は，食料を供給するためだけに特化した飼養目的ではなく，豚を多目的に有効利用する方向性に特徴がある。そしてその背景には，先に述べたように人糞・畜糞の積極的利用を許容する文化的態度の存在が指摘できよう。

豚は，食料として利用するだけではない。現在の中国や東南アジア，それに琉球列島などの豚を伝統的に食する地域では，正月やまつりのさいに豚を殺し，神の前で食をともにし，豊穣を祈願し悪霊を払い，共食することで共同体の人間関係の紐帯を緊密にする役割を果たしている。中国の豚が祭祀や葬儀に登場する状況は，すでに新石器時代に始まっている。新石器時代後期（前3500～2000年）の黄河と長江中下流域で，豚頭骨や下顎骨を死者の墓に副葬する習俗が認められるが，特に黄河下流域の大汶口文化中期～山東龍山文化において盛行する。殷代には，天地神と祖先神をまつる王室祭祀が確立し，馬・牛・羊を主とする犠牲動物の供犠と，そのための国家的な大規模畜産がはじまるとする意見もある［岡村 1999］。

後漢時代の豪族の記録である『四民月令』には［渡部訳 1987］，

「八月…この月には，黍社を祀る日に，黍と豚とを祖先に薦め，その明くる日に冢を祀ることは，麦と魚を薦めるときのようにする。…十一月の冬至の日には，黍と羊を薦めるが，まず井戸で玄冥に薦め，その後に祖先におよぶ。…白犬を買ってきて養い，それを犠牲にして祖先に供える。…十二月の臘の日には，稲の雁を薦める。まつりに先だつ五日前に，豚を殺し，三日前に羊を殺す」という記述がある。漢代において豚は，帝室祭祀ではなく，民間でおもに用いられ，季節的な祭礼だけでなく不定期の祭事にも用いられたらしい。また漢時代にいたっても，豚を明器や，豚を模した玉器である握などを墓に副葬する。その形態と意味は変化しつつも，豚は葬礼に深く関わっていることに違いはない。

中国における豚飼養は，食料・共同体の紐帯維持のための共食・象徴的機能としての祭祀儀礼や葬儀の場における供犠や墓への副葬・農耕との有機的結合など，複数の利用と目的と意味が絡みあっている。つまり利用と目的が複合化し，さらにそれが相互に必要性を生み出すというシステムへと展開していく点に特徴があり，いわば多目的多利用型豚文化であるといえよう（表3）。

❺……弥生時代の豚

（1）豚の登場と退場

最後に，日本列島における弥生時代に登場した豚飼養が消えていく要因について，中国の豚飼養の方向性を対比させつつ考えてみたい。

金子宏昌・牛沢百合子は，大阪府池上遺跡の出土内容で，猪類の若い個体が多いことから，野生猪を家畜化したものと推測した［金子・牛沢 1986］。弥生豚の存在を主張する西本豊弘は，日本列島に豚が出現するのは，弥生時代前期（約前300～200年）～中期（紀元前後）ごろとする［西本 1993・1995］。大分市の下郡桑苗遺跡で弥生豚を確認し，その後，佐賀県菜畑遺跡，吉野ケ里遺跡（神埼郡神埼町・三田川町），奈良県唐古・鍵遺跡（磯城郡田原本町，旧称唐古遺跡），大阪府亀井遺跡（八尾市・大阪市）・池上・曽根遺跡（和泉市，旧称池上遺跡）で豚を確認している。特に愛知県朝日遺跡（西春日井郡清州町・新川町・春日町）では，約200年間で5000～6000頭の弥生豚を飼育し食べていたと推定している。さらに西本豊弘は，「西日本の弥生時代の遺跡から出土する猪類の大部分は，豚である」と述べ，古墳時代においても弥生豚は引き続き飼育していたと主張する［西本・松井編 1999］。

弥生時代以降の豚に関する数少ない記録の一つに，『播磨国風土記』賀毛郡の条の「猪養野」地名伝説があり，猪を飼う場所を求め，授けられて猪を放し飼いしたという記述がある。奈良時代にも豚を飼っていたという記事がある。『続日本記』巻一一によると聖武天皇が七三二（天平四）年七月に詔して，畿内の百姓が私的に蓄っていた「猪冊（四〇）頭」を買いとって山野に放って生命を遂げさせたという。いずれにしても，古墳時代以降，豚の飼育の証拠は少なくなり，平安時代以降，豚を飼っていた証拠はなくなる。再び日本列島に豚が登場するのは，江戸時代に入ってからだという［塚本 1991，佐原 1996］。

なぜ奈良時代以降，日本列島では豚を飼育しなくなるのか。西本豊弘は，外在的な要因を考え，「奈良時代以降，肉食禁止令や殺生禁止令が何度も出されるようになり，古代の豚が野生に戻されたりして，日本の歴史の上から豚は消え去る」［西本・松井編 1999］とする。甲元眞之は，朝鮮半島南部や日本が，穀物栽培も家畜も品目が多い食料体系が基本である網羅的な経済類型に属する社会であったのが，稲作栽培を受け入れることで，家畜飼育を重視しない選別的な経済類型が展開したと主張する［甲元 1992］。同じ水田稲作地域でありながら，長江下流域では後漢時代以降における施肥にともなって豚飼養が盛行し農耕とも結びついていくのに対して，日本列島の西日本水田稲作地域では反対に豚飼養が衰退していく。この両地域の相違を，水田稲作がもつ生態的な適応という視点だけでは説明が難しく別の要因を考える必要があると思われる。

西本豊弘は，弥生人が猪を家畜化したのではなく，渡来人が大陸から持ち込んだとする［西本 1990］。安部みき子も，弥生時代には野生の猪と形態の異なるものが存在した点は認めつつ，弥生人が猪を家畜化したのではなく，渡来人が大陸から持ち込んだとし，さらに弥生人にとって豚を飼育することが，どの程度必要であったかを問題にする。豚飼育をおこなうには冬期の飼料の確保や，大量の豚を飼養するための飼育場所と伝染病のためのリスクの回避を考えなくてはならないという。そして，定住農耕による集落周辺の環境変化が始まり，集落の近くに猪が住む環境が出現し，そのため猪狩猟が容易になったと推論し，このような環境で，豚を飼養する必要性そのものに疑問を投げかけている［安部 1996］。

定住農耕において豚飼養がコスト高になる問題は，農耕が進展すれば，豚を飼養する世界各地域でおこった現象である。これまで述べてきたように，中国においてはコスト高という豚飼養にとってのマイナス要因は，むしろ豚便所によって豚を飼養する原因になっている。狩猟による食料獲得の比重の高さと豚飼養の不必要性が相関関係にあるという主張は，豚飼養の目的を食料に限定しすぎているように思える。豚を飼養する目的は，食料としてだけではない。後述するように，弥生時代に日本列島にもまつりの場で用いるため家畜化した動物を必要とする風習が伝わっている。豚がまつりの場で必要であり，その要求が高ければ飼養コストを無視する状況もおこりうると考えられる。西日本の弥生社会において，飼料コストが豚不要につながったとするならば，中国の多目的多利用型豚文化のように，そのリスクを回避するシステムをなぜ形成しなかったのか。また形成する必要がなかったとするならば，そこにどのような要因があったのだろうか。

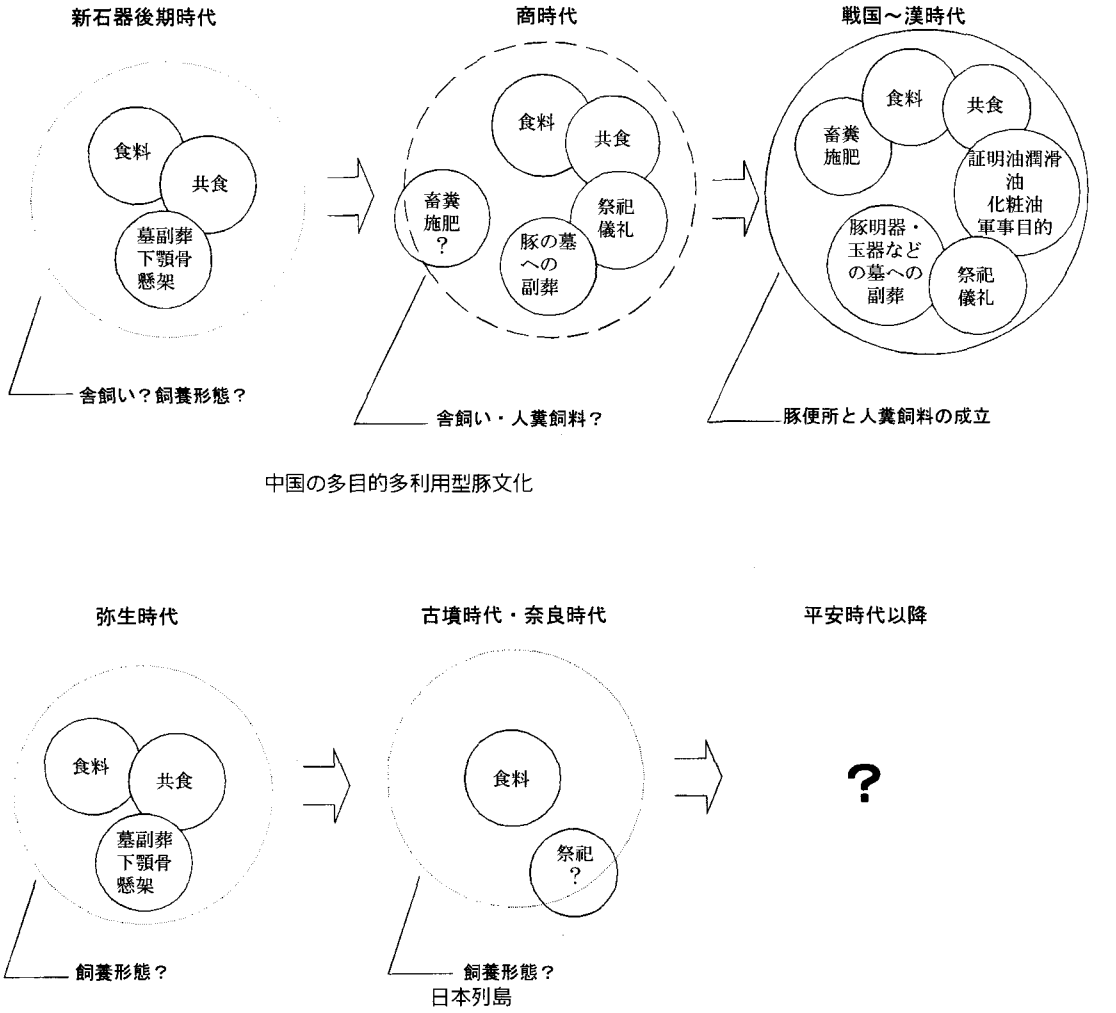


表３　日本列島と中国における豚飼養の歴史的展開

（2）豚と人糞と施肥

中国の豚便所は，結果として肥料の使用に結びつく。しかし，日本における農業と肥料との関わりは，中国と比較すると非常に稀薄である。平安時代には肥料を使用した記録が残されている。肥料として用いたのは廐肥，山野の草，草木灰が主で，『延喜式』内膳司の園の耕作に廐肥施用の記載がある。最近，古代の便所の発見が藤原京などで相次いでいるが，その構造は，垂れ流しが主流であり糞尿を積極的に利用していない。『令集解』は，奈良時代の官制や民法にあたる法典であるが，「刑務所の施行細目として，神亀元（724）年６月４日の太政官，雨の夜の翌朝，囚人たちを引率して，宮城および政務官庁の汚いものと，東西の厠などを掃除させる」らしい。また『延喜式』（10世紀の法典）には，「およそ労働の刑に処された者は，引率して道路や橋の建設作業や種々雑多な仕事にあたらせる。また役所は，６日ごとに囚人たちに宮のまわりを掃除させ，雨が止んだ朝には，宮内の汚いもの，さらに，トイレの溝（厠溝）などを掃除させよ」とあるが，垂れ流し便所に変わりはなく，このような状況は平安時代の京の都でも同様で，庶民便所は野外であった。日本において，人の糞尿が田畑の肥料として登場する確実な証拠は，中世に至ってからであるといわれており，

日本の弥生時代以降，中世まで水田稲作文化の一つの特徴は，中国と異なり人糞肥料の利用をおこなった形跡が希薄なことであるといえよう。

では日本列島における水田稲作の他生業との結びつきは，どのような形態だったろうか。生態的に魚と稲作栽培の結びつきはごく自然であり，日本列島の水田稲作は魚撈と密接に結びついたとする意見がある［八幡 1980，根木・湯浅・土肥 1992］。安室知は，民俗資料をもとに検討し，歴史的史料を用いた遡及には限界があるとしつつも，稲作による他生業との密接な関連（内部化）が，水田稲作が開始された当初からおこなわれていたと主張する［安室 1998］。そして水田魚撈・水田養魚・水田二毛作・畦畔栽培に代表される稲作による他生業の内部化は，稲作への特化を押し進めた最大の要因であると論じる。いずれにしても日本列島の他生業の内部化を中国と比較するとその相違は，牧畜の内部化と畜糞利用が希薄な点にあり，中国の他生業を徹底的に利用するシステムとは異なっている。唯一日本列島において，豚便所を受容した琉球列島は，中国の豚文化と同様に，人糞利用を背景にして成立した豚飼養であり，畜糞による施肥，それに共食による共同体の紐帯強化や豚にまつわる祭祀が複合化した中国的な多目的多利用型豚文化であるといえる［島袋 1989］。

弥生時代以降，特に奈良時代に入ってからの唐との交流の状況をみると，中国的な豚飼養のあり方や耕作地への施肥という中国の農業技術についての知識が欠如していたとは考えにくい。中国の農耕の基本をなす施肥の技術は奈良時代には結局日本列島へは輸入されず，中世になってやっと本格化する。また水田稲作は他生業の内部化をすすめる一方，家畜の内部化という展開には進まなかった。その背景には，当時の列島内部の人々には，糞尿に対して拒否的な文化的態度が存在し，それが家畜を内部化する中国的な農耕技術そのものを積極的に受け入れなかった原因の一つだったとは推定できないだろうか。

（3）まつりから食料へ

弥生時代に豚を食料以外に使用した例として，日本列島内に豚または猪の下顎を用いたまつりがある。広がりは，東は愛知県朝日遺跡，西は佐賀県菜畑遺跡の範囲に及んでおり，長崎県原の辻，島根県西川津，岡山県南方，奈良県唐古・鍵，大阪府亀井遺跡など弥生時代を代表する遺跡で確認されている。金子浩昌は，唐古・鍵遺跡の出土例から単なる食用にあてた猪ではなく，農耕祭祀の犠牲と説明する。西本豊弘は，縄文時代に猪の下顎に孔を開けた例がないことから，弥生時代に新たに始まった「動物儀礼」の可能性を指摘する。さらに水田稲作に伴って大陸から豚が持ち込まれ，農作物の豊作を願う新しい「農耕儀礼」の一つと解釈している［西本 1992］。春成秀爾は，日本列島だけでなく，東アジアにおける豚下顎骨懸架の類例を調べ，列島内の類例を豚の下顎骨穿孔懸架例と下顎骨副葬例に分類しそれぞれの使用に違いがあったと想定する。さらに豚の儀礼的取り扱いの意味については，農耕儀礼ではなく中国の資料から，「魔除け」的な目的でおこなったとする［春成 1993］。豚下顎骨懸架は弥生時代後期に衰退し，『魏志倭人伝』の「始め死するや停喪十余日，時に当りて肉を食はず，喪主哭泣し，他人就て歌舞飲酒す」という記述を引用し，「弥生時代後期の終わりごろには，葬儀のさいに豚を殺したり，その下顎骨をどこかにかけるような習俗はほとんどたえてしまったようにみえる」と述べる。豚の儀礼的扱いと意味が大陸に系譜をもとめられることを証明しただけでなく，その習俗が弥生時代後期おわりには衰退することを指摘した点は重要であろ

う。

松井章によると古墳時代～中世は，考古学的に確実だといえる動物祭祀には，馬や牛が利用されるようになるという［松井 1995・1999］。そして古墳時代の葬送儀礼に伴う馬の殉殺や，特に古代にみられる雨乞祭祀の方法としての「殺牛・殺馬」が国家の禁止令にもかかわらず，中世，近世にまで民間祭祀として存続するとしている。

原田信男は，日本社会における殺生観や，肉食忌避の歴史的変遷を文献史料から追求し，日本人のイメージの中に，肉食行為はマイナスのイメージが弥生時代末期にすでに存在したとする。その上で古墳時代以降，国家の成立に伴う稲作の重要性がまし，律令国家の成立以後，肉の禁忌が稲作の豊穣につながることが強調され，国家が水田稲作の推進を目的とした肉食禁止令へと発展し，仏教が決定的な肉食禁止の役割を果たすと主張する［原田 1993・1995・1997］。そして春成秀爾が引用した『魏志倭人伝』と同じ記事は，弥生時代の終わりに，肉食に対するマイナスのイメージが生まれたことを示していると主張する。では豚をどのような目的で飼っていたと解釈しているのだろうか。佐伯有清は，古代日本において，国家が猪飼部という部民まで設置して飼っていた猪をおそらく豚だと認めつつ，その目的は天皇の食膳に供することであったという［佐伯 1977］。

弥生時代には，大陸から水田稲作に伴って豚飼養と豚のまつりが共に日本列島に入ってきた。しかし豚または猪の下顎を用いたまつりは，弥生時代後期おわりに姿を消す。その後の日本古代に，祭祀の場において新たな豚の積極的な利用が認められない点から，弥生時代以後豚飼養は食料を主とした目的へと特化したと想定できないだろうか（表 3）。

（4）多様性と特化

弥生時代，豚は水田稲作とともに日本列島に伝わった。しかしその後，琉球列島を除く列島内では，中国の豚便所に象徴される多目的多利用型豚文化は成立しなかった。その要因の一つとして，まず糞尿に対する消極的な文化的態度そのものの存在を考慮する必要があろう。次に中国の豚文化は，農業・食料・祭祀儀礼など，豚という資源を多機能に使うことに特徴があった。それだけに人々の日常生活の一部にしっかりと組み込まれている。おそらく豚無くしては，漢人の生活文化自体が成り立たなかっただろう。

一方日本列島の豚は弥生時代以降特に奈良時代にはいると，おそらく飼養するための飼料コストの問題や，日本列島の水田稲作の特徴である他の生業を水田稲作自体が取り込む手段の進展と，それによるタンパク源の確保，仏教など新たな宗教観念の影響，肉食禁忌による国家的な米重視の政策など，豚飼養維持そのものに否定的な状況に直面する。ところが弥生時代以降，日本列島の人々は，豚を食料という家畜利用のもつ一つの側面にだけ飼養目的を特化させ，それ以外に価値をみいだせない資源に変化させてしまった。利用目的の多様性を失ったそのことが，豚飼養維持を困難にさせる外在的要因が働いたとき，豚放棄を選択させた要因ではなかったか。

日本列島における豚飼養衰退は，現象として奈良時代以降であるが，豚が列島の歴史上から退場する道はすでに弥生時代に準備され始めたと言えるのではなかろうか。

註

（1）――Ⅰ～Ⅴの5型式に分類する。本稿との対比は以下の通りである。

本稿での分類	張・笵の分類
豚舎型（円形） 豚舎型（方形） 豚舎屋根付型	Ⅴ型
便所豚舎分離型 便所豚舎内包型 便所豚舎隣接型	
便所下豚舎円形型a b 便所下豚舎方形型a b	Ⅰ型1式 Ⅰ型2式 Ⅱ型1式 Ⅱ型2式
豚便所男女別型 屋内豚便所内包型	Ⅲ型2式 Ⅲ型1式
高床家屋型a 高床家屋型b 高床家屋型c	Ⅳ

分類における相違は，張・笵の分類が，構造の形態に重点をおいている。本稿では，構造にも注目しつつ，人糞をどのように豚に与えるかが，分類の基本になっている。

（2）――『国語』は，西周の中期，ほぼ紀元前10世紀の穆王の時代から晋が三国に分裂（前453）するまでのことを記したものである。戦国時代中期から後期の儒家の一派が記したものであるとされる。

（3）――筆者はかつて，戚夫人が投げ込まれた豚便所を，便所下方形型の人糞落下式豚便所だと解釈した。しかし，今回の形式編年で明らかなように，華北において，便所下豚舎方形型は，前漢後期に出現するタイプである。戚夫人の豚便所は，陝西省西北国棉五場M95遺跡で出土した便所豚舎分離型であった可能性が高いと考えられる。

（4）――『墨子』53篇は，墨家の300年にわたる（前5世紀末～前122年）活動のなかで蓄積された理論と記録の全集。最終的な成立は前漢末の劉向の編纂にかかる。この記事が，どの年代なのかは不明である。

（5）――『史記』刺客列傳「趙襄子滅智伯，其臣豫讓遁逃山中，為報智伯及変姓名為刑人入宮，涂厠中，挾ヒ首欲以刺襄子」

（6）――『斉民要術』には，「ブタの糞がそれに混じり，ブタが転げ踏むことによって，よい肥料ができあがる」とある。前漢の農書である『氾勝之書』には「溷中の熟糞」のことが説かれている。これはブタの糞尿と人の糞尿を混ぜてよく腐熟させた肥料を指すといわれている。

（7）――武帝は，太初元年（前104年）柏梁台が消失すると上林苑内に健章宮を造営し，城濠をまたいで閣道によって未央宮と結んだ。閣道はおそらくこのような形態であったのだろう。

（8）――オードリクールに関しての引用は，すべて松井健の論文による。

引用・参考文献（論文関係）

安部きみ子　1996　『卑弥呼の動物ランドーよみがえった弥生犬ー』平成8年春季特別展，大阪府立弥生文化博物館
天野元之助　1962　『中国農業史研究』農業総合研究所
石毛直道・大塚　滋・篠田　統　1975　『食物志』中央公論社
石毛直道・和仁皓明編　1992　『乳利用の民族誌』雪印乳業株式会社健康生活研究所編
石野博信　1991　「民と王の狩猟儀礼」『考古学と生活文化』同志社大学考古学シリーズ刊行会
井上洋一　1990　「イノシシからシカへー動物意匠からみた縄文社会から弥生社会への変化」『国学院大学考古学資料館紀要』6
袁　靖　2000　「中国古代農耕社会における家畜の問題について」『第3回歴博国際シンポジウム　東アジアにおける農耕社会の形成と文明への道』国立歴史民俗博物館
扇崎　由・安川　満　1995　「岡山市南方（済生会）遺跡のイノシシ類下顎骨配列」『動物考古学』5　動物考古学研究会
岡村秀典　1999　「中国古代王権と祭祀」『考古学研究』46-2
金関丈夫　1975　「卜骨談義」『発掘から推理する』朝日選集20　朝日新聞社
金子浩昌　1984　『貝塚と獣骨の知識ー人と動物とのかかわりー』考古学シリーズ10，東京美術
金子浩昌・牛沢百合子　1986　「池上遺跡出土の動物遺存体」『池上・四ツ池遺跡第6分冊　自然遺物編，自然編』大阪文化財センター
神沢勇一　1990　「呪術の世界ー骨トのまつり」『弥生とまつり』六興出版
加茂儀一　1973　『家畜文化史』法政大学出版局

唐津市教育委員会　1982 『菜畑遺跡』唐津市文化財調査報告 5
金城　功　1987 「近世琉球の農書にあらわれた肥料について」『琉大史学』15
魏　達議・段　誠中　1986 「四川出土有関古代養猪的文物」『中国畜牧史料集』科学出版社
耕　隠　1986 「我国家畜閹割技術発展」『中国畜牧史料集』科学出版社
高　式武　1986 「我国猪的起源和馴化」『中国畜牧史料集』科学出版社
胡　厚宣　1955 「殷代農作施肥説」『歴史研究』1
胡　厚宣　1963 「殷代農作施肥説補証」『文物』1963-5
胡　厚宣　1981 「再論殷代農作肥問題」『社会科学戦線』13
黄　展岳　1998 「漢代諸侯王墓論述」『考古学報』1998-1
甲元眞之　1992 「長江と黄河－中国初期農耕文化の比較研究－」『国立歴史民俗博物館研究報告』40
佐伯有清　1997 「日本古代の猪養」『季刊どるめん』13
佐原　眞　1996 『食の考古学』東京大学出版会
四川省栄昌畜牧獣医学校編　1980 『養猪学』農業出版社
篠田　統　1974 『中国食物史』柴田書店
島根県教育委員会　1989 『朝酌川河川改修工事に伴う西川津遺跡発掘調査報告書Ⅴ』
島袋正敏　1989 『沖縄の豚と山羊－生活の中から－』おきなわ文庫 43，ひるぎ社
周　達生　1992 「中国雲南省の乳製品」『乳利用の民族誌』雪印乳業株式会社健康生活研究所編
孫　機　1991 『漢代物質文化資料図説』中国歴史博物館輯，文物出版社
武田雅哉　1997 「激動の近代中国」『歴博フォーラム　動物と人間の文化誌』国立歴史民俗博物館
田原本町教育委員会 1978 『昭和 52 年度唐古・鍵遺跡発掘調査概報』
中国社会科学院考古研究所編著　1984 「洛陽漢墓の発掘と編年」『新中国的考古発現和研究』文物出版社
中国社会科学院考古研究所山西工作隊　1980 「山西壌汾県陶寺遺趾発掘簡報」『考古』1980-1
張　仲葛　1979 「出土文物所見我国家猪品種的形成和発展」『文物』1979-1
張　建林・笵　培松　1987 「浅談漢代的厠」『文博』1987-4
張　寿祺　1986 「東漢時期南方地区家畜的飼養」『中国畜牧史料集』科学出版社
張　仲葛　1986 「中国古代人民怎様馴化野猪成為家猪」『中国畜牧史料集』科学出版社
塚本　学　1991 「生活をめぐる動物Ⅰ　豚にも歴史があります」『歴史と地理』430，山川出版社
土居淑子　1986 『古代中国の画象石』同朋舎出版
西本豊弘　1989a 「下郡桑苗遺跡出土の動物遺体」『下郡桑苗遺址』大分県文化財調査報告書 80
西本豊弘　1989b 「弥生時代のブタ」『季刊考古学』28
西本豊弘　1990 「弥生時代の家畜－ブタは農耕儀礼とともに渡ってきた－」『日本文化起源論』 歴史群像特別編集 学習研究社
西本豊弘　1992a 「下郡桑苗遺跡出土の動物遺体」『下郡桑苗遺跡Ⅱ』大分県文化財調査報告書 89
西本豊弘　1992b 「朝日遺跡の弥生時代のブタ」『朝日遺跡』自然遺物編，愛知県埋蔵文化財センター報告書 31
西本豊弘　1992c 「朝日遺跡の弥生時代のブタについて」『朝日遺跡Ⅱ』 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 12
西本豊弘　1993 「弥生時代のブタの形質について」『国立歴史民俗博物館研究報告』50
西本豊弘　1995 「縄文人と弥生人の動物観」共同研究「生命観－とくにヒトと動物との区別認識についての研究－」『国立歴史民俗博物館研究報告』61
西本豊弘・松井章　1999 『考古学と動物学』考古学と自然科学②，同成社
西山良平　1997 「平安京・中世京都のトイレと排泄」『歴博』85，国立歴史民俗博物館
根木修・湯浅卓雄・土肥直樹　1992 「水稲農耕の伝来と共に開始された淡水魚撈」『考古学研究』39-1
林　巳奈夫　1995 『石に刻まれた世界－画像石が語る古代中国の生活と思想－』東方選書 21，東方書店
原田信男　1993 『歴史のなかの米と肉』平凡社
原田信男　1995 「中世における殺生観の展開」共同研究「生命観－とくにヒトと動物との区別認識についての研究－」『国立歴史民俗博物館研究報告』61
原田信男　1997 「稲作文化と肉食禁忌」歴博フォーラム『動物と人間の文化誌』国立歴史民俗博物館編
春成秀爾　1991 「角のない鹿－弥生時代の農耕儀礼－」『日本における初期弥生文化の成立』横山浩一先生退官記念事業会
春成秀爾　1993 「豚の下顎骨懸架－弥生時代における辟邪の習俗－」『国立歴史民俗博物館研究報告』50

藤田和尊編　1992『奈良県御所市鴨都波12次概報』御所市文化財調査報告書12
藤田三郎編　1988『唐古・鍵遺跡第21・23次発掘調査概報』田原本町埋蔵文化財調査概要六　1988
マービン・ハリス　1990『ヒトはなぜヒトを食べたか－生態人類学から見た文化の起源－』早川書房
馬　孝劬「我国養猪業的幾個伝統特点」『中国畜牧史料集』科学出版社
松井　章　1995「古代・中世の村落における動物祭祀」共同研究「生命観－とくにヒトと動物との区別認識についての研究－」『国立歴史民俗博物館研究報告』61
松井　健　1995「分泌＝排泄物の文化地理学～オードリクール～」共同研究「生命観－とくにヒトと動物との区別認識についての研究－」『国立歴史民俗博物館研究報告』61
安室　知　1998『水田をめぐる民俗学的研究－日本稲作の展開と構造－』慶友社
八幡一郎　1980「魚伏籠」「魚伏籠後聞」『環太平洋考古学』八幡一郎著作集第5巻
山田幸一監修・遠州敦子著　1986『物語ものの建築史　便所の話』鹿島出版社
楊　詩興　1986「我国古代常用的家畜飼料及其調制法」『中国畜牧史料集』科学出版社
劉　敦愿　1986「我国舎飼養猪的起源問題」『中国畜牧史料集』科学出版社
劉　敦愿　1986「中国古代的養猪業－兼論農牧結合問題－」『中国畜牧史料集』科学出版社
崔寔著・渡部武訳註　1987『四民月令』東洋文庫467，平凡社
渡部忠世・桜井由躬雄編　1984「火耕水耨をめぐって－デルタの初期開拓－」『中国江南の稲作文化－その学際的研究－』日本放送出版協会
和仁皓明　1992「古代東アジアの乳製品」『乳利用の民族誌』雪印乳業株式会社健康生活研究所編

引用・参考文献（遺跡関係）

安徽省文化局文物工作隊・寿県博物館　1996「安徽寿県茶菴馬家古堆東漢墓」『考古』1966-3
安徽省文物考古研究所　1986「安徽馬鞍山市佳山東呉墓清理簡報」『考古』1986-5
安徽省文物工作隊・蕪湖市文化局　1983「蕪湖市賀家園西漢墓」『考古学報』1983-3
安徽省文物工作隊・和県文物組　1984「安徽和県西晋紀年墓」『考古』1984-9
安吉県博物館　1995「浙江安吉天子崗漢晋墓」『文物』1995-6
雲梦県博物館　1984「湖北雲梦癇癇墩一号墓清理簡報」『考古』1984-7
益陽地区文物工作隊　1984「益陽羊舞嶺戦国東漢墓清理簡報」『湖南考古輯刊』2
偃師商城博物館　1992「河南偃師東漢姚孝経墓」『考古』1992-3
王　世振・王　善才　1993「湖北随州東城区東漢墓発掘報告」『文物』1993-7
華東文物工作隊山東組　1954「山東沂南漢画像石墓」『文物参考資料』1954-8
河南省南陽地区文物研究所　1990「新野樊集漢画像磚墓」『考古学報』1990-4
河南省博物館　1973「済源泗澗沟三座漢墓的発掘」『文物』1973-2
河南省博物館　1975「霊宝張湾漢墓」『文物』1975-11
河南省文化局文物工作隊　1959「河南禹県白沙漢墓発掘報告」『考古学報』1959-1
河南省文化局文物工作隊　1960「鄭州南関159号漢墓的発掘」『文物』1960-8
河南省文化局文物工作隊　1963「河南南陽楊官寺漢画象石墓発掘報告」『考古学報』1963-1
河南省文化局文物工作隊　1964「河南桐柏万崗漢墓発掘」『考古』1964-8
河南省文物研究所　1983「洛陽金谷園車站11号墓発掘簡報」『文物』1983-4
河南省文物研究所　1985「禹県東十里村東漢漢画像石墓発掘簡報」『中原文物』1985-3
河南省文物局文物工作隊　1960「河南栄陽河王水庫漢墓」『文物』1960-5
河北省文化局文物工作隊編　1959『望都二号漢墓』文物出版社
河北省文物研究所・邢台地区文物管理所　1992「河北沙河興固漢墓」『文物』1992-9
広東省博物館・博羅県博物館　1993「広東博羅県福田鎮東漢墓発掘簡報」『考古』1993-4
広東省博物館・順徳県博物館　1991「広東順徳県漢墓的調査和清理」『文物』1991-4
鄂州博物館・湖北省文物考古研究所　1998「湖北鄂州鄂鋼飲料場一号墓発掘報告」『考古学報』1998-1
邱　学軍　1994「四川峨眉山市東漢墓」『考古』1994-6
金華地区文管会　1984a「浙江常山県何家西晋紀年墓」『考古』1984-2
金華地区文管会　1984b「浙江金華古方六朝墓」『考古』1984-9

銀雀山考古発掘隊　1999 「山東臨沂市銀雀山的七座西漢墓」『考古』1999-5
宜昌地区博物館・宜都県文化館　1987 「湖北宜都県劉家屋場東漢墓」『考古』1987-10
高　至喜　1959 「談談湖南出土的東漢建築模型」『考古』1959-11
広州市文管会　1958 『広州出土漢代陶屋』文物出版社
広州市文物管理委員会・広州市博物館　1981 『広州漢墓』文物出版社
江西省博物館　1974 「江西瑞昌馬頭西晋墓」『考古』1974-1
広西省文物管理委員会　1957 「広西貴県漢墓的清理」『考古学報』1957-1
広西壮族自治区文物工作隊　1985 「広西貴県北郊漢墓」『考古』1985-1
広西壮族自治区文物工作隊　1998 「広西北海市盤子嶺東漢墓」『考古』1998-11
広西文物工作隊・合浦県博物館　1998 「広西合浦県母猪嶺東漢墓」『考古』1998-5
江蘇省文物管理委員会・南京博物院　1966 「江蘇徐州十里鋪漢画象石墓」『考古』1966-2
衡陽市博物館　1986 「湖南衡陽茶山坳東漢至南朝墓的発掘」『考古』1986-12
衡陽市文物工作隊　1993 「湖南衡陽市鳳凰山漢墓発掘簡報」『考古』1993-3
衡陽市文物工作隊　1994 「湖南衡陽市郊新安郷東漢墓」『考古』1994-3
湖南省博物館・益陽県文化館　1981 「湖南益陽戦国両漢墓」『考古学報』1981-4
湖南省博物館　1982 「湖南郴州市郊東漢墓発掘簡報」『考古』1982-3
湖南省博物館・湖南省文物考古研究所　1995 「湖南資興西漢墓」『考古学報』1995-4
湖南省文物管理委員会　1956a 「耒陽西郊古墓清理簡報」『考古通訊』1956-1
湖南省文物管理委員会　1956b 「耒陽花石坳的漢魏墓葬」『考古通訊』1956-2
湖南省文物管理委員会　1956c 「湖南耒陽東漢墓清理簡報」『考古通訊』1956-4
湖南省文物管理委員会　1958 「湖南長沙南塘冲古墓清理簡報」『考古通訊』1958-3
湖南省文物考古研究所・湘西自治州文物工作隊・大庸市文物管理所　1994 「湖南大庸東漢磚室墓」『考古』1994-12
湖北省博物館　1976 「宜昌前坪戦国両漢墓」『考古学報』1976-2
湖北省文物管理委員会　1966 「湖北随県唐鎮漢魏墓清理」『考古』1966-2
合浦県博物館　1995 「広西合浦県豊門嶺10号漢墓発掘簡報」『考古』1995-3
済南市文化局文物處　1988 「山東済南青龍山漢画像石壁画墓」『考古』1988-11
済寧市博物館　1994 「山東済寧発現一座東漢墓」『考古』1994-2
済寧市文物管理所　1999 「山東済寧市肖王庄一号漢墓」『考古学集刊』12
索　全星　1995 「河南焦作白庄6号東漢墓」『考古』1995-5
山東省博物館　1963 「山東滕県柴胡店漢墓」『考古』1963-8
山東省博物館　1966 「山東東平王陵山漢墓清理簡報」『考古』1966-4
山東省文物考古研究所魯中南考古隊・滕州市博物館　1999 「山東滕州市官橋車站村漢墓」『考古』1999-4
山東省文物考古研究所　1999 「山東臨淄金嶺鎮一号漢墓」『考古学報』1999-1
泗水県文官所　1995 「山東泗水南陳東漢画像石墓」『考古』1995-5
周口地区文化局文物科・淮陽太昊陵文物保管所　1983 「淮陽于庄漢墓発掘簡報」『中原文物』1983-1
朱　献雄　1992 「安徽青陽県清理一座西晋残墓」『考古』1992-11
朱　土生　1993 「浙江龍游県東華山漢墓」『考古』1993-4
新郷市博物館　1990 「河南新郷五陵村戦国両漢墓」『考古学報』1990-1
嵊県文管会　1988 「浙江嵊県六朝墓」『考古』1988-9
常州市博物館・金壇県文管会　1989 「江蘇金壇県方麓東呉墓」『文物』1989-8
襄樊市博物館　1993a 「湖北襄樊市両座東漢墓発掘」『考古』1993-5
襄樊市博物館　1993b 「湖北襄樊市区東漢墓発掘簡報」『考古与文物』1993-4
襄樊市博物館　1996 「湖北襄樊市余崗戦国至東漢葬発掘報告」『考古学報』1996-3
襄樊市博物館　1997 「湖北襄樊市毛紡場漢墓清理簡報」『考古』1997-12
除州市博物館　1992 「江蘇銅山県荆山漢墓発掘報告」『考古』1992-12
除州博物館　1993 「除州市東郊陶楼漢墓清理簡報」『考古』1993-1
除州博物館　1984 「除州石橋漢墓清理報告」『文物』1984-11
除州博物館　1995 「江蘇銅山県李屯西漢墓清理簡報」『考古』1995-3
徐　定水・金　柏東　1988 「浙江平陽発現一座晋墓」『考古』1988-10

石家荘市分物保管所　1984　「石家荘北郊東漢墓」『考古』1984-9
陝西省文物管理委員会　1961　「潼関吊橋漢代楊氏墓群発掘簡記」『文物』1961-1
陝西省文物管理委員会　1987　「晋南曲沃蘇村漢墓」『文物』1987-6
棗庄市文物管理站　1986　「山東棗庄南常漢画像石墓」『考古与文物』1986-1
棗庄市文物管理委員会辦公室・棗庄市博物館　1997　「山東棗庄小山西漢画像石墓」『文物』1997-12
浙江省文物管理委員会・浙江省博物館　1978　「河姆渡遺址第一期発掘報告」『考古学報』1978-1
蘇　希聖・李　瑞鵬　1990　「安徽寿県出土的両件漢代緑釉陶模型」『文物』1990-1
中国科学院考古研究所　1956　『輝県発掘報告』中国田野考古報告集第一号
中国社会科学院考古研究所洛陽唐城隊　1991　「1984至1986年洛陽市区漢晋墓発掘簡報」『考古学集刊』第七集
中国社会科学院考古研究所河南第二工作隊　1985　「河南偃師杏園村東漢壁画墓」『考古』1985-1
中国社会科学院考古研究所山西工作隊・山西省臨汾地区文化局　1986　「陶寺遺址1983～1984年Ⅲ区居住址発掘的主要収穫」『考古』1986-9
長沙市文物工作隊　1984　「長沙県北山区東漢磚室墓清理記」『湖南考古輯刊』3
沈　作霖　1991　「浙江紹興鳳凰山西晋永嘉七年墓」『文物』1991-6
鄭州市博物館　1985　「鄭州市乾元北街空心画像磚墓」『中原文物』1985-1
東北博物館　1957　「遼陽三道壕西漢村落遺址」『考古学報』1957-1
南京市博物館　1987　「南京獅子山，江寧索野西晋墓」『考古』1987
南京市博物館・江寧博物館　1999　「南京市東善橋“鳳凰三年”東呉墓」『文物』1999-4
南京博物院　1981　「江蘇邗江甘泉二号漢墓」『文物』1981-11
南京博物院　1985　「江蘇江寧県張家山西晋墓」『考古』1985-10
南京博物院・山東省文物管理処　1956『沂南古画像石墓発掘報告』文化部文物管理処
南陽市博物館　1982　「南陽県趙寨磚瓦廠漢画像石墓」『中原文物』1982-1
南陽市文物研究所　1996　「河南省南陽県辛店郷熊営画像石墓」『中原文物』1996-3
南陽地区文物工作隊・新野県文化館　1985a　「新野県前高廟村漢画像石墓」『中原文物』1985-3
南陽地区文物工作隊・唐河県文化館　1985b　「唐河県湖陽鎮漢画石墓清理簡報」『中原文物』1985-3
南陽博物館　1982　「河南南陽石橋漢画像石墓」『考古与文物』1982-1
半坡博物館・陝西省考古研究所・臨潼県博物館　1988『姜寨－新石器時代遺址発掘報告－』文物出版社
微山県文物管理所　1995　「山東微山県墓前村西漢墓」『考古』1995-11
微山県文物管理所　1998　「山東微山県漢画像石墓的清理」『考古』1998-3
呼　林貴・侯　寧彬・李　恭　1991　「西北国棉五場95号発掘簡報」『考古与文物』1991-4
武漢市博物館　1991　「武漢黄陂滠口古墓清理簡報」『文物』1991-6
北京市文物管理処　1977　「北京順義臨河村東漢墓発掘簡報」『考古』1977-6
北京市文物工作隊　1962a　「北京懐柔城北東周両漢墓葬」『考古』1962-5
北京市文物工作隊　1962b　「北京市平谷県西柏店和唐庄子漢墓発掘簡報」『考古』1962-5
揚州市博物館　1991　「江蘇邗江県甘泉老虎墩漢墓」『文物』1991-10
羅　敦静　1956　「湖南資興県発現漢墓発掘簡報」『文物参考資料』1956-2
洛陽市第二文物工作隊　1994　「洛陽苗南新村528号漢墓発掘簡報」『文物』1994-7
洛陽市文物工作隊　1983　「洛陽金谷園車站11号漢墓発掘簡報」『文物』1983-4
洛陽市文物工作隊　1997a　「河南洛陽市東漢孝女黄晨，黄芍合葬墓」『考古』1997-7
洛陽市文物工作隊　1997b　「洛陽李屯漢元嘉二年墓発掘簡報」『考古与文物』1997-2
洛陽市文物工作隊　1999　「洛陽発掘的四座東漢玉衣墓」『考古与文物』1999-1
洛陽区考古発掘隊　1959　『洛陽焼溝漢墓』考古学専干丁種6号
羅　宗眞　1957　「江蘇宜興晋墓発掘報告」『考古学報』1957-4
李　蔚然　1963a　「南京高家山的六朝墓」『考古』1963-2
李　蔚然　1963b　「南京南郊六朝墓葬清理」『考古』1963-6
李　正光・彭　青野　1957　「長沙沙湖橋一帯古墓発掘報告」『考古学報』1957-4
遼寧省文物考古研究所・朝陽市博物館　1998　「遼寧朝陽北朝及唐代墓葬」文物1998-3
臨汾地区文化局・曲沃県文化館　1987　「晋南曲沃蘇村漢墓」『文物』1987-6

不明　「湖南長沙出土的漢代緑釉陶猪圏」『文物参考資料』1954-9

（国立歴史民俗博物館考古研究部）

（2000年5月17日　審査終了受理）

Bulletin of the National Museum of Japanese History
vol.90 March 2001

The Toilet Pigsty

NISHITANI Masaru

The toilet pigsty is the barn juxtaposed with the toilet, where pigs are fed and raised with the human body waste. This paper makes the following points clear from the analysis of the grave goods of pigsty shape; their distribution is not even and the circumstances of existence differ from place to place. The toilet pigsty was first established around the middle and low reaches of the Hwanhe (the Yellow River) in China, aiming primarily to reduce the cost of livestock feed by keeping pigs in the toilet shed inside the house. This was a result of internalization of stock-farming by agriculture of the Warring State period. The production of pig manure is another important function of the pigsty and the author of this paper assumes that the dung production and its manuring to the farming land were quite probably united positively in the latter half of the Later Han period. The existence of the toilet pigsty needed a cultural attitude which could accept the human body waste as livestock feed and its remote grounds should have been in the process of domestication of the pig.

The toilet pigsty established in the middle and low reaches of the Hwanhe, spread to peripheral regions, and its diffusion to the wet-field rice cultivating regions along the Changjiang (the Yangtze River) owed a lot to dung manuring of the wet field. On the other hand, the form of acceptance of the toilet pigsty around Guanzhou region in South China was forcible with the mass emigration of people who bore the tradition of the toilet pigsty in North China, and it aimed at raising pigs in the inner part of the city. As it has been said, the acceptance of the toilet pigsty varied in different localities in China itself. The pig raising in China not only formed a biogeocenotic system organically united with agriculture by the means of human body waste feed, animal dung and manuring, but also developed a multi-purpose and multi-faceted pig culture complicatedly united with religious rites and festivals.

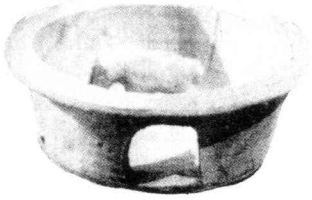
The Japanese archipelago did not accept the Chinese pig culture; we can point out as one of its reasons that there existed a negative cultural attitude toward the use of excretions. In the Japanese archipelago, the Chinese pig raising for food and festivals should have been specialized mainly for the purpose of getting food. The various external negative factors such as the high cost, religious influence and the national policy putting great importance on rice might have led the

pig raising with only one purpose on the decline, losing the impetus of raising pigs.

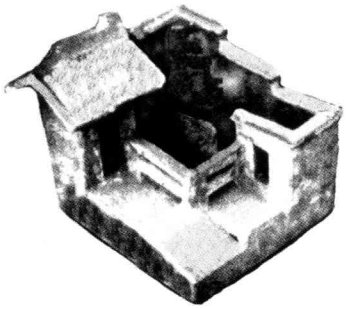
Grave goods in the shape of the toilet pigsty are excavated in various places in China from graves of the Han period, and are known to be widely distributed. In this paper, such grave goods are collected and the reason and process of the existence of the toilet pigsty will be examined, and the conditions of its spreading and acceptance in various places will be surveyed considering its implication.

The pig was introduced into the Japanese islands in the Yayoi period with the wet-field rice cultivation, but it disappeared after the Nara period. In China, the pig has held an important position among the domestic animals up to the present, and it accounts for about 80 percent of the meat consumption according to recent statistics. In the Japanese islands, except Ryukyu islands, why did the pig raising disappear? The relation between the human being and the pig, examined by the study of the toilet pigsty in the Han period in China, would give us some clues to consider the pig raising in the Japanese archipelago.

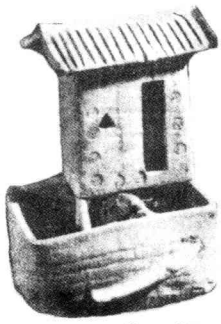
河北・山西省



1　山西・晋南曲沃蘇村
豚舎型方形（後漢後期）

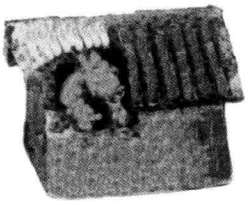


2　河北・望都M２
豚便所男女別ａ型（後漢後期）

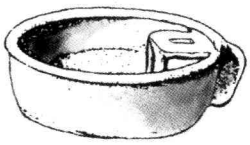


3　河北・平谷
便所下豚舎方形ａ型（後漢後期）

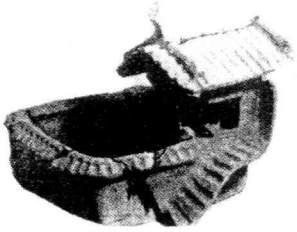
安徽省



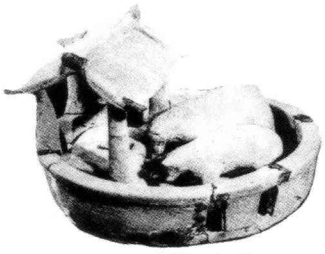
4　安徽・蕪湖賀家園M１
豚舎屋根付型（前漢後期）



5　安徽・寿県茶菴馬家
便所下豚舎方形ａ型
（後漢後期）

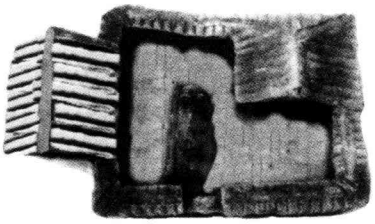


6　安徽・寿県茶菴馬家
便所下豚舎方形ａ型（後漢後期）

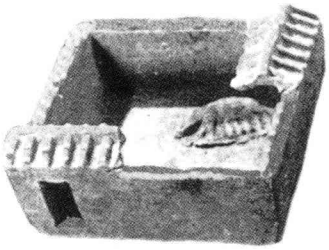


7　安徽・和県
便所下豚舎方形ａ型（西晋）

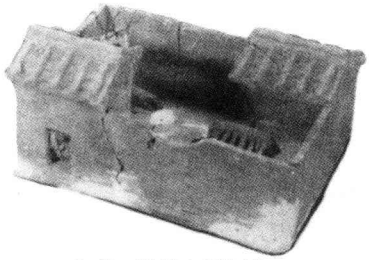
山東・江蘇省北部



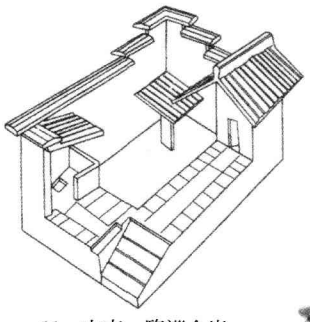
8　山東・棗庄小山M２
便所豚舎隣接型（後漢中期）



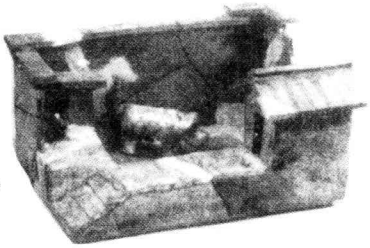
9　江蘇・銅山荆山
便所豚舎内包型（前漢中期）



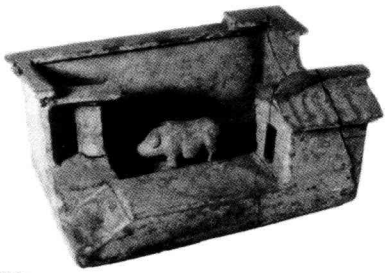
10　江蘇・除州東郊陶楼M３
便所豚舎内包型（後漢中期）



11　山東・臨淄金嶺
豚便所男女別ａ型
（後漢前期）



12　山東・東平王陵山
豚便所男女別ａ型（後漢中期）



13　山東・済寧越河北路
豚便所男女別ａ型（後漢中期）

14　江蘇・徐州十里鋪
便所下豚舎方形ｂ型
（後漢後期）

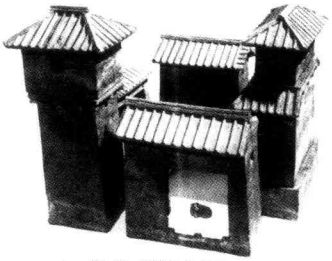
写真１　河北・山西・山東・江蘇省北部の豚便所

前漢

1　新野樊集M 16
便所豚舎隣接型（前漢後期）

2　新野樊集M 19
便所豚舎隣接型

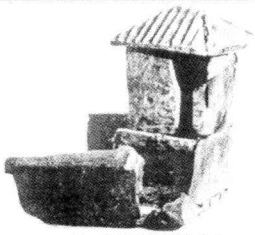
3　新野樊集M 33，便所豚舎隣接型
（前漢後期）



4　鄭州南関M 159
便所下豚舎方形ａ型（前漢後期）

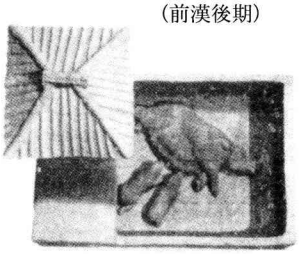
5　新野樊集M 25，便所豚舎内包型
（前漢後期）

6　新野樊集M 37，便所下豚舎方形ａ型
（前漢後期）



7　桐柏万崗M 9
便所下豚舎方形ａ型（後漢前期）

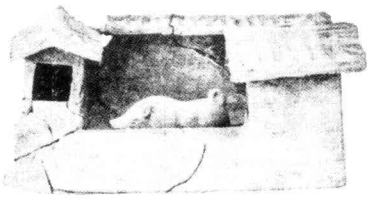
8　済源泗沟M 8
便所下豚舎方形ａ型
（前漢後期）



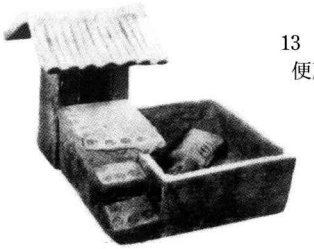
後漢

9　洛陽焼溝M 1037
便所下豚舎方形ｂ型
（後漢中期～後期）

10　洛陽苗南新村M 528
（後漢中期～後期）

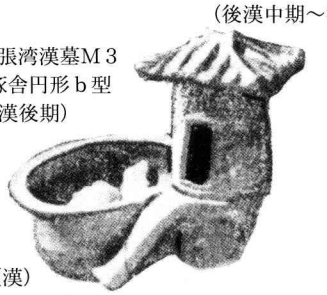


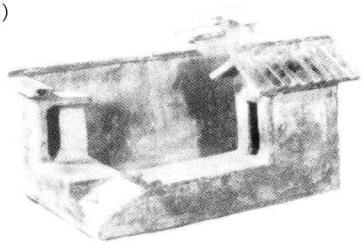
11　洛陽焼溝M 1036
豚便所男女別型（後漢中期～後期）



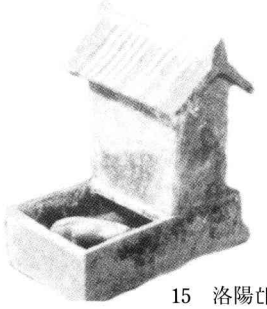
12　瑠璃閣M 216，便所下豚舎方形ｂ型（漢）

13　霊宝張湾漢墓M 3
便所下豚舎円形ｂ型
（後漢後期）





14　洛陽邙山M 50 号，豚便所男女別ａ型
（後漢中期）



15　洛陽邙山M 88
便所下豚舎方形ａ型（西晋）

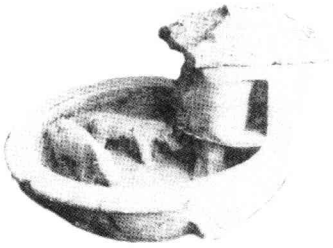
16　洛陽焼溝M 1008
便所下豚舎方形型
（後漢中期～後期）

17　新郷五陵村M 91
便所下豚舎方形ａ型
（後漢後期）

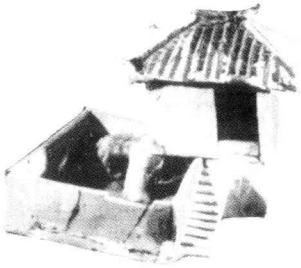
写真２　河南省出土の豚便所

湖北省

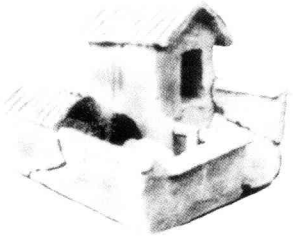
1　襄樊毛紡場M４
豚舎屋根付型（前漢後期）



2　武漢黄陂灄口
便所下豚舎円形ａ型（呉末～晋初）

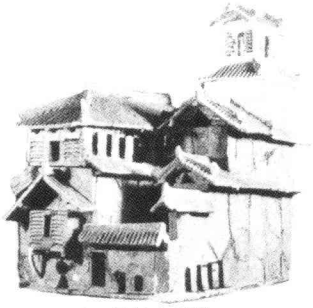


3　鄂州鄂鋼飲料場M１
便所下豚舎方形ａ型（呉）



4　襄樊余崗M 45
便所下豚舎方形ｂ型（漢）

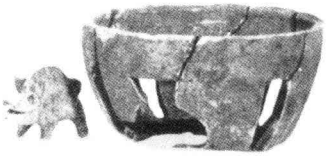
5　襄樊余崗M 45（漢）
豚舎屋根付型



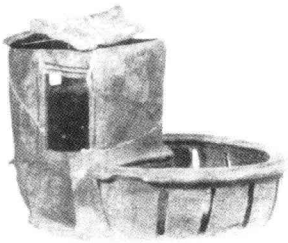
6　雲梦痢痢墩M１
便所下豚舎方形ｂ型（後漢後期）

湖南省

7　大庸M９
豚舎型（後漢中期）

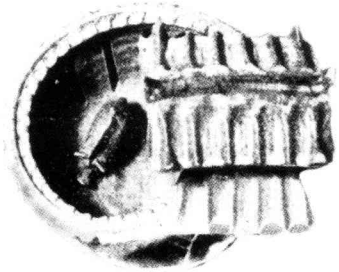


8　長沙沙湖橋MＦ１，豚舎型（後漢）

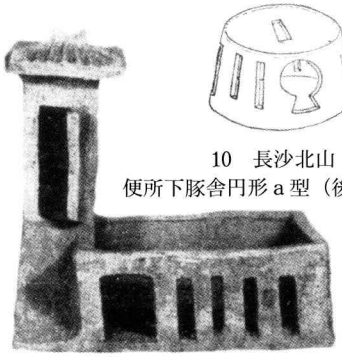


9　長沙沙湖端MＡ 41
便所下豚舎円形ａ型（後漢）

10　長沙北山
便所下豚舎円形ａ型（後漢後期）

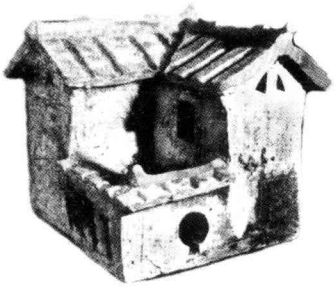


11　長沙小林子冲M３
便所下豚舎円形ａ型（後漢）

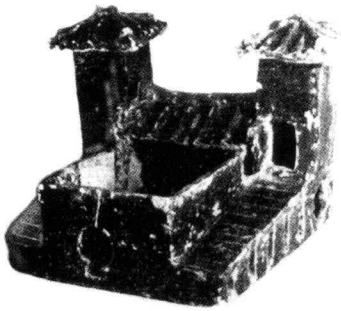


12　長沙黒糟門M１，便所下豚舎方形ｂ型（後漢）

13　長沙北山
便所下豚舎円形ａ型（後漢後期）



14　長沙月亮山M 28
高床家屋ａ型（後漢）

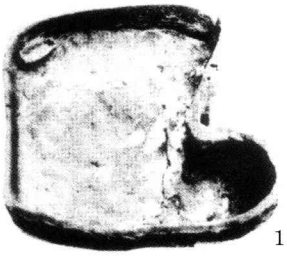


15　長沙長沙伍家嶺M１
豚便所男女別ｂ型（後漢）

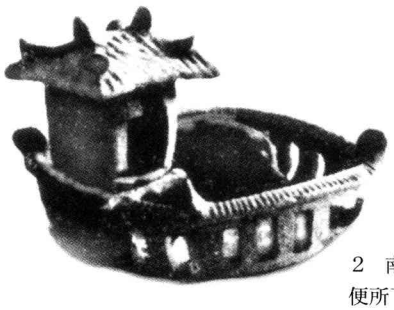
16　長沙月亮山M６
便所下豚舎円形ａ型（後漢）

写真３　湖南・湖北省出土の豚便所

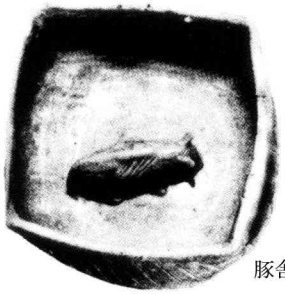
江蘇省・南京・常州市周辺



1　江蘇・金壇方麓
豚舎型
（豚舎内便所型？）
（呉，260 年）



2　南京・南郊M２
便所下豚舎円形ａ型
（西晋）



3　南京・周辺
豚舎型（方形）（西晋）

4　南京・高家山
豚舎型（円形）（西晋）

浙江省

5　平陽横河
豚舎型（円形）（西晋）

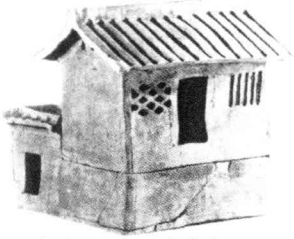
6　金華古方M 30
豚舎型（円形）（西晋）

江西省

7　瑞昌馬頭
豚舎型（円形）（西晋）

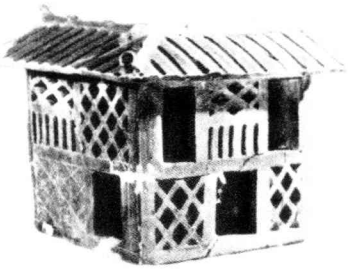
写真４　江蘇省，南京常州周辺と江西省の豚便所

前漢中期〜後期



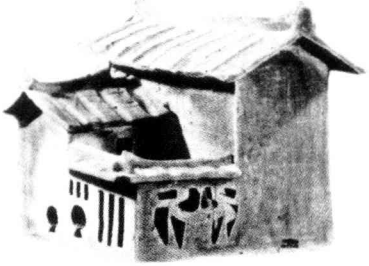
1　広州M 2048，高床家屋ａ型（中期）

2　広州M 3030，高床家屋ａ型（後期）



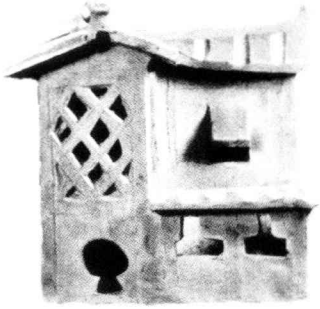
3　広州M 3031，高床家屋ａ型（後期）

後漢前期



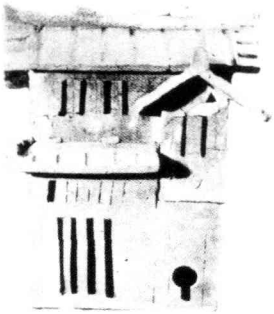
4　広州M 4006，高床家屋ｂ型

5　広州M 4007，高床家屋ｃ型（楼閣式）

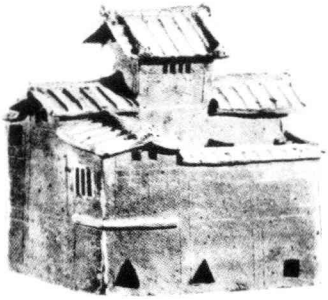


6　広州M 4022，高床家屋ｂ型

7　広州M 4015，高床家屋ａ型



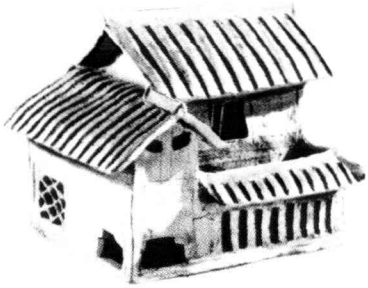
8　広州M 4004，高床家屋ａ型



9　広州M 4024，高床家屋型ｃ（楼閣式）

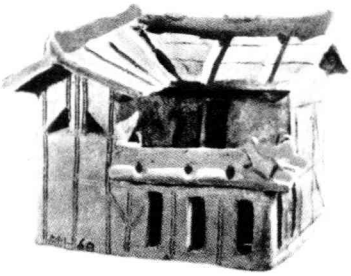
後漢後期

10　広州M 5032，高床家屋ｂ型

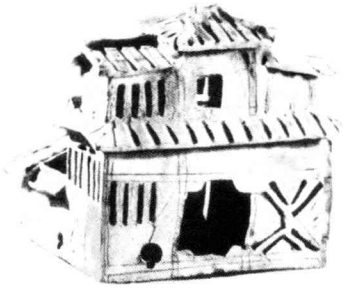


11　広州M 5008，高床家屋ｂ型

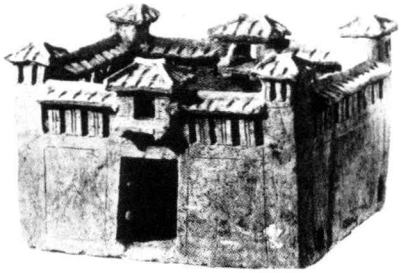
12　広州M 5007，高床家屋ｃ型（楼閣式）



13　広州M 5036，高床家屋ｂ型



14　広州M 5082，高床家屋ｂ型



15　広州M 5043，高床家屋ｂ型（城堡式）

写真５　広東省広州漢墓の豚便所